ニ菊松ヲ證人トシテ宣誓セシメタルハ公判手續ニ違法アルモノニシテ且ツ證人資格ナキ菊松ヲ事實參考トシテノ供述ヲ有力ナル證人ノ言ナリトシテ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ不法ノ判決ト云ハサル可カラスト云フニ在レトモ○或ル公訴事件ニ付キ被告人ト爲リタル者免訴ノ決定又ハ判決ヲ受ケタルトキハ最早被告人ト稱スヘキモノニアラス從テ刑事訴訟法第百二十三條ニ所謂被告人ニ該當セサルヲ以テ其免訴ノ後ニ其者ノ親族タル身分關係アル者ト雖モ證人トシテ之ヲ訊問スルコトハ毫モ妨ケナキモノトス而シテ所論室井房吉ハ本件ノ共犯者トシテ訴追セラレタルモノナレトモ所論室井菊松カ第一審ニ於テ證人トシテ訊問セラレタル前既ニ豫審免訴ノ決定ヲ受ケタルモノナレハ右菊松ハ縱シ房吉ノ親族ナリトスルモ證人タル資格ヲ有スルモノナルヲ以テ第一審裁判所カ同人ヲ證人トシテ訊問シタルハ違法ニアラス從テ證言證據トシテ右同人ノ第一審廷ニ於ケル供述ヲ罪證ニ供シタル原判決モ亦違法ニアラサルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

◉強盜傷人事件

明治四十二年(れ)第四七三號　明治四十二年五月十一日宣告　(棄却)

判決要旨

一、人ニ暴行ヲ加フヘキコトヲ敎唆シタル者ハ被敎唆者カ暴行ヲ加フルニ當リ他人ヲ毆傷シタル罪責ニ付テモ其ノ責任ヲ辭スルコトヲ得ス

第一審　福島地方裁判所　第二審　宮城控訴院

被告人　近藤文吉　辯護人　花井卓藏　藤澤幾之輔　高木益太郎

右强盜傷人被告事件ニ付明治四十二年二月二十二日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人花井卓藏藤澤幾之輔上告趣意書第一點、原判決ハ「被告文吉ハ茲ニ該馬匹ヲ佐重ヨリ强取セント企圖シ情ヲ知ラサル自己ノ長男ニシテ原審ノ相被告タリシ近藤英藏ニ命スルニ暴力ヲ以テ之ヲ牽來ルヘキコトヲ以テシ同年八月二十五日共ニ佐重方ニ至リ英藏ハ土足ニテ座敷ニ上リ突然佐重ヲ足蹴ニシ且携ヘ行キタル押收ノ鉈ヲ揮ヒテ同人ノ左手掌及小指ヲ毆傷シ云云」ト判示セリ此認定事實ニ依レハ佐重ヲ毆傷シタルハ被告ニ非スシテ被告ノ長男英藏ナルコト明白ナルノミナラス被告ハ英藏ニ命スルニ暴力ヲ以テ佐重方ヨリ馬匹ヲ牽來ルヘキコトヲ以テシタルニ止マリ佐重ヲ毆傷セシハ被告ノ指揮ニ基クモノニ非サル事實モ亦明白ナレハ被告ハ決シテ强盜傷人ノ責ニ任スヘキモノニ非ス然ルニ舊刑法第三百八十條刑法第二百四十條ニ問擬シタル原判決ハ理由不備若クハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在リ

暴行ノ敎唆

然レトモ原判決ニ依レハ被告ハ其長男英藏ニ命スルニ被告カ菊地佐重ト交換ノ上同人ニ引渡ヲ了シタル青色牝馬一頭ヲ暴力ヲ以テ牽來ルヘキコトヲ以テシタルモノナレハ其命ニ基キ菊地佐重ニ對シ英藏カ加ヘタル暴力ノ結果ニ付テハ被告ニ於テ刑事上ノ責ヲ免レ得サルモノトス而シテ被告ハ英藏ニ對シ特ニ佐重ヲ毆傷スヘシトノ指揮ヲ爲シタルモノニアラスト雖モ既ニ暴行ヲ加フヘキコトヲ命シタル以上ハ場合ニ依リ毆傷ノ結果ヲ生スルコトアルヘキハ被告ニ於テ豫見セシ所ト云ハサルヘカラサルヲ以テ本趣意ハ理由ナシ

◉毆打創傷事件　明治四十二年(れ)第四九四號　明治四十二年六月七日判決（棄却）

判決要旨

一、教唆者カ犯罪實行ニ加擔シタルトキハ教唆ノ所爲ト實行ノ所爲トヲ比照シ其ノ重キニ從テ處斷ス

評論

法理ヲ疎外シテ一ニ便宜ニ據ル之ヲ以テ大審院ノ特色ナリト云ハヽ本件ノ判旨固ヨリ間然スル所ナキモ苟モ法理ヲ發輝シテ擬律ノ模範ヲ天下ニ示スヲ以テ職司トナサハ斯ル判決ハ實ニ誤謬ノ甚シキモノニシテ刑法若シ靈アラハ其ノ論據ノ不明ナルニ一驚ヲ喫セン嗚呼大審院齊々タル多士夫レ亦タ老タル哉

教唆者カ犯罪實行ニ加擔シタルトキハ如何ニ處分スヘキカ

教唆ヲ以テ造意ノ本人トナシ正犯ヲ以テ犯行ノ本人トナス即チ教唆者ハ犯意ヲ擔任シ正犯者ハ行爲ヲ擔任スト云フカ如キ觀念ハ已ニ業ニ腐說ニ屬シ現時亦タ之ヲ顧ルモノナシ教唆者ハ教唆者夫レ自體ニ犯意アリ且ツ犯行アルナリ正犯者モ亦タ單ニ行爲ノ本人ニアラスシテ正犯者ハ正犯者自體ニ犯意アリ犯行アルナリ若シ論者ノ說ノ如クンハ教唆者ハ唯犯意ノミアリテ犯行ナク正犯者ハ唯犯行ノミアリテ犯意ナキモノト云ハサル可ラサルニ至ラン夫レ刑法人ヲ罰スルヤ犯

也。豈。ス。分。シ。規。法。得。ノ。セ。以。モ。ル。件。犯。
矣。ニ。然。拆。タ。定。理。ス。命。ハ。上。ノ。ヲ。ニ。ノ。
法。ル。ニ。従。ト。ル。ア。上。ス。之。說。ニ。見。槩。成。
理。ニ。従。ト。ル。二。ル。レ。明。非。テ。ラ。立。
ノ。大。ヒ。キ。ト。罪。所。則。ノ。ス。直。シ。ヲ。
分。審。二。之。キ。ア。被。チ。如。ト。チ。メ。待。
析。院。罪。ヲ。ハ。リ。告。一。ク。論。ニ。タ。ツ。
ヲ。ノ。ヲ。一。之。ト。ノ。罪。ナ。斷。敎。ル。所。
誤。判。以。罪。レ。難。處。ノ。ル。ス。唆。ニ。以。
ル。決。テ。ニ。モ。爲。犯。以。ル。罪。過。ノ。
ノ。故。間。包。從。法。ハ。行。上。カ。ノ。キ。モ。
甚。ニ。擬。括。フ。文。正。ヲ。ハ。如。成。ス。ノ。
シ。出。セ。ス。ハ。ヲ。ニ。ス。ル。ニ。遂。敎。キ。立。シ。ハ。
キ。テ。サ。ヘ。勿。以。敎。ク。唆。ハ。ハ。テ。只。
モ。ス。ル。キ。論。テ。及。ル。カ。世。行。唆。事。
ノ。之。可。ノ。ナ。之。ヒ。後。人。擧。正。罪。政。
ニ。ヲ。ラ。法。リ。ヲ。實。更。ヲ。者。犯。ノ。策。
ア。一。サ。文。ト。一。行。ヲ。敎。ノ。ノ。處。上。
ラ。罪。ル。ヲ。難。罪。行。ラ。敎。ノ。ノ。正。ニ。唆。採。成。罰。之。
ス。ニ。コ。見。モ。ニ。正。ニ。唆。採。成。罰。之。
シ。間。サ。敎。併。犯。他。シ。ラ。立。カ。ラ。
テ。擬。一。ル。唆。合。シ。ラ。立。カ。ノ。
何。ス。點。我。及。シ。ノ。罪。實。後。所。ニ。正。ル。
ソ。ル。疑。カ。ヒ。一。二。ノ。罪。實。後。所。ニ。正。ル。
ヤ。ノ。ヲ。刑。實。罪。ア。行。其。ナ。ア。犯。ノ。
是。判。捕。法。行。ト。ル。シ。ノ。リ。ラ。ノ。時。
レ。決。ム。ノ。正。シ。モ。タ。實。已。ス。成。期。
余。ア。ノ。本。犯。テ。ノ。ル。行。ニ。ン。立。ア。
ノ。敢。余。ニ。ア。罰。ル。ニ。敎。ハ。ア。實。
許。下。地。在。一。ス。ト。ニ。ス。等。ハ。ナ。カ。之。存。
說。ス。大。テ。人。ヘ。キ。論。ノ。加。唆。其。其。行。
ア。ル。キ。ハ。ニ。（例照ヘ）斷。ニ。擔。罪。ノ。ノ。犯。
ル。ハ。ア。法。テ。ノ。ル。ノ。ハ。無。セ。シ。ノ。之。條。成。
所。是。確。理。兼。（如屋ノ内）ン。犯。ル。法。テ。立。ヒ。件。立。
以。ニ。信。ノ。行。ノ。ル。ア。ア。理。サ。テ。タ。成。レ。件。立。
ア。ト。ノ。ア。ト。ノ。ル。ス。條。

敎。決。リ。如。ヲ。尙。者。ハ。敎。其。メ。シ。敎。テ。レ。意。
法。唆。シ。犯。斯。指。ホ。ノ。固。唆。ノ。ニ。敎。唆。罰。ニ。及。
理。的。テ。行。敎。ス。明。意。ト。者。目。或。（敎唆ト欲ス者ルカ）者。ス。伴。ヒ。
上。行。二。ア。唆。モ。カ。思。敎。ノ。的。ハ。犯。
質。爲。者。リ。者。ノ。也。ニ。唆。勸。ヲ。人。意（人ト雖モ）意。ス。行。
行。ヲ。ヲ。ト。ハ。タ。而。シ。者。誘。達。ニ。ハ。犯。ノ。
正。以。連。セ。敎。ル。シ。テ。ノ。又。ス。依。全々犯ハテ別罪ト。據。行。二。
犯。テ。絡。ハ。唆。ハ。テ。敎。勸。ハ。ル。嗾。（別ヲ行ナ物）ス。ナ。ノ。者。
ノ。相。ス。敎。者。勿。其。唆。誘。依。カ。シ。ル。シ。ミ。ハ。
成。手。可。唆。ト。論。ノ。者。ニ。囑。爲。或。（ハ）所。論。備。必。
否。方。ラ。ト。シ。ニ。犯。ノ。基。ニ。メ。ハ。敎。ハ。者。ハ。ス。
如。ニ。サ。實。テ。シ。行。意。ク。依。ニ。人。唆。人。ノ。リ。其。
何。犯。ル。行。犯。テ。ト。思。モ。リ。盡。ニ。者。ヲ。說。テ。ノ。
ヲ。意。所。正。意。此。ス。ヲ。其。自。ス。財。ノ。シ。ノ。犯。人。
問。ヲ。以。犯。ア。ノ。ル。其。ノ。己。凡。貨。犯。テ。誤。意。ニ。
フ。意。ヲ。ト。リ。點。所。ノ。己。ノ。テ。ヲ。行。犯。認。之。備。
コ。起。知。ハ。犯。ニ。ハ。慮。ニ。心。ノ。與。ト。罪。ナ。ニ。ハ。
ト。セ。ル。其。行。付。現。傳。惹。底。手。ヘ。ス。ヲ。ル。添。ラ。
ヲ。シ。ニ。ノ。ア。別。ニ。達。起。ニ。段。テ。ル。犯。亦。ハ。サ。
要。メ。足。間。リ。ニ。正。ス。シ。惹。ヲ。犯。所。サ。タ。サ。ル。
セ。タ。ラ。盡。被。說。犯。ル。タ。起。云。行。ハ。シ。多。ル。可。
ス。ル。シ。然。敎。明。者。モ。ル。セ。フ。心。人。メ。辨。ト。ラ。
其。ト。果。タ。唆。ヲ。カ。ノ。意。ラ。實。ヲ。ヲ。シ。ヲ。キ。ス。
ノ。キ。シ。ル。者。要。犯。ニ。思。レ。行。惹。シ。ト。待。ハ。若。
之。ニ。テ。區。ハ。セ。罪。ア。ハ。タ。者。起。テ。欲。タ。我。シ。
ラ。於。然。別。被。サ。ニ。ラ。實。ル。ノ。セ。犯。ス。ス。カ。犯。
罰。テ。ラ。ノ。敎。ル。着。サ。ニ。犯。シ。罪。ル。シ。刑。意。
ス。完。ハ。存。唆。ナ。手。ル。被。意。意。ム。ヲ。ノ。テ。法。ノ。
ル。成。敎。ス。者。リ。シ。ハ。敎。是。ト。ル。行。意。明。上。ミ。
ニ。ス。唆。ル。ト。タ。火。唆。ナ。ス。等。ハ。ナ。カ。之。存。
付。ル。罪。モ。シ。ル。ヲ。者。リ。ル。有。シ。（罪行ル）リ。ナ。ラ。シ。
キ。モ。ノ。テ。凡。見。タ。此。所。形。メ。ノ。之。條。成。
質。ノ。成。ニ。犯。テ。ル。ル。ノ。ハ。無。ン。（犯罪者カ行ヲ有ス）人。犯。
行。ニ。立。シ。意。行。ヨ。實。犯。則。形。カ。チ。ト。行。
正。シ。ハ。テ。ア。爲。リ。行。意。チ。ニ。爲。シ。之。

右毆打創傷被告事件ニ付キ明治四十二年三月十日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲナシタルニヨリ判決スルコト左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第四點原判決ニ認メタル被告寅吉ノ第一ノ所爲ハ春造ヲ敎唆シテ宇十郎ヲ致傷セシメタルモノト被告自ラ同人ヲ毆打シテ傷ヲ爲シタルモノトアルニ拘ハラス原判決カ之ヲ一罪ト爲シタルヤ又ハ之ヲ二罪ト認メタルヤ明カナラス事實摘示ノ部ニ於テハ之ヲ二罪トシテ判定シタルコト明カナルニ法律ノ適用ノ部ニ於テハ之ニ對シ舊刑法第三百一條第三項ヲ適用シタル形跡ナシ故ニ原判決ハ此點ニ於テ事實理由ノ欠點アルモノトス而シテ若シ之ヲ一罪ナリトセハ全然法則ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ何レノ點ヨリスルモ不法ヲ免カレサルモノトスト云フニ在リ

依テ按スルニ凡ソ人ヲ敎唆シテ罪ヲ犯サシメタル者カ同一意思ノ發動ニ基キ同一ノ罪ニ付更ニ實行正犯ノ所爲ニ加工シタルトキハ敎唆ノ所爲トヲ比照シ其重キニ從ヒ一罪トシテ處罰スヘキモノナルコトハ本院判決ニ認メタル所トス（明治三十三年れ第三五三號毆打創傷敎唆被告事件ニ付同年四月十九日言渡シタル本院判決參看）而シテ原判決ノ擬律ヲ査閲スルニ其處斷ノ玆ニ出テタルコト明ナレハ原判決ハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

◉酒造稅法違犯事件

明治四十二年（れ）第六二一號　明治四十二年六月四日　判決　（棄却）

判決要旨

一、稅法犯則者カ罪金ノ通知ヲ受テ七日以內ニ之ヲ完納スルトキハ告發ヲ免カル（間接國稅犯則者處分法第十七條）

一、七日以內トハ罪金ノ通告ヲ受ケタル當日ヨリ起算スヘキモノニシテ其ノ翌日ヨリ起算スヘキモノニアラス

一、酒類製造主カ豫メ申告シタル仕込高以外ニ更ラニ蒸米、麴米及ヒ淸酒ヲ原料トシテ白酒ヲ密造シタル所爲ハ酒造稅法第二十四條ノ所謂不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレタルモノニ該當ス

（參照）犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ之ヲ履行セサルトキハ稅務署長ハ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ七日ヲ過クルモ告發前ニ履行シタルトキハ此ノ限ニ在ラス（間接國稅犯則者處分法第十七條）

（參照）酒類ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス（酒造稅法第二十四條）

七日ノ起算點○酒類ノ密造

第一審　青森地方裁判所弘前支部　第二審　宮城控訴院

被告人　野村音次郎　辯護人　卜部喜太郎

右酒造稅法違犯被告事件ニ付明治四十三年三月十一日宮城控訴院カ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人卜部喜太郎外一名上告趣意書第一點ハ本件ノ記錄ヲ查閱スルニ弘前稅務署長ハ被告ニ對シ明治四十一年二月二十七日附ヲ以テ受領ノ日ヨリ七日以內ニ罰金ヲ納付スヘキ旨ノ通告書ヲ發シ(被告ハ四十一年二月二十七日ニ通告書ヲ受領セリ)明治四十一年三月五日ニ告發ノ手續ヲ爲シ檢事ハ該告發ニ基キテ公訴ヲ提起シタルモノナリ而シテ期間ノ計算ニハ初日ヲ算入セサルヲ通則トスルヲ以テ罰金納付ノ期間ハ前記通告書受領ノ翌日ヨリ起算シ四十一年三月五日迄繼續スルコト明カナリ然レハ本件ノ告發ハ罰金納付ノ通告期間內ニ爲シタルモノニシテ間接國稅犯則者處分法第十七條ノ規定ニ違背シタル不適法ノ告發ト謂ハサル可カラス從テ違法ナル告發ニ基ケル本件ノ公訴モ亦不適法ナリト謂ハサル可カラス原院カ斯ノ如ク違法ノ公訴ヲ受理シテ本案ノ判決ヲ爲シタルハ違法ノ措置ナリト云フニ在レトモ○間接國稅犯則者處分法第十七條ニ「所謂通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以內」トハ通告ヲ受ケタル當日ヨリ起算シテ七日以內ノ謂ナルコトハ本院判例ノ夙

ニ認ムル所ナリトス而シテ本件ニ於テ被告カ通告書ヲ受領シタルハ明治四十一年二月二十七日ナルコトハ記錄上明確ナレハ當日ヨリ起算シテ七日以內トハ同年三月四日マテナルコト疑ヲ容レス然ラハ稅務官カ同月五日ニ於テ右法定期間內ニ通告ノ旨ヲ履行セサル被告ニ對シテ告發ヲ爲シタルハ相當ニシテ所論ノ如キ不法アルコトナシ從テ右告發ニ基キテ爲シタル公訴ハ適法ナリト謂ハサルヘカラス故ニ原審ハ本案ニ付キ審理判決ヲ爲シタルハ毫モ違法ニ非ス本論旨ハ理由ナシ

第五點ハ酒造稅法第二十四條ニハ詐欺其他不正ノ所爲ヲ以テ造石數ノ查定ヲ免レタルトキハ云云ト規定セルヲ以テ同法ヲ適用シテ被告人ヲ處罰スルニハ被告人ニ詐欺其他不正ノ所爲アルコトヲ明示セサルヘカラス然ルニ原院ノ事實認定ニ依レハ被告音次郎ハ白酒製造業者ニシテ云云自己ノ白酒製造場內ニ於テ云云酒精二十度以下ノ白酒三十二石二斗六升二合七勺四才ヲ密造シ查定ヲ免レタリトアリ被告カ嚴密ナル酒造檢查官ノ監視ノ下ニアリ自己製造場內ニ於テ如何ナル詐欺其他不正ノ所爲ヲ以テ三十餘石ノ白酒ヲ密造シテ查定ヲ免レタルカ毫モ其手段方法ヲ判示セサルハ罪トナルヘキ事實ヲ明カニセサル理由不備ノ判決ト謂ハサルヘカラス蓋シ酒類カ查定石數ヨリ增減ヲ來スニハ種種ノ事由アルコトヲ豫想スルコトヲ得ヘク被告ノ詐欺其他不正ノ手段ニ依ラス檢查官ノ不注意其他偶然ノ事由ニ依リ查定石數ニ超過セル酒類ノ現在ヲ來スコトアルモ是レ酒造稅法第二十四條ニ該當セサルコト論ヲ俟タス然レハ被告カ酒類ヲ密造シタリトスレハ其手段ヲ明ニシ查定ヲ免レタリトスレハ其方法ヲ示ササル可カラス原院カ右ノ事實ヲ示サスシテ酒造稅法第二十四條ノ犯罪アリト判定シタルハ到底理由不備ノ裁判タルヲ免レスト云フニ在レトモ○原判決ヲ按

スルニ「蒸米麹米及ヒ清酒ヲ原料トシテ酒精量二十度以下ノ白酒三十二石二斗二升二合七勺四才ヲ密造シ云云」ト判示シアリ右ハ豫メ申告シアル仕込高以外ニ於テ前示方法ヲ以テ白酒ヲ密造シタリト說示シタルモノト解スヘキカ故ニ該所爲ハ酒造稅法第二十四條ニ所謂不正ノ行爲ニ該當シ之ニ因リテ査定ヲ免レタル事實ノ判示アル以上ハ罪トナルヘキ事實ヲ明示セスシテ前示法條ヲ適用シタル不法アルコトナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事鈴木宗言干與明治四十二年六月四日大審院第一刑事部

◉衆議院議員選擧法違犯事件

明治四十二年(れ)第六〇五號
明治四十二年六月八日判決（破毀）

判決要旨

一、豫審決定書ニ所屬官署ノ押印ナク又之ヲ押捺シ能ハサル事由ノ記載ナキトキハ其ノ書類ハ無效ニ歸スレトモ之レカ爲メ其ノ決定ノ實質上ノ確定力ヲ毀損スルモノニアラス從テ輕罪公判ニ付スル豫審決定書カ此ノ瑕疵アリシカ爲メ無效ニ歸スル場合ニ於テモ公判裁判所カ尙ホ豫審決定ノ效アルモノトシ其ノ事件ヲ受理審判シタルハ違法ニアラス

說明

豫審決定ト豫審決定書」豫審決定トハ同一物ニアラス豫審決定ハ當該事件ニ對スル豫審判事ノ判斷ニシテ決定書トハ此ノ判斷ヲ表示スル一ノ方法ニ外ナラス左レハ其ノ方法タル決定書ノ適不適ハ宋タ以テ決定其ノモノ、效力ヲ左右ス可ラサルヤ論ヲ待タス而シテ此ノ法理ハ獨リ豫審決定ノ場合ノミナラス凡テ判決其ノ他ノ決定ニ準用スルコトヲ得ヘシト信スルニ依リ玆ニ一言スルモノナリ

第一審　安濃津地方裁判所　第二審　名古屋控訴院

被告人　館忠太郎外七名

右衆議院議員選擧法違反被告事件ニ付明治四十二年三月二十九日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ原院檢事長手塚太郎ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

原判決ノ全部ヲ破毀シ事件ヲ大阪控訴院ニ移ス

理由

原院檢事長手塚太郎上告趣意書ハ原判決カ被告人ニ對シ公訴不受理ヲ言渡シタル理由ハ要スルニ

豫審決定ト豫審決定書トノ別

本件ハ原裁判所カ豫審判事ノ被告事件ヲ輕罪公判ニ付スル終結決定ニヨリ公訴ヲ受理シタルモノナルニ右豫審終結決定書ニハ所屬官署ノ印ヲ押捺セス又其之ヲ用フル能ハサル事由ノ記載ナキカ故ニ該決定書ハ刑事訴訟法第二十條ニ依リ無效ニ歸シ本件ニ付テハ未タ豫審終結決定アラサルモノナリトス從テ本件公訴ハ之ヲ受理スルヲ得サルモノナルニ原裁判所カ之ヲ受理審判シタルハ不法ナルヲ以テ第一審判決ヲ取消シ公判不受理ノ言渡ヲ爲スヘキモノナリト云フニ在リ然レトモ豫審終結決定ハ豫審判事カ被告事件ヲ輕罪公判ニ付スル決定ヲ爲シ其決定書ヲ送達シタル時ニ於テ形式上確定スヘク決定書ニ所屬官署ノ印ヲ押用セサリシカ如キ瑕瑾アルモ其確定ヲ妨クルモノニアラサルハ勿論ニシテ貴院ニ於テモ屢々判示セラルル所ナリ（明治二十九年四七二號事件同年九〇八號事件明治三十四年一五一七號事件參照）本件記錄中ニ存スル明治四十一年五月二十五日附安濃津地方裁判所豫審判事代理西岡茂房ノ作成シタル本件ノ審豫終結決定書ニ所屬官署ノ印ヲ押捺セス又之ヲ用フル能ハサル事由ノ記載ナキコト原判決說明ノ如シト雖モ右決定書ノ正本ハ各被告人ニ送達セラレタルコト送達證書ノ存在ニヨリ之ヲ認ムルヲ得ヘキカ故ニ該決定ハ形式上確定シタルヲ以テ第一審裁判所カ本件ヲ受理審判シタルハ當然ニシテ當院ニ於テモ亦第一審判決ニ對スル檢事ノ控訴ニヨリ本件ヲ受理審判スヘキモノナルニ係ハラス事茲ニ出テス前揭ノ理由ニ基キ公訴不受理ヲ言渡シタルハ法律ニ違背シタル不法ノ判決ニシテ破毀ノ原因アルモノト思料スト云フニ在リ

因テ按スルニ本件豫審終結決定書ニハ所屬官署ノ印ヲ押捺セス又之ヲ押捺シ能ハサル事由ノ記載

ナキヲ以テ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ依リ書類トシテ其效ナキモノナルコト勿論ナリト雖モ如上ノ瑕瑾ニ因ル決定書ノ無效ハ其事件ヲ輕罪公判ニ付スル本件ノ如キ場合ニ於テハ豫審終結決定ノ實質上ノ確定ヲ妨クルモノニアラス何トナレハ該決定ト其決定書トハ各自獨立シテ成立シ得ヘキモノナルニ決定書ニ於ケル如上ノ瑕瑾ヲ以テ該決定ヲ無效ナラシメ其確定ヲ妨クルノ原因ト爲シタル法規刑事訴訟手續法中ニ存セサルヲ以テナリ而シテ被告事件ヲ輕罪公判ニ付スル豫審終結決定ニ對シテハ何人ト雖モ不服ヲ申立テ得ヘキモノニアラサルヲ以テ本件豫審終結決定ハ其決定書ノ無效ナリシニ拘ハラス決定ト同時ニ既ニ確定シタルモノナレハ同決定ニ依リ本件第一審裁判所ハ適法ニ公訴ヲ受理シタルモノト云ハサルヘカラス然ルニ原院ニ於テ本件公訴ハ之ヲ受理スヘカラサルモノト判定シタルハ不法ヲ免レス依テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ主文ノ如ク判決スヘキモノトス

◉强盜殺人事件

明治四十二年(れ)第六一九號　明治四十二年六月八日　宣告　（棄却）

判決要旨

一、强盜ヲ爲サントスルコトヲ共謀シ其實行ノ場所ニ見張ヲ爲ス者ハ强盜ニ關シ他ノ共犯者カ犯シタル殺人ノ行爲ニ付テモ亦實行正犯トシテ其責任ヲ負フ

强盜ノ見張ヲ爲シタル者ノ責任○豫審ニ於ケル檢事及警察官ノ參與○同時同所ニ於ケル二箇ノ强盜殺人　一九三

一、檢事若クハ警察官カ事實發見ノ便宜上豫審判事ノ同意ヲ得テ當該事件ノ取調ニ參與スルモ之ヲ以テ豫審密行ノ原則ニ違戻スルモノト謂フヲ得ス

一、金圓ヲ强取スル爲メ同時同所ニ於テ二人ヲ死ニ致シタル所爲ハ二箇ノ强盜殺人罪ヲ構成ス

第一審　新潟地方裁判所
被告人　樋口龜次外二名

第二審　東京控訴院
辯護人　布施辰治

右强盜殺人被告事件ニ付明治四十二年三月二十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告三名ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告三名辯護人布施辰治上告趣意書第一點原院判示ニ依レハ「被告忠次、石藏、庄五郎ハ明治四十年一月十九日相謀テ强盜ヲ爲サンコトヲ企テ同夜深更庄五郎ハ新潟縣中蒲原郡大蒲原村役場表門附近ニ於テ見張ヲナシ忠次、石藏ハ直ニ同役場内ニ押入リ携帶シタル鋭利ノ凶物ヲ以テ同夜同所ニ宿直シ居タル書記山田唯三郎小使布施寅藏ヲ共ニ殺害シタル上同役場備付收入役ノ金庫ヲ破壞シテ公金ヲ奪ハントシタルモ戸扉堅牢ニシテ容易ニ之ヲ開ク事能ハサルヨリ收入役及書記ノ机ノ抽斗中ニアリタル金六十錢許ヲ强取逃走シタリ云云」トアリテ後段携帶シタル鋭利ノ凶物ヲ以テ以下殺人及强取逃走ノ點ハ專ラ被告忠次、石藏ニ對スル事實ノ認定ニ係リ被告庄五郎ニ對シテハ單ニ强盜ノ共謀及被告忠次、石藏等カ强盜罪ヲ犯スノ見張ヲ爲シタリトノミノ事實ヲ認定シ同被告カ見張人トシテ忠次、石藏等ト其行爲ヲ別異シタル以後（見張着手即チ犯罪着手未遂ノ狀體後）犯罪實行ノ任ニ當リタル相被告等カ果シテ豫期ノ犯罪ヲ遂行シ且ツ其實行中山田唯三郎、布施寅藏ヲ殺害シタリトノ事實ニ加功シタル旨ノ判示及證據說明ヲモ存スル事ナク漫然强盜殺人罪ノ適條ヲ問擬シタルハ結局破毀ヲ免レサル不法アリトスト云フニ在レトモ○原判決ノ趣旨ハ被告等三名共謀ノ上前揭村役場ニ於テ强盜ヲ爲サンコトヲ企テ被告庄五郎ハ戸外ニ在リテ見張ヲ爲シ之レカ警戒ノ任ニ當リ被告忠次、石藏ハ各兇器ヲ携ヘ役場内ニ押入リ强盜殺人ノ行爲ニ及ヒタリト云フニ在レハ被告庄五郎亦强盜殺人犯ノ實行ニ加功シタルコトヲ認メタルコト勿論ナルヲ以テ原審カ被告庄五郎ニ對シ所揭ノ罰條ヲ適用シ他兩名ノ被告ト同一ノ刑ニ處シタルハ相當ナリ要スルニ本論旨ハ原判決ノ趣旨ヲ誤解シ其判旨ニ副ハサル攻擊ヲ爲スモノニシテ上告適法ノ理由トナラス

第三點原院ハ本件斷罪ノ資料トシテ被告庄五郎ノ豫審調書中「一月十九日午後八時頃布施方ヨリ歸宅後一寢入シテ居ルト奥ノ寢間ノ戸ヲ叩ク……」以下ノ供述ヲ援用シタリ然ルニ該調書ハ森豫

審判事ノ豫審審理トシテ訊問シタルモノナルニ拘ハラス明治四十年十一月九日附小野澤檢事ヨリ提出シタル記錄第七百九十二丁乃至七百九十六丁ノ記述中「……同年二月五日ナリシト覺ユ森豫審判事ハ同署ニ於テ被告人庄五郎ヲ訊問シタル際本職ハ其同意ヲ得テ同席シ居タリ庄五郎ハ犯罪ヲ全然否認シ一應訊問ハ終了シタルモ其動作頗ル良心ノ刺戟ニ堪ヘサルモノノ如ク不安ノ狀體ナリシヲ以テ豫審判事ハ既ニ訊問シタル各關係人ノ供述要旨ヲ告ケ被告人庄五郎ノ共犯タルコト殆ント疑ナカルヘキヲ以テ良心ニ反省シ眞實ノ供述ヲナス事寧ロ利益ナルヘキヲ懇諭シ本職モ亦豫審判事同樣ノ注意ヲナシ……被告人ヲ連レ來リタル下村警部モ豫審判事ノ同意ヲ得テ同席シ居タリト覺ユ……其供述ハ豫審判事ノ訊問調書ニ在リ……」トアルニ由リテ明瞭ナルカ如ク當該豫審調書ハ我刑事訴訟法ノ一大原則タル豫審密行ノ制規ニ背キ檢事及ヒ警部立會ノ上ニ而カモ檢事ノ注意說得ヲ加ヘタルニ基キテ被告庄五郎ノ陳述シタルモノナレハ豫審調書トシテハ違式無效全然斷罪ノ資料タリ得可キモノニアラスト信スト云フニ在レトモ○所謂豫審密行ノ原則トハ當該事件ノ取調ニ關シ公判ト齊シク遍ク公衆ヲシテ傍聽セシメストノ謂ニ外ナラサレハ檢事若クハ警察官ニ於テ事實發見ノ便宜上當該豫審判事ノ同意ヲ得其取調ニ參與スルカ如キハ何等右原則ニ違戾シタル行爲ニ非サレハ縱シ所論ノ如キ事實アリタリトスルモ所揭調書カ無效ニ歸スヘキ條理ナケレハ原審ニ於テ右調書ヲ援用シテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニアラス

第五點原院認定事實ニ依レハ被告等ハ單一ナル强盜ノ目的ヲ以テ明治四十年一月十九日夜大蒲原村役場內ニ押入リ其實行手段トシテ二個ノ殺人罪ヲ犯シタリト云フニアリ然ラハ犯罪箇數ノ標準

ヲ行爲說ニ採ラシカ强盜ノ目的テフ單一ナル意旨ノ發動ニ基キテ二箇ノ手段ヲ用ヒタリトスルモ行爲トシテハ要スルニ一行爲一罪ナリ亦舊刑法適條ノ解釋トシテモ强盜殺人ナル犯罪ノ箇數ハ强盜罪ノ箇數ニ從フテ決スヘク之ニ伴ヘル殺人ノ箇數ニ由リテ決スヘキモノニ非スト信ス然ルニ原判決ハ舊刑法ヲ適用シテ强盜殺人ノ二罪俱發ナリトシ亦新刑法ノ適用トシテ第四十五條第四十六條ヲ擬スヘキ同第二百四十條ノ併合罪ナリトセラレタルハ一罪ノ事實ヲ認メテ二罪ニ問擬シタルカ少クモ新刑法第五十四條ヲ適用スヘキ事案ニ併合罪ノ適用ヲナシタルカ孰レニシテモ擬律錯誤ノ不法アルヲ免レサルナリト云フニ在レトモ○舊刑法ノ下ニ在リテハ所揭被告等ノ行爲カ二箇ノ强盜殺人罪ヲ構成スヘキコトハ當院ノ判例トシテ亦二個ノ强盜殺人罪ヲ組成ス可キコトハ亦疑ヲ存スルノ餘地アルコトナシ何トナレハ所揭刑法第五十四條ノ規定ハ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸レ又ハ各獨立シタル二箇ノ行爲カ犯罪ノ手段若クハ結果タル場合ニ於テ之ヲ結合シ一ノ重キニ從ヒ處分ス可シト云フニ在レハ該條ハ本件ノ如ク一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸レタルニ非ス又强盜行爲ト殺人行爲ト各獨立シテ互ニ手段タリ若クハ結果タル可キモノニモ非サル場合ニ適用スヘキモノニ非サレハナリ左レハ原審ニ於テ被告等カ同時同所ニ於テ重ネテ二箇ノ强盜殺人ナル一種特別ナル罪ヲ犯シタル事實ヲ認メ新舊刑法ヲ適用スルニ該リ舊刑法ニ於テハ二罪俱發刑法ニ於テハ併合罪ノ規定ヲ援用シ被告等ヲ處斷シタリシハ相當ナリ

◉樹木損傷事件

明治四十二年(れ)第六一五號
明治四十二年六月一日判決　(破毀)

判決要旨

一、親告罪ニ對スル告訴ノ取下ハ上告審ノ判決アル迄ハ其ノ審級ノ裁判所ニ向テ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

一、親告罪ノ告訴者カ上告裁判所ノ判決言渡前告訴ヲ取下タルトキハ其ノ上告カ上告期間經過後ノ提起ニ係リ適法ニ成立セサルトキト雖モ公訴權ハ取下ニ依リテ消滅ニ歸スルカ故ニ被告ニ對シ免訴ノ裁判ヲ爲サヽル可ラス

第一審　廣島地方裁判所尾道支部　第二審　廣島控訴院

被告人　黑田伊兵衛

右樹木損傷被告事件ニ付明治四十二年三月二十六日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告申立ヲ爲シタルモ刑事訴訟法第二百七十八條ノ法定期間內ニ趣意書ヲ提出セサルニ因リ本上告ハ適法ニ成立シタルモノニ非ス然レトモ其判決言渡前即チ明治四十二年三月三十一日告訴人龜田龜太郎ハ本件親告罪ニ付告訴ノ取下ケヲ爲シタルヲ以テ該事件ノ公訴權ハ既ニ消滅ニ歸シタルカ故ニ被告人ニ對シテハ刑事訴訟法第二百二十四條第百六十五條ニ照シ處分スヘキモノトス

從テ同法第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ判決スル左ノ如シ

判決

原判決ヲ破毀シ被告伊兵衛ヲ免訴ス

◉恐喝取財及同未遂事件

明治四十二年(れ)第五七五號
明治四十二年五月二十八日判決　(破毀)

判決要旨

一、警察官吏カ作成シタル犯人ノ素行調書ヲ以テ罪證ニ供セント欲セハ之ヲ朗讀シテ被告ノ辯解ヲ聽カサル可ラス此ノ手續ヲ履踐セスシテ罪證ニ供シタル裁判ハ破毀ヲ免カレス

說明

罪證ノ提示

罪證ノ斷罪ノ資料トナス證據物件ハ必ス先ツ之ヲ被告ノ實見ニ入レ其ノ辯解ヲ求ムルコトヲ要ス何トナレハ若シ被告ニ於テ相當ノ辯解ヲ有シ其ノ物件カ犯罪ニ關係ナキコトヲ明ニシタルトキハ最早罪證タルノ價値ナキニ至レハナリ斷罪ノ資料ハ必ス之ヲ被告ノ實見ニ供スヘキコト以上ノ如シト雖モ而モ亦タ之ヲ實見セシムルノ方法ヲ誤マルトキハ其ノ裁判ハ破毀ヲ免カレス我カ刑事訴訟法上

被告ニ對スル證據提示ノ方法ハ按スルニ物件證據即チ物夫レ自體ノ證據タル場合（例ヘハ犯罪ノ用ニ供シタル刄劍其ノ他ノ兇器ノ如シ）ハ之ヲ被告ノ面前ニ提出シテ其ノ實見ニ入ルヽコトヲ要シ又タ書類證據即チ犯罪ニ關シ職權アル官吏ノ作成シタル凡テノ調書ニ在テハ裁判所ハ之ヲ朗讀シテ被告ノ見聞ニ入ルヽコトヲ要ス若シ此ノ方法ヲ誤マルトキハ其ノ裁判ハ即チ破毀ヲ免レサルナリ物件證據ト書類證據トノ別ハ之ヲ採取スル上ニ於テ其ノ手續ヲ異ニスルノミナラス被告ニ對スル證據提示ノ方法ニ至テモ亦タ以上ノ區別アルヲ忘ル可ラス

「附言」已ニ說明スルカ如ク所謂書類證據トハ犯罪事件ニ關シ特ニ相當官吏ノ作成シタル調書若クハ聽取書ノ類ヲ云フモノニシテ被告カ犯罪ノ爲ニ作成スル僞造證書ノ如キハ物夫レ自體ハ一ノ書類ニ相違ナキモ斯ハ所謂物件證據ニシテ書類證據ニアラス之レカ提示ハ唯被告ノ實見ニ入ルヽニ止マリ朗讀ヲ要セサルハ論ヲ待タス以テ物件○書類兩證據ノ區別ヲ知ルヘキナリ

第一審　宇都宮地方裁判所　第二審　東京控訴院

被告人　國乘瀧吾

右恐喝取財及同未遂事件ニ付明治四十二年四月一日東京控訴院カ言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

原判決ヲ破毀シ本件ヲ宮城控訴院ニ移ス

理由

上告趣意書ノ要旨第十七ハ警察官ノ素行調査ニハ疎漏虛僞ノ記載アリテ信ヲ措キ難キモノナルニ原院カ被告ニ示シ又ハ朗讀セスシテ之ヲ斷罪ノ資料ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在リ因テ按スルニ所論素行調書ハ一ノ證據書類ニシテ被告ノ素行不良ニシテ本件犯罪ヲ爲シタルコトヲ推知スヘキ情狀アルコトヲ證明スルモノナレハ之ヲ證據ト爲スニハ朗讀シテ被告ノ辯解ヲ聽カサルヘカラサルニ原院公判始末書ヲ查スルニ第二審ニ於テ右證據調ノ手續ヲ履踐シタルコトヲ認ムヘキ事跡ナシ故ニ原院ハ適法ノ證據調ヲ爲ササル證據書類ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル不法アルモノニシテ原判決ハ此點ニ於テ全部破毀ヲ免レサルモノトス既ニ此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スル以上ハ他ノ論旨ニ對シテハ逐一之カ說明ヲ爲スノ要モナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

（棄却）

◉白銅貨僞造事件

明治四十二年（れ）第五四六號　明治四十二年五月二十四日判決

判決要旨

一、白銅貨ヲ僞造セシカ爲メ圓形ニ打拔キタル地金ハ未タ之レニ貨幣ノ模樣ヲ描出セサル以前ト雖トモ尙ホ一ノ禁制品タ

貨幣僞造未成品ノ沒收

ルヲ免レス之ヲ没收スルハ相當ナリ

（參照）左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ没收ス但法律規則ニ於テ別ニ没收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

法律ニ於テ禁制シタル物件（舊刑法第四十三條第一號）

第一審　大阪地方裁判所　　第二審　大阪控訴院

被告人　藤原安太郎

右白銅貨僞造被告事件ニ付明治四十二年三月八日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ因リ判決スルコト左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第四點判決ヲ閲スルニ僞造ト目セラルル押收物件中刻印（檢第四號）打拔鐵具（檢第六號及圓形地金（檢第一號乃至三號五號十五號十八號）ハ全部没收スヘキ旨判決セラレタレトモ（檢第一號）圓形地金ハ本件ニ關シ白銅貨僞造等ニ毫モ類似セシモノニアラス地金ニ對シ文字其他ノ影跡アルニアラサレハ果シテ之ヲ禁制品ト認メラルルニ而カス況ンヤ公然ト獨立シタル效用ナスヘキ地金ニシテ他ニ分離スヘキ部分ナルハ明白ナリ然ルニ僞造ノ部分ノミヲ没收セスシテ其ノ（檢第一號）全部ヲ没收シタルハ没收ニ關スル法則ヲ不當ニ適用シタル不法ナリトスト云フニ在レトモ◎苟クモ內國通用ノ金銀貨又ハ銅貨ノ僞造ニ着手シタル以上ハ其僞造ノ未タ完成セラレサル物件ト雖モ仍ホ舊刑法第四十三條第一號ニ該當スル禁制品タルコトヲ失ハサルカ故ニ原判決ニ於テ被告等カ白銅地金ヲ五錢白銅大ニ打拔キ以テ其僞造ニ着手シタルモ未タ完成スルニ至ラサリシモノト認メタル所謂圓形地金ヲ右法條ニ照シテ没收シタルハ相當ナリ而シテ原判決ニ所謂被告等カ右ノ僞造ニ着手シタリトノ事實ハ該物件ノ全部ニ對シテ之ヲ認メタルモノニシテ其一部分ノミニ對シテ之ヲ認メタルモノニアラサルコト判文上明カナルヲ以テ從テ其禁制品タルノ性質ハ右物件ノ全部ニ對シテ存スルコト勿論ナレハ原判決カ右物件ノ全部ヲ没收シタルハ是亦相當ナリ

◎外國流通紙幣僞造事件　明治四十二年（れ）第五六九號　明治四十二年五月二十五日判決（棄却）

判決要旨

一、紙幣ヲ僞造スル所爲ト僞造紙幣タル情ヲ知テ之ヲ他人ニ交附スル所爲トハ二者各々別個ノ關係ヲ有ス

一、明治三十八年法律第六十六號第三條第一項ニハ僞造者自ラ其ノ僞造紙幣ヲ他ニ交附シタル場合ヲ除外スヘキ文詞ナケレハ若シ紙幣ヲ僞造シタル者カ更ラニ之ヲ他ニ交附シタルトキハ紙幣僞造罪ノ外更ラニ知情行使罪ヲ構成ス

貨幣僞造及ヒ知情行使

（參照）情ヲ知テ僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ輕懲役又ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス（明治三十八年法律第六十六號第三條第一項）

第一審　長崎地方裁判所　第二審　長崎控訴院

被告人　宮崎鶴吉　辯護人　高木益太郎

右外國流通紙幣僞造被告事件ニ付明治四十二年三月二十二日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第三點原判決法律適用ヲ見ルニ「被告鶴吉ノ所爲ハ明治三十八年法律第六十六號第一條第一項ニ該當シ（其僞造ノ露國紙幣ヲ（中略）授付シタル所爲ハ僞造罪中ニ包含セラレ別ニ一罪ヲ爲サス）」ト判示シ以テ授付ニ關スル法條ヲ適用セラレサリシナレトモ同條第一項ニハ單ニ「何何ヲ僞造シ又ハ變造シタルモノハ云云」トアルノミ而シテ同第三條第二項ニハ明文ヲ以テ「何何ヲ授受シタルモノハ云云」ト規定シアリテ別箇ノ一罪ヲ成立スルモノナルコト疑ヲ容ルルノ餘地ナシ果シテ然ラハ此點ニ付法則ノ適用ヲ遺脫セル違法アリト信スト云フニ在リ

依テ按スルニ犯人カ流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テソミ流通スル紙幣ヲ僞造スルト其僞造ニ係ル紙幣ヲ他ニ交付スルトハ全然別箇ノ行爲ナルコトハ疑ヲ容レサル所ナリ而シテ明治三十八年法律第六十六號第一條第一項ニハ右紙幣僞造ノ制裁ヲ規定シ其第三條第一項ニハ情ヲ知テ僞造ニ係ル第一條ニ記載セル紙幣ヲ行使シ若クハ流通セシムルノ目的ヲ以テ之ヲ授受シタル者ノ制裁ヲ規定シアリテ同條項ニ所謂授受トハ交付又ハ受領ヲ指稱シタルモノニシテ僞造者自ラ其紙幣ヲ他ニ交付シタル場合ハ之ヲ除外スヘキ制限的文詞アルコトナケレハ僞造者ト雖モ他人ニ交付シタルトキハ其以外ノ者カ僞造ノ情ヲ知テ交付シタルトキト同シク前示條項ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得サルモノト解スルヲ相當トス故ニ原判決カ被告ノ僞造ニ係ル本件紙幣ヲ被告自ラ他人ニ交付セシ事實ヲ認メナカラ其所爲ヲ以テ僞造罪中ニ包含シ別ニ一罪ヲ爲サスト判示シ前示法律第三條第一項ヲ適用セサリシハ擬律ニ錯誤アル失當ノ裁判タルヲ免レスト雖モ既ニ犯罪ヲ構成セスト言渡サレタル所爲ヲ犯罪ナリト主張スル本論旨ハ被告人ノ不利益ニ歸スルモノナルヲ以テ上告ノ理由トナラス

◉詐僞取財事件

明治四十二年(れ)第六六號
明治四十二年六月二十一日判決（棄却）

判決要旨

一、人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル以上ハ被害者ノ給附ニ不法ノ原因アリテ民法上之カ返還ノ請求ヲ許サヽルトキト雖モ詐欺取財罪ヲ構成スルヲ妨ケス

一、判決理由ニ於テ公訴費用ヲ被告四名ニテ連帶負擔スヘキコトヲ定メ判決主文ニ於テ更ラニ一名ヲ加ヘ五名ニテ負擔スヘキ旨ヲ判示スルハ其ノ當ヲ得スト雖モ公訴費用ノ連帶負擔ハ各連帶者ニ於テ各自ニ其ノ費用全部ヲ負擔スルモノナレハ一名ノ增減ハ其他ノ者ノ損益ニ關係ナキヲ以テ四名ニテ負擔スヘキモノヲ五名ニテ負擔スヘク命シタルノ一事ヲ以テ直チニ上告ノ理由トナスコトヲ得ス

説明

公訴費用ノ連帶負擔及ヒ其ノ求償

公訴費用ノ連帶負担

裁判所カ共同被告ニ對シ公訴費用ノ連帶負担ヲ命シタルトキハ各被告ハ民法上ノ所謂連帶債務ヲ負擔シタルト同一ノ法律關係ニ支配セラルヽヤ曰ク公訴費用ノ連帶負擔ハ唯之ヲ負擔スル點ニ於テノミ民法上ノ連帶ト同一ノ關係ヲ有スト雖モ之ヲ納入シタル後他ノ各連帶者間ニ於ケル求償權ニ至テハ民法上ノ連帶債務ト同一ナラス他ナシ抑モ國家カ各共同被告ニ向テ公訴費用ヲ徴收スルハ租税ヲ徴收スルト其ノ理ヲ同フスルモノニシテ唯租税ハ一般人民ニ賦課スルニ拘ラス公訴費用ハ被告トナリタル特別ノ人ニ賦課スルノ差アルノミ國家カ國庫ノ充實ヲ期センカ爲メニ權力ヲ以テ私人ノ財産ヲ徴收スルニ至テハ二者ノ間撰フ所アルナシ左レハ公訴費用ノ徴收ハ其ノ性質權力關係ニシテ各被告カ之ヲ負擔スルニ付キ互ニ連帶ノ責任ヲ負フハ國家カ之ヲ徴收スルノ便利ノ爲メ連帶負擔ヲ强要スルニ外ナラス左レハ公訴費用ノ連帶負擔ハ夫レノ民法上ノ連帶債務ノ如ク當事者ノ意思ニ依テ定マル負擔部分ナルモノ存スヘキ理ナシ則チ民法上ノ連帶債務者間ニ在テハ各債務者ノ負擔部分ハ或ハ平等ナルコトアルヘク或ハ不平等ナルコトアルヘク或ハ連帶者中ノ一人ニテ全部ヲ負擔シ他ハ全ク負擔部分ヲ有セサルニトモ亦タ之レアルヲ得ヘキモ公訴費用ノ負擔ハ被告ノ意思如何ニ不拘國家カ權力ヲ以テ强要スル所ナルカ故ニ各被告者間ニ於ケル負擔ノ程度ハ自己ノ意思表示ニ依リテ之ヲ定ムルニ由ナク唯法理ノ論決

ニ一任スルノ外アル可ラス

以上ハ唯公訴費用ノ連帶者モ亦タ民法上ノ連帶債務ト等シク一人ニテ之ヲ完濟シタルトキハ他ノ連帶者ニ向テ求償シ得ルモノナリト假定シ之レニ由テ各連帶者ニ對スル求償ノ關係ハ民法上ノ連帶ト同一ナラサルヲ一言シタルカ今翻テ考フルニ公訴費用ノ連帶負擔ハ果シテ之ヲ求償シ得ルモノナルヤ否ヤハ未タ一ケノ疑問タルヲ不免モノヽ如シ依リテ余輩ハ便ラニ左ノ問題ニ付キ講究セサル可ラス

（一）公訴費用ノ連帶負担ヲ命セラレタル共同被告ノ一人カ費用ヲ全納シタルトキハ他ノ共同被告ニ向テ之ヲ求償スルコトヲ得ルヤ

（二）若シ之ヲ得ルモノトセハ如何ナル割合ヲ以テ求償スルコトヲ得ヘキカ

（一）以上論スルカ如ク公訴費用ノ負擔ハ國家ノ强要スル所ナリト雖モ其ノ性質ハ罰金科料ト異ナリ之レニ刑罰ノ性質ヲ帶ルモノニアラス唯一私人カ自己ノ行爲ニ由リ國家ニ特別ノ處分ヲ爲サシメタルカ故ニ其ノ代償トシテ之ヲ徴スルモノナレハ公訴費用ナルモノハ即チ一ケノ手數料ニ外ナラス左レハ今被告ノ一人カ公訴費用ノ全部ヲ納入シタルトキハ恰モ他ノ被告ノ負擔スヘキ手數料ヲ自ラ負擔シタルモノニ該當ス之カ求償ヲ許スヘキハ當然ノ理ナリト信ス

或ハ曰ク公訴費用ハ各被告人カ犯罪ト云フ一ノ不法行爲ニ原因シテ起ルモノ

ナレハ若シ之ヲ負擔シタル者カ他ノ共同被告ニ求償ヲ爲スヲ得ヘシトセハ之レ則チ不法行爲ヲ負因トスル者カ給附ノ返還請求ニ訴權ヲ與フルモノハ犯罪行爲ニシテ一般不法行爲ニアラスシテ抵觸スヘシト非也抑モ公訴費用ナルモノハ犯罪行爲ニ原因スル費用タルナリ被告事件ヲ審判スルニ由テ生スル費用タルヤ論ヲ待タサルナリ

(二)已ニ公訴費用ノ負擔ニ付キ求償ヲ許スコト以上ノ如シトセハ負擔者ハ如何ナル割合ヲ以テ求償スヘキカ曰ク其割合ハ平等ニ分擔スヘキモノナリト信ス其他ノ故他ナシ各共同被告ニ對スル審判ノ情況ヲ點檢シ來ルトキハ其ノ間繁簡難易ノ別アリテ公訴費用ノ負擔モ亦タ之レニ從テ差等ヲ設ケサルカ如シト雖モ然レトモ一人ノ被告ニ對スル審理ノ結果ハ必スシモ其ノ者ノミニ付キ留ラスト他ノ被告ノ罪責ヲ定ムルニ付テモ亦タ必要ナルカ故ニ審判手續ニ付キ各共同被告者ニ起ル繁簡ノ差ハ必スモ之ヲ以テ公訴費用分擔ノ標準トナスニ足ラス然ラハ各被告ハ公訴審理ニ關シテハ恰モ犯罪行爲ヲ共同シタルト等ク其ノ審理モ亦タ共同シタルモノトスヘキナリ如シ雖モ然レトモ一人ノ被告ニ對スル審理ノ結果ハ必スシモ其ノ者ノミニ付キ留ラスト他ノ被告ノ罪責ヲ定ムルニ付テモ亦タ必要ナルカ故ニ審判手續ニ付キ各共同被告者ニ起ル繁簡ノ差ハ必スモ之ヲ以テ公訴費用分擔ノ標準トナスニ足ラス然ラハ各被告ハ公訴審理ニ關シテハ恰モ犯罪行爲ヲ共同シタルト等ク其ノ審理モ亦タ共同シタルモノトスヘキナリ

然ラハ求償ノ割合ハ公訴費用ノ全部ヲ被告全員ニ平分シタルモノヲ以テ各自ノ負擔部分トナシ之ヲ求償スヘキモノニシテ民法上ノ連帶債務ト同一ナラサルヘキナリ

第一審　新潟地方裁判所　第二審　東京控訴院

被告人　豐島豐平　辯護人　森　深

右詐欺取財被告事件ニ付明治四十二年四月五日東京訴控院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ因リ判決スルコト左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

第二點原院判決事實認定ノ如ク即チ上告人等ハ久次郎ニ對シ傷造紙幣ヲ購求セシム可ク又紙幣僞造ヲ爲ス可ク又久次郎ハ其行爲ニ加功スルノ目的ヲ以テ金圓ヲ差出シタルハ其意犯行ノ範圍ニ屬スルモノナルヲ以テ結局金圓詐取セラレタル抽象的ノ行爲アルニ過キサルモノト云フニ外ナラサレハ法律ハ是等ノ不正行爲者ハ共ニ制裁ヲ加フヘキコソ當然ノ措置ナルヘキニ事茲ニ出テスシテ其不正ノ爲メニ拂ハレタル金圓ハ尚騙取セラレタルモノナリト認メテ法益ヲ與フルハ抑モ不正行爲ヲ奬勵スルモノト其揆一ナリ何ソ懷ハサルノ甚タシキモノト云フヘシ從來ノ刑法學說或ハ判例等ニ於テモ未タ之ヲ是認セサルカ如クナルハ遺憾トスル所ナリトス今ヤ其解釋上トシ或ハ刑法政

策トシテ大ニ審議ヲ要スルモノト信スルト同時ニ本件ノ如キ事實ハ罪トシ之ヲ擬ス可カラサルモノナルヘシサレハ要スルニ本件ハ罰ス可カラサル行爲ナルニモ拘ハラス之ヲ擬スルニ詐欺取財罪ノ法條ヲ以テシタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト思料スト云フニ在リ

依テ按スルニ苟クモ人ヲ欺罔シテ財物ヲ驅取シタル以上ハ現行刑法ニ於ケル詐欺ノ罪及舊刑法ニ於ケル詐欺取財ノ罪ヲ構成スヘク假令財物ノ給付カ不法ノ原因ニ出テタル爲メ被害者ニ於テ民法上救濟ヲ求ムル能ハサル場合ト雖モ之カ爲メニ同罪ノ成立ヲ妨クヘキモノニアラス此解釋ハ舊刑法ニ於ケル詐欺取財ノ罪ノ成立ニ關シ當院從來ノ判例ニ於テモ認ムル所ナリ然レハ原判決ニ認定セル如ク被告次郎吉カ判示外三名ノ被告ト共謀シテ山口久次郎ヲ欺キ贋造紙幣買入ノ周旋料ナリト稱シ又ハ紙幣僞造用ノ藥品代價ナリト稱シテ金員及證書ヲ驅取スルニ於テハ被告等ノ行爲ハ前記ノ罪ヲ構成セサルモノト云フヲ得ス然レハ原判決ニ於テ右判示ノ事實ニ對シ詐欺取財ノ法條ヲ適用シタルハ正當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

第三點原院判決ノ主文中(前畧)其他ノ部分ハ織之助豐平甚三郎ノ三名ハ被告次郎吉及ヒ前記與右衞門ト連帶シテ負擔ス可シトアリ之ヲ其第一審ニ於ケル此點ノ主文ニ依レハ(前畧)其他ハ被告五名ノ連帶負擔トストアリ要スルニ公訴裁判費用中上告人初メ五名ノ連帶負擔ト爲サシメタルハ上告人ノ犯行事實ニ添ハサル違法アリト信セリ抑モ上告人カ犯行事實トシテ豐平與右衞門甚三郎ノ四名ニ於テ行ハレタルモノト認メタルモノナルコトハ其點ノ事實認示ニ徵スルカ如クナリ然ルニ原院判決ノ主文ニ於テ右四名ノ外ノ他一名ヲ加ヘテ連帶負擔トシタルハ啻ニ上告人トハ共犯ニアラサル他一名ヲ加ヘタルノミナラス一面ニハ他一名ノ負擔ニ歸ス可キ裁判費用マテモカ上告人ヲシテ連帶負擔セシムルニ至リシハ上告人ニ對シ不利益ナル控訴判決ヲ與ヘタルモノト言フ可ク又一面ニハ主文ト事實認定トハ彼是牴牾ヲ來シタル判決ナルニモ拘ハラス原院判決ハ其第一審ノ誤判ヲ是認シ一概ニ上告人ノ控訴棄却ノ判決ヲ與ヘタルハ要スルニ理由齟齬ノ判決ナリト思料スト云フニ在リ

依テ本件第一審判決及原判決ヲ查閱スルニ被告次郎吉ハ豐平與右衞門甚三郎ト共謀シ四名ニテ判示ノ罪ヲ犯シタルコトヲ認メナカラ右判決主文ニ於テ被告織之助ヲ加ヘ公訴費用中云云其他ハ前記被告五名ノ連帶負擔タルヘキコトヲ判決シ共犯者以外ノ者ニ公訴費用ノ連帶負擔ヲ命シタルハ其當ヲ得スト雖モ公訴費用ノ連帶負擔ハ各連帶者ニ於テ各自ニ其費用全部ヲ負擔ス可キモノナレハ所論ノ如ク被告外三名ニ於テ連帶負擔ス可キモノヲ他一名ヲ加ヘ五名ニテ連帶負擔セシムルモ被告次郎吉ニ於テハ右公訴費用ハ負擔ニ關シ何等ノ損益ナキヲ以テ此點ニ關スル本論旨ハ理由ナシ

又本件訴訟記錄ヲ查スルニ他一名ノ負擔ニノミ歸スヘキ公訴費用ナキヲ以テ原判決ハ所論ノ如ク他一名ノ負擔ニ歸スヘキ公訴費用マテヲモ上告人次郎吉ニ連帶負擔セシメタリト云フコトヲ得ス然レハ原判決ニ於テ上告人次郎吉ノ共犯關係ニ付第一審判決ト同一事實ヲ認メ同判決ヲ是認シ上告人次郎吉ノ控訴ニ付テハ之ヲ棄却シタルモ違法ニアラス從テ本論旨ハ理由ナシ

◉官印盜用官文書僞造行使監守盜詐欺取財事件

明治四十二年(れ)第七四四號
明治四十二年六月二十八日判決　(棄却)

執達吏ノ保管スル豫納金ノ横領

判決要旨

一、執達吏ハ委任終了ノ後ニアラサレハ手數料及ヒ立替金ノ辨濟ヲ受クルノ權利ナシ故ニ執達吏カ保證金トシテ委任者ニ豫納セシメタル金圓ハ委任ノ終了ニ至ルマテ職務上之ヲ保管スヘキモノニシテ未タ執達吏ノ收入ニ歸シタルモノニアラス擅ニ之ヲ使費シタル所爲ハ監守盜罪ヲ構成ス

一、執達吏カ手數料及ヒ立替金トシテ過當ノ金圓ヲ徵收シタル所爲ハ舊刑法第二百九十條ノ犯罪ヲ構成ス

一、執達吏カ職務上保管スル豫納金ノ一部ヲ送達費ノ立替トシテ不正ニ横領シタル所爲ハ監守盜罪ヲ構成ス

一、執達吏カ送達證書ニ虚僞ノ記入ヲ爲シ之レニ職印ヲ押捺シタル所爲ハ職印盜用罪ヲ構成ス

（參照）租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス（舊刑法第二百九十條）

（參照）官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス（舊刑法第二百八十九條第一項）

第一審　和歌山地方裁判所　　第二審　大阪控訴院

被告人　樫尾幸之助　　辯護人　花井卓藏　渡邊澄也　阪本彌一郎

右官印盜用官文書僞造行使盜守盜詐欺取財被告事件ニ付明治四十二年四月十二日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ因リ判決スルコト左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告趣意書第一、原判決理由中第一、第三、第五ニ於テ（中略）自ラ費用ノ計算ヲ爲スニ當リ徵收ス可カラサル送達旅費往復（中略）ヲ職務上占有シ居タル前記豫納金中ヨリ横領シトアリテ第一事實トシテ金三十六錢第三事實トシテ金七十二錢第五事實トシテ金六十三錢ヲ豫納金中ヨリ横領シタリト認定シ舊刑法第二百八十九條第一項ヲ適用セリ然レトモ是レ豫納金ナルモノノ性質ヲ誤解シタルニ基ク當初上告人カ受領シタル豫納金ナルモノハ明治二十三年法律第五十二號執達吏手數料規則ニ依リタルモノナリ同規則第一條ニ執達吏ハ此ノ規則ニ從ヒ手數料ヲ受クト又同第十八條ニ執達吏自己ノ役場ヨリ一里以上ノ地ニ至リ職務ヲ行フ時ハ一里毎ニ十錢以下ノ旅費ヲ受クトアリテ執達吏ハ此ノ規定ニ依リ手數料及ヒ旅費ハ之ヲ受領スルノ權利アルコトヲ認メラレタルナリ

又同第十九條ニ執達吏ハ事務ヲ擔任スルニ當リ手數料及ヒ立替金ノ概算額ヲ委任者ヨリ豫納セシム若シ豫納セサルトキハ委任ニ應セサルコトヲ得トアリテ執達吏カ豫納金ヲ徵收スルハ此ノ規定ニ依リタルナリ然ルニ此ノ豫納金ナルモノハ原判決ノ認ムル如ク果シテ上告人即チ執達吏カ官吏トシテ監守ト責任アルモノナルヤ否ヤ頗ル問題ニ屬ス隨テ左ノ諸點ヲ研覈セサル可カラス(一)豫納金ヲ受領スルハ執達吏カ自己ノ所有トシテ占有スルモノナリヤ將タ(二)他人ノ所有トシテ占有スルモノナリヤ若シ他人ノ所有トセハ(甲)國家カ執達委任者ノ豫納金ヲ保管スルニ付執達吏ハ國家ノ代表機關トシテ之ヲ保管スルモノナリヤ將タ(乙)執達吏自身カ單ニ執達委任者ヨリ保管ヲ託セラレタルモノナリヤヲ論定セサル可カラス(一)ノ場合即チ自己ノモノトシテ占有セルニ於テハ斯ハ監守ノ責任ナキヲ以テ隨テ監守盜ノ擬律ヲナスヘキニアラス故ニ監守ノ責任ヲ有セシメントセハ勢ヒ(二)ノ場合即チ他人ノ所有トシテ占有セルモノトセサル可カラス而シテ此場合ニ於テモ(甲)執達吏ハ國家ノ代表トシテ保管セルモノナルカ或ハ(乙)執達吏カ直接ニ保管セルモノナルカヲ區別セサル可カラス(甲)ノ場合ニ屬スルトセハ國家カ他ノ保管金ニ付規定シタルカ如ク或ハ金庫又ハ豫納銀行等ヘ保管預ケヲ爲スノ手續等之ヲ規定セサル可カラサルニ獨リ此豫納金ニ對シテハ何等規定スル所ナキヲ以テ見ルモ斯ハ國家カ直接保管ヲ爲スヘキ性質ノモノニアラサルヲ知ル可シ或ハ(乙)ノ場合ニ屬スルモノトセンカ執達吏ハ他ノ差押物件ト等シク之ヲ如何ニ保管スヘキカニ付キ相當ノ規定ヲナササルヘカラサルニ其之レナキヲ見レハ之ヲ執達吏ノ保管ニ委セシムルノ注意ニアラサルヲ知ル可シ抑モ同規則第十九條ノ文意上ヨリスルモ推理上ヨリスルモ共ニ之ヲ保管セシムルトノ法意ニ解釋スルコト能ハス反テ手數料及ヒ立替金ノ概算額ヲ豫納セシムト云フ以上ハ手數料及ヒ立替金ノ前拂トシテ授受セシムルノ意味ナルコトヲ知ルヲ得殊ニ之ヲ豫納セサルトキハ委任ヲ拒絕スルコトヲモ得セシメタル點ヨリスレハ此ノ豫納金ハ受領ト同時ニ直ニ其ノ手數料又ハ立替金トシテ費消スルコトヲ得セシムルモノト解釋スルヲ當然ナリトス若シ然ラサレハ此ノ豫納金ハ單ニ手數料及ヒ立替金ノ保證トシテ入金セシムルニ過キサレハ特ニ概算額ヲ算出スルノ必要ナク又必スシモ金錢ニ限ルノ要ナク有價證券ヲ以テセシムルモ可ナルヘシ然ルニ是レヲ金錢ニ限定セル所ヨリスルモ又概算額ヲ算出セシムル點ヨリスルモ之カ性質上費消ヲ禁止シタリト云フハ不當ナリ殊ニ同規則第二十條ニ執達吏ハ委任ノ終了シタル後手數料及ヒ立替金ノ辨濟ヲ受ク可キモノトセリ果シテ第十九條ノ豫納金ヲ費消スルヲ許サレストセハ執達吏ハ手數料及ヒ立替金ヲ委任終了迄自己ノ計算ニ於テ立替ヘ置カサル可カラス若シ執達吏ノ手數料立替金等ニ利子ヲ付セシムルモノナレハ格別此ノ規定ナキ以上ハ到底利子ヲ收得スルコト能ハス執達吏ハ何故職務ニ對シ自己ノ計算ヲ以テ金錢ノ立替ヲナササルヘカラサルヤ執達吏ニ若シ此特殊ノ義務ヲ負擔セシムルトセハ勢ヒ此點ニ關スル法規ナカル可カラス而シテ此等ノコト總テ依ルヘキモノナシ彼是對照シテ考量セハ同規則第十九條ノ所謂豫納金ナルモノハ費消ヲ許容シタルモノトシ寧ロ前拂トシテ執達吏自己ノ計算ニ入金シタルモノト解スルヲ至當トス或ハ豫納金ナル文字上ヨリ保管ノ意味ヲ含蓄スルカ如ク解スルモノアランモ豫納トハ未確定ノモノヲ豫測シテ收入スルノ意ナリトセハ豫納ノ文字中ニ必ス保管ノ意味ヲ含蓄スルモノト云フ能ハス然ラハ則チ上告人カ此豫納金

ヲ費消シタリトスルモ決シテ監守盜ヲ以テ論ス可キニアラス上告人カ此點ニ關シテ罪トナル可キ行爲ナキニ原判決ハ此點ヲ輕輕ニ斷シテ監守盜ヲ擬シタルハ明カニ擬律錯誤ノ不法アリト云フニ在リ

因テ按スルニ論旨所揭ノ執達吏手數料規則第十九條同第二十條ノ規定ニ依レハ執達吏ハ委任終了ノ後ニアラサレハ手數料及ヒ立替金ノ辨濟ヲ受ク可キ權利ナシ只其辨濟ニ對スル保證トシテ一定ノ金額ヲ豫納セシメ委任ノ終了シタル後其豫納金ヲ以テ手數料ト立替金トニ充當シ得ルモノナルコト明ナリ然レハ其豫納金ハ執達吏カ委任終了ニ至ル迄委任者ノ爲メ其職務上保管スル所ノモノニシテ未タ執達吏ノ收入ニ歸シタルモノニアラス又個人トシテ保管スルモノニアラサレハ原院カ所論被告ノ行爲ヲ以テ舊法ニ在テハ舊刑法第二百八十九條ニ問ヒ新法ニ在テハ刑法第二百五十三條ニ擬シタルハ相當ニシテ本論旨ニ其理由ナシ

第三、若シ夫レ假リニ原判決認定ノ事實アリトセンカ上告人カ執達吏トシテ徵收スヘカラサル送達旅費ヲ徵收シタリト云ハハ是レ寧ロ正數外ノ金穀ヲ徵收シタルモノニアラサルカ執達吏ハ手數料及旅費金等ヲ徵收スルヲ得ルノ官吏ナリ彼レカ法定外ノ旅費ヲ徵收セリトセハ寧ロ舊刑法第二百九十條ヲ適用スヘキニアラスヤ然ルニ舊刑法第二百八十九條第一項及刑法第二百五十三條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤アルモノトスト云フニ在リ

因テ按スルニ執達吏ノ手數料及立替金ハ執達吏手數料規則ノ定ムル所ニ依リ私人ヨリ徵收スル金額ナルヲ以テ若シ被告ニ於テ手數料及立替金トシテ過當ノ金圓ヲ徵收シタルモノナリセハ其所爲

ハ舊刑法第二百九十條ニ該當スルコトハ論旨ノ如クナル可シ然レトモ原判決ニ認メタル事實ニ依レハ被告ハ執達吏トシテ不正ニ送達費ヲ徵收シタルモノニアラスシテ其職務上占有シ居タル豫納金ノ一部ヲ送達費ノ立替トシテ不正ニ横領シタルモノナレハ舊刑法第二百八十九條ニ所謂官吏自ラ監守スル所ノ金圓ヲ竊取シタルモノニ該當ス故ニ本論旨モ亦理由ナシ

辯護人法學博士花井卓藏辯護人渡邊澄也、阪本彌一郎上告趣意書第二點、原判決ハ第一事實トシテ「被告ハ云云妙寺區裁判所構內執達吏詰所ニ於テ差押物件解放通知書ヲ磁部力松ニ送達シナカラ恰モ債務者住宅ニ送達ヲ爲シタル如ク同日同所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ該送達證書中送達ノ場所ヲ本人住宅ト記載シ其部分ヲ僞造シ執達吏名下ニ職印ヲ押捺シ云云」(第二乃至第五モ同一ノ認定ナリ)ト判示セリ此認定事實ニ依レハ被告ノ僞造シタルハ送達證書ノ全部ニアラスシテ送達ノ場所ヲ「本人住宅」ト記載シタル一部分ニ止ルコト寔ニ明白ナリトス而シテ送達證書ハ被告カ職務上作成ス可キ文書ナルカ故ニ僞造以外ノ部分ハ被告カ職務上作成シタルモノニシテ其成立ノ眞實ナルヤ勿論ナレハ之ニ押捺シタル職印ノ如キハ職務上當然押捺ス可キモノニシテ何等背法ノ所爲ナキモノトス然ルニ「第一乃至第五ノ各僞造送達證書ニ職印押用ノ所爲ハ同法第百九十七條第二項第百九十五條ニ該當シ」ト判示シ前記被告ノ所爲ヲ以テ官印盜用罪ニ問擬シタル原判決ハ理由不備若クハ擬律錯誤ノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ○執達吏ハ送達證書ニ虛僞ノ記入ヲ爲シ之ニ職印ヲ押捺スル權限ナキコト勿論ナレハ其送達證書ノ全部カ僞造ニアラサレハトテ職印盜用罪ヲ構成セスト云フコトヲ得ス故ニ本論旨モ亦理由ナシ

◉官ノ印章僞造等事件

明治四十二年(れ)第七一一號
明治四十二年六月十八日判決　(棄却)

判決要旨

一、織物ニ帖用スル納稅濟ノ證印ハ各稅務署ニ於テ爲スモノナルモ稅務署ノ印ヲ以テスヘキヤ將タ稅務監督局ノ印ヲ以テスヘキヤハ法文ニ何等ノ規定ナキヲ以テ一ニ事務取扱上ノ便宜ニ依ル

第一審　山形地方裁判所　第二審　宮城控訴院

被告人　尾形伊七　辯護人　〔星野春吉〕〔飯田宏作〕

右官ノ印章僞造等被告事件ニ付明治四十二年三月二十日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ因リ判決スル左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

第二點假リニ本件ノ紙票ハ官ノ記號印章若クハ印紙ト同性質ヲ有シ又ハ非常特別稅法第七條第二項末段ノ證印ナリトスルモ稅務監督局ハ內國稅ニ關スル事務ヲ監督スルノ職權ヲ有スルモノニシテ徵稅事務ハ稅務署ノ職權ナルノミナラス非常特別稅法施行規則第十二條ノ三ニ依レハ之等ノコトニ關シ職權ヲ有スルモノハ稅務署ナルコト明定シアリ故ニ稅務監督局ハ之等ノ印章記號若クハ印紙又ハ證印票ヲ製造使用スル權能ヲ有セス然ルニ官ノ記號印章ナリトシテ處罰シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在リ

因テ按スルニ納稅濟ノ證印ハ各稅務署ニ於テ之ヲ爲スモノナルモ稅務署ノ印ヲ以テスルヤ稅務監督局ノ印ヲ以テスルヤニ付テハ法律上何等ノ規定アルコトナク實際事務取扱上ハ便宜ニ任セアルモノニシテ秋田稅務監督局管內ニ於テハ各稅務署ヲシテ「秋田稅務監督局織物査定濟之證」ノ文字ヲ刷記セル紙票ヲ證印ニ代ヘ貼用セシメ居ルモノナレハ原院カ被告ノ所爲ヲ官ノ印章記號僞造行使罪ニ問擬シタルハ不法ニアラス

◉窃盜委託金費消郵便切手再帳用並官印盜用事件

明治四十二年(れ)第五六八號
明治四十二年六月二十四日判決　(棄却)

判決要旨

一、郵便局ノ日附印ハ郵便局ヲ表示シ且郵便物ノ發着日時、印紙其ノ使用濟ナル事等ヲ證明スルモノナレハ舊刑法ニ在テハ官署ノ印ニ該當シ新刑法ニ在テハ公務所ノ印章ニ該當ス

郵便局ノ日附印

第一審　安濃津地方裁判所　第二審　名古屋控訴院

被告人　辻谷喜三

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告趣意書ハ原判決ハ第一ノ犯罪事實ニ對シ其竊取金額ヲ合計三圓八十三錢ト認定シ第二犯罪事實ニ對シ合計八十五錢ト認定シタルモ其援用セル各證據ト對照計算スレハ右ノ如キ算出ヲ見ル能ハス故ニ此點ニ對シテハ事實ヲ不當ニ認定セル違法アリ又原判決ハ寄託金費消ノ罪アリト認定セルモ被告カ用ヒタルハ依賴者ノ現金ヲ取リタル代ハリニハ其前ニ用意シアリシ相當印紙ヲ貼用シタル事實ナルヲ以テ寄託金費消罪アルコトナシ且日附印ヲ押捺セシハ官印ニアラスシテ記號ナリ然ルヲ官印盗用罪ニ問擬セラレタルハ何レモ違法ノ裁判タルヲ免カレスト云フニ在リ

因テ原判決ヲ見ルニ第一審公判始末書中被告ノ自白シタル事項ノ記載ヲ引用シアリテ同公判始末書ヲ査スルニ被告ハ所論ノ金額ヲ竊取シ又ハ費消シタル事實ヲ自白シタル旨ヲ記載セリ而シテ原院ハ其自白シタル事項ノ記載ニ因テ所論ノ金額ヲ認メタルモノナレハ前段ノ論旨ハ謂ハレナシ中段ノ論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ上告ノ理由ト爲ラス又郵便局ノ

日附印ハ郵便局ヲ表示シ郵便物ノ發着日時印紙ノ消印等ヲ證明スルモノニシテ舊刑法ニ在テハ官署ノ印ニ該當シ刑法ニ在テハ公務所ノ印章ニ該當スルヲ以テ後段論旨モ亦理由ナシ

◉詐欺取財事件

明治四十二年(れ)第六九八號　明治四十二年六月二十四日判決　(棄却)

判決要旨

一、犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ對シ所有權ヲ有スル者アルトキハ勿論所有權以外ノ物權ヲ有スル者アルトキト雖モ之ヲ沒收セサルハ從來判例ノ認ムル所也

一、借用證書ハ債務者カ辨濟ヲ終リタルトキハ債權者ニ向テ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖トモ之レカ爲メ債務者ハ其ノ證書ノ上ニ所有權若クハ其他ノ物權ヲ收得スヘキモノニアラス從テ債權者カ未タ借用證書ヲ債務者ニ返還セサル以前ヲ之ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタルトキハ之ヲ沒收スルモ違法ニアラス

沒收スヘキ犯罪借用ノ物件

第一審　富山地方裁判所　　第二審　名古屋控訴院

被告人　酒井小左衛門外一名

右詐欺取財被告事件ニ付キ明治四十二年四月十二日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ各被告ヨリ上告ヲ爲シタルニヨリ判決スルコト左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

上告第三、原判決ニ於テハ本件證第五號ノ借用證書ハ巒田作藏ヨリ被告小左衛門ニ差入レ置キタルモ既ニ其債務關係全然消滅ニ歸シタルニ拘ハラス被告ハ辭柄ヲ設ケテ之ヲ作藏ニ返戻セサル旨ヲ判示シナカラ舊刑法第四十三條第二號第四十四條ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトシテ第一審判文ヲ是認セラレタルモ元來借用證書カ一旦其辨濟ヲ了リタル以上ハ當然之ヲ債務者ヘ返戻セサル可カラサルモノニシテ債務者ハ該證書ノ上ニ其權利ヲ有シ最早舊債權者ノ所有ニ屬セサルヤ勿論ナリ左スレハ縱ヒ被告犯罪ノ用ニ供シタリトスルモ其物件ハ被告ノ所有ニアラス且他ニ權利ヲ有スル者アル以上ハ固ヨリ之ヲ沒收スコトヲ得サルニ拘ハラス之ヲ沒收シタルハ明カニ舊刑法第四十四條ニ違背セル不法ノ裁判ナリト思料スト云フニ在リ

依テ按スルニ舊刑法第四十四條ニ所謂所有主中ニハ眞ノ所有權ヲ有スルモノハ勿論苟クモ物ノ上ニ物權ヲ有スルモノハ盡ク之ヲ包含スヘキコトハ當院從來ノ判例ニ於テ認ムル所ナリト雖モ單ニ物ニ關シテ債權ヲ有スルニ過ギサル者ハ同法條ニ所謂所有主ト云フコトヲ得サルナリ而シテ債權ハ證書アル場合ニ於テ辨濟者カ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ其證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘキモ之カ爲メ辨濟者ハ其證書ニ對シテ所有權其他ノ物權ヲ有セス同證書ニ對スル所有權ハ依然トシテ前債權者ニ存スト云ハサルヘカラス然レハ原判決ニ於テ被告小左衛門ハ本件證第五號借用證書ニ對シテハ債務者作藏ヨリ一部ノ辨濟ヲ受ケ殘部ニ付テハ被告小左衛門ヨリ作藏ニ支拂フヘキ債務ト相殺シ被告小左衛門ノ債權ハ茲ニ全部消滅セルニ拘ラス辭柄ヲ設ケテ該證書ヲ返戻セサル事實ヲ認メタルモ右判示ノ事實ニ依レハ本件證第五號借用證書ニ對シ全部ノ辨濟者タル作藏ニ於テ返還請求權ヲ有スルニ止マリ作藏ハ同證書ニ對スル所有主ナリト云フコトヲ得サルヲ以テ該證書ハ被告小左衛門ノ所有ニ係ル犯罪供用物件トシテ舊刑法第四十三條第二號第四十四條ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス從テ本論旨ハ理由ナシ

◉僞證事件

明治四十二年(れ)第七二一號　明治四十二年六月十八日判決　(棄却)

判決要旨

一、證人カ宣誓資格ヲ詐リテ宣誓ヲ受ケ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル所爲ハ僞證罪ヲ構成ス

一、證人資格ニ關スル法文ノ規定ハ唯判事ヲシテ資格ナキ證人

ニ對シ宣誓ヲ命スルコトヲ得サル趣旨ニシテ證人カ其ノ資格ヲ詐リ宣誓シタル場合ニ於テ其ノ宣誓ヲ無效ナリト解スルハ法律ノ精神ニアラサルナリ

第一審　宮崎地方裁判所　第二審　長崎控訴院

被告人　宮永榮　辯護人　高木益太郎

右僞證被告事件ニ付明治四十二年四月十九日長崎控訴院カ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

第三點刑法第百六十九條ヲ以テ問擬セラルヘキ證人ハ法律ノ規定ニ從ヒ宣誓セシメラレタルモノナルコトヲ要ス故ニ若シ其宣誓カ法律ノ規定ニ背反シテナサレタルモノナルトキハ假令形式上宣誓ノ方式ヲ履ミテ後虚僞ノ陳述ヲナシタリトスルモ其行爲ハ前記法條ニ據ルヘキモノニアラス原審ノ認定事實ニ依レハ被告ハ有馬安太郎ト五等親ノ親族關係アルコト疑ナキヲ以テ民事訴訟法第二百九十七條第三百十條ニ依リ之レニ宣誓ヲ命シ得ヘキモノニアラス故ニ縱シヤ被告カ宮崎地方裁判所ニ出頭ノ際有馬安太郎ニ關スル訴訟事件ニ付キ宣誓陳述シタルコトアリトスルモ其宣誓ハ法律ニ背ケル宣誓ニシテ刑法第百六十九條ニ所謂法律ニ依リ宣誓シタル證人ト云フヘカラサルヲ以テ假令其陳述事項ニ付キ虚僞ノ點アリトスルモ前記法條ノ適用ヲ受クヘキモノニアラス然ルニ原審カ其所爲ヲ以テ僞證罪ヲ構成スルモノトナシ之ヲ處罰シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ刑法第百六十九條ニ所謂「法律ニ依リ宣誓シタル證人」トハ法律ノ規定ニ從ヒ適式ニ宣誓ヲ爲シタル證人ノ謂ナレハ苟モ適法ニ宣誓シタル證人虚僞ノ陳述ヲ爲スニ於テハ縱令其證人カ宣誓ヲ爲ス資格ナキコトヲ隱祕シテ宣誓シタル場合ト雖モ僞證罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス何トナレハ所謂宣誓資格ナルモノハ當該官カ因テ以テ證人ニ宣誓ヲ命スヘキヤ否ヤヲ決スル定規ニシテ當該官ハ其資格ナキ證人ニ對シテ宣誓ヲ命スルコトヲ得サルノ趣旨ニ過キス證人ニシテ其資格ヲ詐ハリ宣誓ヲ爲シタル場合ニ於テ其宣誓ヲ無效ト爲スヘキモノナリト解スルハ法ノ精神ニ非サレハナリ故ニ原審カ所論ノ判示事實ニ對シテ處罰シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

◉私印私書僞造行使事件

明治四十二年(れ)第八八四號
明治四十二年七月二十七日判決（破毀）

判決要旨

一、僞造證書ヲ告訴又ハ告發ノ代理人ニ交附シタルトキハ犯人ノ目的ハ之ヲ檢事又ハ司法警察官ノ面前ニ提出シテ事實ヲ證明セントスルニ在ルモ僞造證書ノ行使ハ已ニ此時ニ成立スルモノトス

一、共犯者中前ニ起訴セラレタル者ノ爲メニ生シタル證人參考人ノ訊問費用ト雖モ苟モ共犯事件ニ關シ生シタル訴訟費用ハ其後被告トナリタル自餘ノ共犯者ヲシテ連帶負擔セシムルモ違法ニアラス

説明

文書ノ行使　文書ノ行使トハ文書ヲ以テ事實證明ノ地位ニ置クノ義也事實證明

僞造證書行使罪ノ完成時期○公訴費用ノ負擔ニ關スル共犯者ノ責任

ノ地位ニ置クトハ(一)必スシモ其ノ文書ノ目的タル事實ノ證明ニ供スルコトヲ要セス假令其ノ以外ノ關係ニ於テモ苟モ之ヲ以テ法律上ノ効果ヲ生スヘキ事實ノ證明ニ供スルニ於テハ其事項ノ何タルヲ不問文書行使ノ所爲ハ茲ニ完成スルモノトス例ヘハ僞造ノ債權證書ヲ提出シ其債權ヲ請求スル事ノ行使タルハ勿論只之ヲ以テ自己ノ資力アルヲ裝ヒ以テ無資力ノ宣言ヲ免カレントスルカ如キモ亦タ文書ノ行使タルヲ妨ケサルカ如キ是ナリ(二)僞造文書ノ行使アリトセンニハ唯之ヲ以テ事實證明ノ地位ニ置クヲ以テ足リ必スシモ其目的トスル地位ニ置クヲ要セス本判決ノ如キハ之ヲ明ニスル者ナリ即チ被告ノ目的トスル所ハ僞造文書ヲ檢事又ハ司法警察官ノ面前ニ提出スルニ在ルモ最初之ヲ受領シタル者ニシテ告訴告發ノ委任ヲ受ケタル代理人ナルトキハ文書ノ行使ハ已ニ此時ヲ以テ完成スルモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ凡ソ告訴告發ノ委任ヲ受ケタル者ハ只本人ノ意思ヲ其ノ儘裁判所ニ傳達スルニアラスシテ果シテ之ヲ告訴又ハ告發スヘキヤ否ヤハ諸般ノ證憑ニ據リ自己ノ判斷ニ由テ決スヘキモノトス左レハ今被告ニ於テ僞證書ヲ以テ此ノ判斷ノ資料ニ供スル如キハ則チ文書ヲ行使シタルモノト云ハサルヲ得サレハナリ要之ニ證明ノ地位ニ置クトハ民事タルト刑事タルトヲ不問又タ實體法タルト手續法タルトヲ不論苟モ之ヲ以テ法律上ノ效果ヲ生スヘキ地位ニ置クニ於テハ即チ文書ノ行使アリトナスヲ妨サルモノト知ルヘシ

第一審　富山地方裁判所　第二審　名古屋控訴院

被告人　高澤金藏
外三名

辯護人　高見之通
花井卓藏
渡邊澄也

右私印私書僞造行使被告事件ニ付明治四十二年四月二十八日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

原判決ヲ破毀シ、被告金藏傳三郎ヲ各懲役六月ニ處シ被告龜次郎ヲ懲役一年ニ處シ被告圓藏ヲ重禁錮一年ニ處ス

押收物件中第一審四一檢第一二八號事件ノ證第七號ノ一、二及ヒ第一審四一檢第二七八號事件ノ證第一號ハ之ヲ沒收シ其他ハ各差出人ニ還付ス

公訴裁判費用中前記一二八號事件(豫審)ノ分ハ被告金藏傳三郎龜次郎ノ連帶負擔前記二七八號事件(豫審)ノ分ハ被告圓藏ノ負擔其他ハ被告四名ノ連帶負擔トス

理由

各被告辯護人高見之通上告趣意書第一點原判決ハ其事實理由中第一ノ末段ニ於テ「傳三郎ト共ニ同縣富山市惣曲輪辯護士水内喜作方ニ到リ被告傳三郎ハ松田仁藏ヨリ預リ居ルモノノ如ク言做シテ該僞造文書二通ヲ同辯護士ニ交付シテ被告金藏ハ之カ提出方ヲ依頼シ同年二月八日同辯護士ヲシテ之ヲ上申書ニ添附シ新證據トシテ富山地方裁判所檢事局ニ提出セシメタルモノトス」トアリ

原院ハ該事件ニ關シ行使ノ時期ヲ定ムルニ付キ僞造文書ヲ富山地方裁判所檢事局ニ差出シタル時ヲ以テ行使ヲ完了セルモノトナセルハ判文上明白ナリ若シ之レヲ以テ行使ヲ完了セル時期トセハ僞造文書ヲ裁判所ヘ提出スル爲メ辯護士ニ交付シタルノ事實ハ果シテ何カ思フニ原院ハ被告最終ノ目的ヲ忖度シテ僞造文書ヲ裁判所ニ提出シタルトキヲ以テ被告ノ目的ニ適合シタルモノトナシ依テ行使ヲ完了セルモノト判定セラレタルモノナランモ被告カ僞造文書ヲ其情ヲ明サスシテ辯護士水内喜作ニ交付シタル時ヲ以テ文書僞造行使罪成立ノ時期ト見ルヘキハ屢々御院ノ訓示セラレタル判例ニヨリテモ明ナリ然ルニ原判決ハ此判例ニ適合セサル違法アリト云ハサル可ラス假ニ原判決ハ「該僞造文書二通ヲ辯護士ニ交付シ云云」ヲ以テ既ニ行使ノ時期ヲ明カニセルモノトセンカ犯罪ノ時期ヲ確定セサルニ歸スヘキヲ以テ從テ破毀ヲ免レサルモノト云フヘシト云フニ在リ

依テ按スルニ告訴又ハ告發ノ代人カ證據書類ヲ司法警察官又ハ檢事ニ提出スルハ假令告訴又ハ告發本人ノ依賴ニ因ルモ代人ハ其眞僞ヲ判別シ之ヲ提出スルノ當否ヲ判斷シタル上自己ノ責任ヲ以テ爲スヘキモノニシテ本人ノ指揮命令ニ盲從シ機械的ノ動作ヲ爲スヘキモノニアラス故ニ告訴又ハ告發ノ本人タル被告人ノ目的ハ假令僞造證書ヲ司法警察官又ハ檢事ニ提出シテ事實證明ノ具ニ供スルニ在リトスルモ之ヲ代人ニ眞正ノモノナリトシテ交付スルトキハ其瞬間ニ於テ僞造證書行使罪ハ完全ニ成立スルモノニシテ此ト同趣旨ノ解釋ハ本件ト其性質ヲ同フスル場合即チ訴訟當事者カ僞造證書ヲ眞正ノモノトシテ訴訟代人ニ交付シ訴訟代人ヲシテ之ヲ裁判所ニ提出セシメタル場合ニ於ケル僞造證書行使罪ハ完成時期ニ關シテ當院從來ノ判例ニ於テモ認ムル所ナリ左レハ所

論判示第一事實ノ場合ニ於テハ被告等(各上告人等)カ判示ノ僞造文書ヲ其告訴代人ニ眞正文書トシテ交付シタル時ニ於テ僞造文書行使罪ハ完全ニ成立シタルモノナルニ原院カ告訴代人ニ之ヲ交付シタル時ヲ以テ同罪ヲ完成シタルモノトセスシテ告訴代人ヲシテ檢事局ニ提出セシメタル時ヲ以テ同罪ヲ完成シタルモノトシテ處斷シタルハ即チ擬律ノ錯誤ニシテ原判決ハ此點ニ於テ破毀ヲ免レス

各被告辯護人法學博士花井卓藏辯護人高見之通同渡邊澄也上告趣意書第一點原判決ハ公訴裁判費用中一二八號事件中豫審ノ分ハ被告金藏傳三郎龜次郎ノ連帶負擔二七八號事件豫審ノ分ハ被告圓藏ノ負擔トスル旨ノ言渡ヲ爲セリ而シテ本件ハ第一事實(一二八號事件)ニ付明治四十一年四月十七日金藏傳三郎ノ兩名ニ對シテ起訴セラレ同年五月九日藤岡龜次郎ニ對シ右兩名ノ共犯トシテ追起訴アリ同年六月十六日ニ至リ更ニ圓藏ニ對シ第一第二事實ニ付キ起訴セラレタルコト記錄ニ徵シテ明白ナルノミナラス第一事實ニ對スル證人參考人等ハ藤岡龜次郎ニ對スル起訴以前ニ於テ悉ク之ヲ訊問シタルコト是又記錄ニ徵シテ明白ナリトス左レハ(一)起訴以前既ニ起訴セラレタル被告人ノ爲メニ訊問シタル證人參考人ノ費用ト雖モ共犯者全體ニ於テ負擔スヘキモノナリトセハ被告圓藏モ亦第一事實ニ對スル裁判費用ヲ負擔セサル可カラス然ルニ第一事實ニ對スル裁判費用ヲ被告圓藏ニ負擔セシメスシテ他ノ三名ニ連帶負擔ヲ命シタルハ不法ナリ(二)之レニ反シ起訴以前ニ訊問シタル證人參考人等ノ費用ハ共犯者ト雖モ負擔スヘキモノニ非ストセハ被告龜次郎ノ第一事實ニ對スル關係ハ被告圓藏ト毫モ異ルコトナキニ拘ハラス被告龜次郎ノミニ對シ金藏傳三郎

ト共ニ連帶負擔ヲ命シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○有罪トナリタル共犯人ニ對シテ公訴裁判費用ハ全部又ハ一部ヲ連帶負擔セシムルニハ各共犯人ニ對スル公訴提起ノ前後及其公訴費用カ共犯人中ノ或者ニ對スル公訴提起前ニ生シタルト否トニ拘ハラス苟クモ共犯ニ係ル公訴事件ニ關シテ生シタル訴訟費用ハ之ヲ共犯タル各被告人ニ對シテ連帶負擔セシムヘキモノナルカ故ニ假令所論ノ如ク判示第一公訴事件ニ關スル各證人參考人等ハ本件共犯人中ノ被告龜次郎圓藏ニ對スル起訴以前ニ之ヲ訊問シタリトスルモ之レカ爲メ被告龜次郎圓藏ハ同公訴事件ニ關シテ右起訴以前ニ生シタル訴訟費用ノ連帶負擔ヲ免ルルコトヲ得サルナリ而シテ原判決ニ於テ同公訴事件ノ共犯人タル被告圓藏ニ對シテ同公訴事件ノ豫審ニ關シテ生シタル訴訟費用ヲ負擔セシメサリシハ失當ナリト雖モ原院ニ於テ公訴裁判費用ヲ自己ニ負擔セシメサリシハ違法ナリトスル上告人圓藏ノ本論旨ハ上告人ノ不利益ニ歸スヘキ論旨ナルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス次ニ公訴裁判費用ノ連帶負擔ハ各連帶者ニ於テ各自ニ其費用全部ヲ負擔スヘキモノナレハ原判決ニ於テ所論ノ如ク本件公訴裁判費用中上告人四名ニ於テ連帶負擔スヘキ分ヲ上告人圓藏ヲ除キ上告人金藏傳三郎龜次郎ノ三名ニ連帶負擔セシムルモ之カ爲メ圓藏ヲ除キタル他ノ前記上告人三名ニ對シテハ右公訴裁判費用ノ負擔ニ關シ何等ノ損益ナキヲ以テ上告人金藏傳三郎龜次郎ノ本論旨ハ理由ナシ

◉僞證事件

明治四十二年(れ)第九三〇號 明治四十二年八月十七日判決 (棄却)

判決要旨

一、刑事訴訟法第百九十八條ノ規定ハ被告ニ對シ裁判所ノ提出スル證據物件カ如何ナル點ニ於テ證據タルヤヲ知ラシメ之レカ辯解ヲ求メントスルノ旨趣ニ外ナラス

一、被告事件ニ關シ作成シタル文書ニアラサル文書ハ之ヲ朗讀セス被告ヲシテ實見セシムルヲ通例トスレトモ若シ其ノ文書自體ノ現狀ヲ證據トセスシテ單ニ其ノ內容ノミヲ證據トナス場合ニ在テハ必スシモ之ヲ被告ノ面前ニ展開査閲セシムルヲ要セス當該官吏之ヲ朗讀シ其ノ記載事項ヲ知ラシムルヲ以テ足ル

說明

◉◉◉◉罪證ノ提出。罪ヲ斷スルニハ必ス適法ノ證據ニ由ラサル可カス而シテ其ノ證據タルヤ法廷ニ於テ一應被告ニ見聞セシメ辯解ヲ爲サシムルヲ要ス而シテ法律ハ之ヲ被告ニ見聞セシムルニ付キ證據物件ノ性質ニ由リ(一)被告ノ面前ニ展開査閲セシメテ其ノ辯解ヲ求ムルモノト(二)被告ニ實見セシメス只裁判所ヨリ證據ノ內

容ヲ告知シ以テ其ノ辯解ヲ求ムルモノトノ二者アルヲ認メタリ故ニ若シ裁判所ヨリ其ノ内容ヲ告知スヘキモノヲ之ヲ告知セスシテ被告ニ査閲セシムルカ又ハ被告ヲシテ實見セシムヘキモノヲ之ヲ爲サシメスシテ單ニ其ノ内容ヲ告知シタルニ止マルカ如キハ則チ被告ニ對スル證據提出ノ法方ヲ誤マルモノニシテ其ノ裁判ノ違法タルヤ論ヲ待タス而シテ裁判所カ被告ニ實見セシムヘキ證據ト只其ノ内容ヲ告知スヘキ證據トノ區別ハ所謂物件證據ト書類證據トニ依リテ之ヲ別ツヘク即チ其ノ證據カ物件證據ナルトキハ被告ヲシテ之ヲ實見セシムヘク書類證據ナルトキハ只之ヲ朗讀シテ其ノ内容ヲ告知スルヲ以テ足ル而シテ物件證據トハ被告事件ニ付キ押收シ若クハ被告其ノ他ノ者ヨリ任意ニ提出シタル凡テノ證據ヲ云ヒ書類證據トハ被告事件ニ關シ作成シタル證人鑑定人ノ訊問調書若クハ檢證調書等犯罪事件ニ關シ特ニ當該官吏ノ作成セル文書ノ謂ナリトス今此ノ區別ヨリ推論スル時ハ本件ノ所謂豫審調書ハ本被告事件ノ爲メニ作成シタルニアラサルカ故ニ所謂物件證據タルノ性質ヲ有スヘク左レハ之レカ提示ノ方法ハ宜シク之ヲ被告ニ實見セシメ其ノ辯解ヲ求ムルヲ相當トスト雖トモ然レトモ刑事訴訟法第百九十八條ノ規定ハ要スルニ其ノ證據物件カ如何ナル點ニ於テ罪如ク文書自體ノ現狀ヲ證據トセス只其ノ内容ノミヲ證據トスル場合ニ在テハ之ヲ被告ニ實見セシメスシテ只其ノ内容ヲ告知スルニ止マルモ被告ヲシテ證據ノ何タルカヲ知ラシメ其ノ辯解ヲ求ムルニ何等妨クル所ナキヲ以テ例ヒ證據提出ノ趣旨ニ抵觸スル所ナキヲ以テ未タ之ヲ以テ破毀ノ理由ト爲スニ足ラサルナリ

（參照）裁判長ハ各證憑ノ取調終リタル每ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問ヒ且其利益ト爲ル可キ證憑ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ告知ス可シ」又證憑物件ハ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシム可シ（刑事訴訟法第百九十八條）

第一審　長崎地方裁判所　第二審　長崎控訴院

被告人　橋川福太郎　辯護人　高木益太郎

右僞證被告事件ニ付明治四十二年五月十五日長崎控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人高木益太郎上告趣意書第一點原審ハ明治四十二年四月二十日被告辯護人ノ申請ニヨリ佐々木勇太郎ノ保管ニ係ル橋川イチ事件獵銃ノ取寄ヲ爲スヘキ旨決定シタリ（記錄第三一二丁）然ルニ原審ニ於テハ爾後ノ公判ニ於テ單ニ其帶皮ヲ取寄セ之レヲ被告ニ展示シタルニ止メ（記錄第三一三丁）ニハ取寄セアル獵銃帶革ヲ示シトアルノミ）其主要ノ證據物件タルヘキ獵銃ハ之ヲ公廷ニ

刑事訴訟法第百九十八條第二項ノ旨趣○證據提示ノ方法

顯出シテ示スコトナク直ニ公判ヲ終了シテ控訴棄却ノ判決ヲ與ヘタルハ違法ナリト信スト云フニ在リ

依テ按スルニ原審公判始末書中(記錄第三一三丁)取寄セアル獵銃帶革ヲ示シ云云トアルハ獵銃竝ニ其帶革ヲ示シ云云トノ意義ナリト解セラルヲ以テ原審ニ於テハ辯護人ノ申請ニ係ル獵銃ヲ取寄セ之ヲ公廷ニ顯出シ適法ノ證據調ヲ爲シタルコト明ナルヲ以テ本趣意ハ理由ナシ

第二點原審ハ本件犯罪事案認定ノ證據トシテ橋川イチノ豫審調書ヲ援用シタレトモ右記錄ハ本件事案ニ付キ作成セラレタル文書ニアラスシテ本件公訴ノ上ヨリ觀レハ全ク別箇ノ案件ニ係リ作成セラレタルモノナルヲ以テ其記錄ハ押收ニ係ル證據物件タルニ外ナラス從テ其證據調ハ公判ニ於テ之ヲ被告ニ示シ其意見辯解ヲ聞イテ之レヲ爲ササルヘカラサルニ原審公判始末書ヲ查スルニ單ニ其讀聞ケヲ爲シタルニ止マリ如上ノ手續ヲ履ミタル事跡ナシ然ラハ原審判決ニ援用シタル冒頭記載ノ各豫審調書ハ各適法ノ證據調ヲ經サルモノタルヲ以テ之ヲ援用シタル原判決ハ違法ナリト云フニ在リ

依テ按スルニ刑事訴訟法第百九十八條第二項ニ證憑物件ハ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシムヘシトノ規定ヲ設ケアル所以ノモノハ被告人ヲシテ其證憑物件カ如何ナル點ニ於テ犯罪ノ證據タルヘキカヲ知ラシメ此點ニ關スル辯解ヲ爲サシメシトノ趣意ニ外ナラス故ニ器物圖畫筆蹟等ノ如ク之ヲ查閱スルニアラサレハ其辯解ヲ爲シ得サル證憑物件ハ必ラス之ヲ被告ノ面前ニ展開シ查閱セシメサルヘカラスト雖モ證憑物件カ文書ニシテ其物體ノ現狀ヲ證據トスルニアラス其內容ノ記載ヲ證據ト爲ス場合ニ於テハ必スシモ其文書自體ヲ被告ノ面前ニ展開シ查閱セシムルヲ要セス當該官吏之ヲ朗讀シ其記載事項ノ如何ヲ知ラシムルヲ以テ同項ノ手續ヲ履踐シタルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ其朗讀ニ依リ被告人ハ同證憑物件ノ證據タル所以ヲ知得シ其辯解ヲ爲シ得ヘク從テ同項規定ノ趣旨ハ之ヲ貫徹シ毫モ遺ス所ナキヲ以テナリ而シテ原院ニ於テハ所論證憑物件ノ記載事項ヲ證據ト爲シタルモノナルカ故ニ之ヲ朗讀シ其記載事項ヲ知ラシメタル以上ハ同項ノ規定ニ違背シタル廉ナキヲ以テ本趣意ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢野茂干與明治四十二年八月十七日大審院休暇部

◉官吏職務執行抗拒器物毀棄事件

明治四十二年(れ)第八六五號
明治四十二年七月二十日判決

(毀却)

判決要旨

一、親告罪ニ於ケル告訴ハ犯罪ノ訴追條件ニ外ナラサルカ故ニ公訴ノ提起カ當時ノ法律ニ照ラシ適法ニ成立シタル以上ハ爾後法律ヲ改正シテ其犯罪ヲ親告罪ト爲スモ已ニ成立シタル公訴ニ付テハ何等ノ影響ヲ及スコトナシ

親告罪ノ性質○證據決定ノ執行○證據調ノ證法

一、裁判所カ證人訊問ノ決定ヲシナカラ之ヲ執行セサルトキハ其ノ裁判ハ破毀ヲ免レスト雖モ之ヲ執行シタルトキハ假令其手續ニ違法アリトスルモ之ヲ執行セサルモノト論スルヲ得ス

一、違法ノ證據調ハ唯之レニ由テ得タル證據ヲ無效トスルニ止マリ之レカ爲メ審理全部ヲ無效トナスヲ得ス

第一審　京都地方裁判所　第二審　名古屋控訴院

被告人　菱井宗七　辯護人　高木益太郎

右官吏職務執行抗拒器物毀棄被告事件ニ付明治四十二年四月二十八日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人高木益太郎上告趣意書第一點被告第一ノ所爲ハ現行犯トシテ巡査塚田延太郎ノ告發ニ係ルモノニシテ被害者畑中正治ノ告訴アリタルモノニ非サルコトハ本件記錄中ノ現行犯送致書（記錄第一丁）警部代理巡査矢野清心ノ意見書ニ徵シ明確ナリ而シテ刑法第二百六十一條及ヒ同第二百六十四條ニ依レハ被告第一所爲タル器物毀棄ノ罪ハ告訴ヲ俟ツテ始メテ論セラルヘキ所謂親告罪ニ屬ス左レハ原判決ノ如ク被告第一ノ所爲タル器物毀棄罪ニ刑法ヲ適用スル以上獨リ第二百六十四條ノ規定ノミ其適用ヲ除外セラルヘキ筋合ニアラサレハ假令其所爲カ舊刑法施行ノ當時ニ起訴セラレ且ツ舊刑法ニ依レハ告訴ヲ要セサルモノト雖モ刑法ヲ適用スルニ際シテハ一般ニ第二百六十四條ヲモ適用シテ告訴ヲ要ストスルハ當然ナルニ原院カ之ニ反スル見解ヲ以テ告訴ナキ被告第一ノ所爲ニ對シ有罪ノ判決ヲ下サレタルハ違法ナリト云フニ在レトモ◎親告罪ニ於ケル告訴ハ犯罪ノ訴追條件ニ外ナラサルカ故ニ犯罪ノ起訴カ其當時ノ訴訟手續ニ照シ適法ニ成立シタル以上ハ爾後法律ヲ改正シ其犯罪ヲ親告罪ト爲スモ起訴ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホス可キモノニアラサルコトハ既ニ當院判例（明治四十二年(れ)第八五二號恐喝取財ノ件）ノ認ムル所ナレハ本論旨ハ理由ナシ

第四點原院ハ其第一回公判ニ於テ辯護人ノ申請ニ係ル證人井谷吉五郎妻及ヒ長堀奈良松ヲ喚問スル旨決定ヲ言渡セリ從テ苟モ該決定ノ取消ヲ爲ササル以上ハ該證人ハ有效ニ其取調ヲ了シ之ヲ取捨シ得ル程度ニ其證據資料ヲ蒐集セサルヘカラス然ラサレハ決シテ證據決定ノ執行アリト云フヲ得サルモノトス然ルニ原院ハ右證人ヲ京都區裁判所ニ囑託シ其訊問調書ヲ記錄ニ補綴スト雖モ凡ソ囑託ニ依ル證人訊問調書ハ公判ニ於ケル訊問調書ト異ナリ刑事訴訟法第百三十一條ニ準據セサル可カラサルモノナルニ之ニ準據セス證人調書ヲ各人各別ニ作成セサル違法アルノミナラス證人

ニ對シ其供述ヲ讀聞カサス又證人ヲシテ一一調書ニ署名セシメサル違法アルモノナレハ該調書ハ全部無效ナリト云ハサルヘカラス從テ原院ノ公判手續ハ證據決定ノ執行ヲ爲ササルコトニ歸着スルヲ以テ此手續ニ依リ下サレタル原判決ハ毀棄ヲ免レサル違法アリト信スト云フニ在リテ○京都區裁判所判事ノ作リタル證人訊問調書ノ違法ナルコトハ論旨ノ如シ然レトモ原院ニ於テ證人訊問ノ決定ニ基キ區裁判所判事ニ囑託シ其訊問ヲ遂ケタル以上ハ縱令其訊問手續ニ付違法ノ廉アリトスルモ證據決定ノ執行ヲ爲ササルモノト云フヲ得ス而シテ證據調ハ違法ハ之ニ因テ成立シタル證據ヲ無效ト爲スニ止マリ審理全體ノ無效ヲ惹起スルモノニアラサレハ原院ニ於テ其無效ノ證據ヲ以テ斷罪ノ資料ト爲ササル以上ハ原院判決ハ瑕疵トナルヘキモノニアラス故ニ本論旨モ亦理由ナシ

◉監守盜委託金費消并附帶私訴事件

明治四十二年(れ)第八八〇號
明治四十二年七月二十七日判決（棄却）

判決要旨

一、軍人ヲ歡迎シ艦隊ヲ訪問スルカ如キハ法律上町村ノ行政ニ屬スル公共事務ニアラサレハ常人カ町村ノ公金ヲ保管スル町村助役ト共謀シテ擅ニ町村ノ公金ヲ軍人ノ歡迎費又ハ艦隊ノ訪問費ニ支出費消シタル所爲ハ其ノ常人ニ在テハ委託金費消罪ヲ構成シ町村助役ニ在テハ監守盜罪ヲ構成ス

一、監守盜罪ハ官吏公吏カ職務上監守スヘキ責任アル金穀物件ヲ擅ニ自己又ハ職責以外ノ用途ニ費消スルニ因テ成立ス

町村助役ハ町村ノ規定ニヨリ町村長ノ事務ヲ補充スルモノナレハ町村ノ公金ハ常ニ之ヲ監守スルノ責務アルモノトス

一、控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリト爲シタル場合ハ一時其ノ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ被告事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム（刑事訴訟法第二百六十四條）

一、前項ノ場合ニ於テ控訴裁判所カ受命判事ノ報告ニ基キ審判ヲ開始スルニ付テハ更ラニ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告事件ノ下調ヲ爲スノ要ナシ

（參照）控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル控訴又ハ附帶控訴アリタルトキハ其公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ（刑事訴訟法第二百六十四條第一項）

軍人歡迎ノ爲メニスル町村公金ノ亂費

重罪事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命判事ハ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フ可シ（刑事訴訟法第二百三十七條第一項）

第一審　金澤地方裁判所　　第二審　名古屋控訴院

公訴私訴上告人　渡邊昇二郎外六名　　辯護人　高木益太郎

公訴上告人　水口平內外一名

私訴被上告人　七尾町

右代表者　芳野貞成

右被告昇三郎、祇良、理吉、三治ニ對スル監守盜被告喜作、元祐、喜一郎ニ對スル委托金費消被告事件竝ニ之ニ附帶スル私訴事件及ヒ被告祇良、平內、唯房ニ對スル瀆職法違反被告事件ニ付明治四十二年四月七日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ各被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

本件公私訴ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス。私訴上告費用ハ私訴上告人ノ負擔トス

理由

被告喜作上告趣意書第一點原院ノ判決ニ於テ第一軍人歡迎會ヲ擧行スルニ明治三十九年四月頃七尾町會ニ於テ該費用トシテ金四百圓ヲ支出スルコトノ議決ヲ爲シ同町役場ヨリ之ヲ監督官廳タル鹿島郡長ニ報告シタルニ同郡長ハ之レヲ再議ニ付シ取消スヘキ趣命令シタルニモ不拘被告昇二郎

祇良、三治喜作ノ四名共謀シ其費用ノ一部トシテ被告三治カ保管セル同町費金五百二十二圓四十五錢七厘ヲ支出費消シタリト判示アルモ右費用ハ町カ當然盡スヘキモノト認メ議決シタルニ鹿島郡役所第一課主任同郡書記高宮八十二郎ヨリ再議ニ付シ取消スヘキ趣照會アリタリ其折カラ同郡書記高宮八十二郎他ノ公務ノ爲メ七尾町役場ニ出張アリタルニ因リ右歡迎會ニ就テハ石川縣下他ノ市町村ニモ該費用ヲ議決シテ擧行シアリ然ルニ七尾町ニ限リ爲シ能ハサル理由ナキノミナラス既ニ準備モ爲シタレハ今更之カ變更ハ困難ナルニ因リ是非之レカ承認ヲ與ヘラレ度趣ヲ申請置キタリ其後何等ノ命令モナキニ因リ承認セラレタルモノト認メ命ニヨリ擧行セシモノナリ若シ郡長カ絕體的之レヲ取消スヘキモノナレハ右照會ヲ發シ數月ヲ過キ尙更ニ擧行前招待狀ヲ發シ歡迎會ヲ擧行シ了リ其後被告事件發生ノ其當時迄モ凡ソ半年ノ久シキニ至ルモ正式郡達ヲ以テ取消命令之レナク且該費用ノ一部金四百圓ハ現町長及ヒ町會カ町カ負擔支出スヘキモノト認メ是認シ之ヲ監督官廳タル郡長ヘ報告シ同郡長モ之カ認定ヲ爲セリ前記ノ通リノ理由ナルニ依リ郡長カ絕體的取消命令ヲ爲スモノナレハ前ニ取消命令ヲ發シ後ニ之レカ支出ヲ認ムル理由之レナク尙監督官タル郡長ハ同一ノ人ニ無之而シテ豫算超過セル金百二十三圓四十五錢七厘ハ町村制第百九條第二項ニ依リ豫算超過及ヒ豫算外ノ支出ヲナス豫備費中ヨリ補充支出ヲ爲セシナリ然ルニ原院カ舊刑法第三百九十五條前段及ヒ新刑法第二百五十二條第一項及ヒ數罪俱發ナルヲ以テ新刑法第四十七條第十條ヲ適用セシハ不當ニシテ即チ法律ニ違背スルモノトスト云ヒ」第二點第二被告昇二郎、祇良、三治、喜作共謀シ明治三十九年七月十七日第一艦隊カ七尾灣ニ投錨シタル際之レヲ訪問スル

軍人歡迎ノ爲ニスル町村公金ノ亂費

費用トシテ金六十五圓ヲ支出費消シタルト判示アルモ右費用ハ當然町カ盡スヘキモノト認メタルト且至急ヲ要シ臨時ノ出來事ナルニヨリ町村制第百九條第二項ニ依リ豫算外ヲ補充スヘキ豫備費ヨリ支出スヘキモノナリ然ルニ原院カ第一點ノ各法條ヲ適用セシハ失當ニシテ即チ法律ニ違背スルモノトスト云フニ在レトモ○軍人ヲ歡迎又ハ艦隊ヲ訪問スル如キハ町村制上町ノ行政ニ屬スル公共ノ事務ニ非サレハ是等ノ事項ニ關シ原判示ノ如ク被告カ七尾町ノ公金ヲ保管スルモノト共謀シ擅ニ該金員ヲ軍人ノ歡迎又ハ艦隊ノ訪問費ニ支出ノ費消シタル事實アル以上ハ委託金費消罪ヲ構成スルヤ論ヲ俟タス故ニ右論旨ハ理由ナシ

第八點原審裁判長ハ其第三回公判ニ於テ被告後藤元祐ニ對スル第一審判決認定ノ第二及第五ノ公訴事實ニ付キ輕罪トシテ起訴サレタルモ原院ニ於テハ重罪トシテ審判スル爲メ公判ヲ止メ判事松本安藏氏ヲ受命判事トシテ之カ取調ヲ爲シテ報告ヲ爲サシムヘキ旨ヲ宣告セラレ而シテ松本判事ハ右ノ宣告ニ基キ受命判事トシテ被告元祐ニ對スル取調ヲ爲シタルコトハ本件記錄ニ徵シ認ムルヲ得レトモ右受命判事ノ取調タルヤ刑事訴訟法第二百四十一條所定ノ處分ニ係ルモノニシテ同法第二百三十七條ニ規定セラルル下調處分トハ固ヨリ別異ノ手續ニ屬スルモノナルヲ以テ既ニ公判ニ於テ新ニ重罪事件トシテ審理セラルル以上其事件ニ付テハ更ニ公判開廷前下調ヲ爲スヲ要シ第二百四十一條ノ處分ヲ爲シタルコトヲ以テ右ノ下調手續ニ代ヘ若シクハ下調手續ヲ略スルヲ得サルノ筋合ナリ然ルニ原院カ被告元祐ニ係ル第一審判決認定ノ第二及第五ノ公訴事實ヲ重罪事件トシテ審判シタルニ拘ラス此事案ニ付キ刑事訴訟法第二百三十七條ノ下調處分ヲ爲スコトヲ遺脫シ

タルハ公判審理ノ重要ナル手續ニ違背シタル不法アレハ之ニ因リテ成リタル原判決モ亦破毀ヲ免レスト云フニ在リ

依テ按スルニ重罪事件ノ公判ハ開廷前被告人ニ對シ其事件ノ下調ヲ爲スヲ要スルコトハ所論ノ如シ然レトモ本件ニ於ケル如ク控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリトシテ判決シタル事實ヲ重罪ナリト爲シタル場合ハ刑事訴訟法第二百六十四條ニ從ヒ受命判事カ被告人ヲ訊問シタル以上ハ同法第二百三十七條第一項ニ依リ重ネテ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノトス何トナレハ同第二百六十四條末項ニ被告人辯護人ヲ選任セサルトキハ同第二百三十七條第二項ニ從ヒ裁判長ノ職權ヲ以テ辯護人ヲ選任ス可シト規定セルニ依レハ同條第一項所定ノ訊問ハ本件ノ如キ場合ニ於テハ重複ニ亘ルヲ以テ之ヲ要セサル趣旨ナリト解シ得ヘケレハナリ而シテ被告祇良ハ本件ノ外他ニ重罪事件アリテ其事件ノ下調ヲ受ケ既ニ辯護人ヲ選定シタルモノナレハ裁判所カ本件ニ付尙ホ辯護人ヲ選任スルノ要ナク從テ原院カ本件ニ付所論手續ヲ爲ササルモ不法トセス故ニ本論旨ハ理由ナシ

辯護人高木益太郎同追加上告趣意書第一點凡ソ町費ヲ濫用スルハ保管者タル收入役ノ不正行爲ナリト謂フヲ得ヘキモ（町村制第七十一條ニ依リ保管者ハ收入役ニ限ル）保管者以外ノ被告祇良カ保管者ノ承諾ヲ得テ借用スルハ毫モ不正ノ廉ナシ何トナレハ金錢タル代替物ハ保管者ノ手ニアル間コソ町費ナルモ一旦手ヲ離ルレハ町費タルノ性質ヲ失フコトハ縱令授受當時被告等カ町費タルノ認識アリシト否トニ拘ハラサルナリ果シテ然ラハ被告祇良ノ所爲ハ全ク自己ノ所有物ヲ處分シタルモノニシテ横領罪ヲ構成セサルコト明白ナリ然ルニ原院ハ此點ニ付キ何等ノ審理ヲ爲サス漠

軍人歡迎ノ爲メニスル町村公金ノ費

然町費ナルコトヲ知ルトノ一事ヲ以テ被告祇良ノ所爲ヲ横領罪ニ問擬シタルハ擬律ニ錯誤アル違法ノ裁判ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノトスト云ヒ」第二點原判決カ犯罪構成ノ身分ナキ被告祇良ニ對シ共犯トシテ舊刑法第二百八十九條ノ監守盜罪ニ擬セラレタルハ違法ノ判決ナリ蓋シ本罪ノ構成要件トシテ舊刑法ハ自カラ保管スルトアリ新刑法ハ自己ノ占有スルトアリテ必ラス自ラ保管スルモノニ限ル而シテ助役タリシ被告祇良ハ自ラ町費保管ノ責ナキコトハ町村制第六十八條三號同第六十九條三號同第七十條ニ依リ炳乎一點ノ疑ナシ果シテ然ラハ被告祇良ハ舊刑法ノ所謂監守盜罪ノ主體タル身分ナキコト明白ニシテ同法第二百八十九條一項及刑法第三百五十三條ヲ以テ處分スルコトヲ得サル筋合ナリ然ルニ原審判決ハ其第四事實ノ理由中ニ「共謀シ云云」又私訴判決ニハ共犯ノ連帶負擔ヲ命シタル點ヨリ觀察スレハ被告祇良ヲ監守盜罪ノ共犯ト認メタルコトヲ推知シ得可シ然ルニ如斯身分ナキ祇良カ共犯ニ依テ監守盜罪ヲ何故ニ構成スルヤノ理由ヲ示サス唯タ漠然被告相互間ニ町費ナルヲ知ル（判決第四事實理由中參照）トノ一事ヲ以テ普通共犯ノ如ク舊刑法第二百八十九條第一項ヲ以テ處斷シタルハ理由不備ニ基ク違法ノ判決ナリト云ヒ」第三點被告祇良ノ所爲ハ監守盜罪ノ共犯ナリトスルモ刑ノ適用ニ付テハ通常ノ横領罪タル舊刑法第三百九十五條ノ刑ヲ適用スヘキモノナルニ特別加重ノ刑タル舊刑法第二百八十九條第一項新刑法第二百五十三條ノ刑ヲ適用處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナリ何トナレハ舊刑法第百六條新刑法第六十五條二項ニ依レハ孰レモ身分ナキ共犯者ニ對シテハ通常ノ刑ヲ科ス可キ旨ヲ規定スレハナリ蓋シ監守盜罪モ受託物費消罪モ同シク横領罪ノ一種ニシテ舊刑法第二百八十九條第一項ハ特別加重ノ刑

タルニ原判決カ本罪ニ問擬シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○監守盜罪ハ官吏又ハ公吏ニシテ法律上監守ス可キ責任アル金錢物件ヲ擅ニ自己又ハ職責以外ノ用途ニ費消スルニ因リテ成立ス而シテ町助役ハ町村制ノ規定ニ依リ町長ノ事務ヲ補助スルモノナレハ特ニ其代理ヲ爲ス場合ニアラサルモ町ニ屬スル公金ノ如キハ常ニ之ヲ監守スルノ責任アルモノトス今原判決ニ依レハ被告祇良ハ七尾町助役ニシテ七尾町ニ屬スル公金ヲ私借シタル事實ニアラス同町長收入役等ト共謀シ被告祇良ノ監守スル七尾町收入役ノ保管ニ係ル公金ヲ七尾町ヨリ支出ス可キモノニアラサル軍人歡迎及ヒ艦隊訪問其他自己ノ用途ニ擅ニ費消シタルモノナレハ其所爲通常ノ委託金費消罪ヲ構成スヘキモノニ非スシテ監守盜罪ヲ構成スルヤ論ナシ故ニ原判決カ明治二十三年法律第百號舊刑法第二百八十九條第一項刑法第二百五十三條ヲ適用シ被告祇良ヲ處斷シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

◉官文書毀棄窃盗事件

明治四十二年(れ)第三八、六號
明治四十二年七月八日大審院判決（破毀）

判決要旨

一、訴狀ニ貼用セル收入印紙ヲ剝取リ之ヲ窃取シタル所爲ハ文書毀棄罪ト窃盗罪トノ二ケノ罪名ニ觸ルヽモノニシテ現行刑法第五十四條ノ規定ニ該當スト雖モ舊刑法ニハ現行刑法第五十四條ノ如キ規定存セサルカ故ニ之レカ處分ハ其ノ觸ル、ノ罪名ニ從テ數罪ヲ適用セサルヲ得ス

一、保存期限ヲ經過シタル官文書ト雖モ之ヲ毀棄シタル所爲ハ官文書毀棄罪ヲ構成ス

説明

一罪ハ數罪ヲ犯スルモノ之レニ依リテ二以上ノ法規ニ違犯スルコトアラハ犯罪ハ一個ニアラスシテ一個タルナリ之レ一罪數罪ヲ定ムル根本ノ原則ナリトス凡ソ原則ニ對スル例外ノ適用ハ特ニ法律ノ規定アルヲ要ス

數個タルナリ之レ一罪數罪ノ別ハ犯罪ハ刑罰法規ニ違犯スル毎ニ成立スル其ノ行フ處ノ所爲ハ一ナル數個ニ別ルヽモ其ノ法規違犯ノ現象一ナルニ於テハ犯罪ハ數個ニアラスシテ一個タルナリ之レ一罪數罪ヲ定ムル

ルモノナレハ犯罪ノ併合及ヒ其ノ程度ハ現行刑法第五十四條若クハ舊刑法第三百八十一條ノ如キ特別ノ規定ヲ待テ始メテ之ヲ定ムヘク何等該文ノ徵スヘキモノナキニ於テハ原則スルノ外ナキナリ

官文書ノ保存期限 方今ノ官廳ハ何レモ文書ノ保存期限ナルモノヲ設ケテ一定ノ年限間之ヲ保存シ其ノ期限經過後ハ或ハ之ヲ燒燬シ或ハ之ヲ廢棄シテ文書ノ形體ヲ失ハシム此ノ處分タルヤ素ト行政事務取扱ノ便宜ニ出ツルモノニシテ官文書タルノ效力ハ右保存期限經過後ト雖モ依然之ヲ保持セラルヘキモノタルヤ論ヲ待タス換言セハ官文書ノ保存期限ハ官文書ノ有效期限ヲ定ムルニアラスシテ只其ノ有用期限ヲ定ムルニ過キス果シテ然ラハ保存期限ヲ經過スルト否トハ文書ノ效力ニ何等ノ關係ナク從テ右期限經過後ノ文書ト雖モ之ヲ僞造シタル所爲ハ官文書ノ僞造罪ヲ構成スルヤ明カナリ

（參照）一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス（刑法第五十四條第一項）

第一審　神戸地方裁判所　第二審　大阪控訴院

被告人　波々伯部千三郎　辯護人　宮原末太郎

右官文書毀棄竊盜被告事件ニ付明治四十二年四月二十二日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ因リ判決スルコト左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人宮原末太郎上告趣意擴張書第一點原判決ハ法律ヲ不當ニ適用シタル不法アリ本件被告カ既ニ使用濟ノ收入印紙ヲ竊取スルノ目的ヲ以テ訴狀支拂命令申請等ノ書類中ヨリ之ヲ剝キ取リタル事實ハ被告ノ認メテ爭ハサル所タルノミナラス原判決摘示ノ通リニシテ右貼用印紙ヲ剝キ取リタル結果假リニ書類ノ效力ヲ失却セシムルモノトシテ文書毀棄ノ犯罪アルモノトスルモ個ハ竊盜罪ニ伴フ必然且避ク可ラサル直接ノ結果タルニ過キサルモノニシテ現行刑法第五十四條ニ所謂一箇ノ所爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノ若クハ犯罪ノ結果ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルモノタルニ外ナラサルヲ以テ同條ノ如キ特別ノ規定アルニアラサレハ學者ノ所謂想像上ノ數罪俱發タルモ併合罪又ハ舊法ノ數罪俱發トシテ論ス可ラサルコト言ヲ俟タス然ルニ原判決ハ被告ノ犯罪ニ對シ舊法ヲ適用スルニ當リ竊盜罪及ヒ官文書毀棄ノ二罪俱發アルモノトシ同法第百條ヲ適用シテ刑ノ輕重ヲ定メタルハ明カニ數罪俱發ニ關スル法規ノ適用ヲ誤リタル失當ノ判決ニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リ

依テ按スルニ本件訴狀申請書等ノ各文書ノ毀棄ト之ニ貼用セル收入印紙ノ竊取トハ所論ノ如ク一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノト云フヘシト雖モ右ノ如キ場合ニハ各其罪名ニ對スル法定刑ノ中其最モ重キモノヲ以テ處斷スヘキ旨ヲ示シタル刑法第五十四條第一項ノ如キ規定ハ舊刑

法ニハ存セサルヲ以テ斯ル場合ニ於ケル舊刑法ノ適用ニ付テハ各罪名毎ニ各別箇ノ犯罪アリト爲スヘク共ニ合シテ之ヲ一罪ト見ルヘキモノニアラス左レハ原判決カ本件被告ノ行爲ハ右竊盜罪ノ外仍ホ別ニ官文書毀棄ノ罪ヲモ構成スルモノトシ是等ノ罪ニ對シ舊刑法第百條ヲ適用シタルハ相當ニシテ所論ノ如ク擬律錯誤ノ不法アルコトナシ

第三點原判決ハ理由不備ノ不法アリ人民ヨリ裁判所ニ提出シタル本件被告カ毀棄シタリト判定サレタル訴狀其他ノ各文書ハ何レモ法律上之レカ保存期限ナルモノアリ而シテ其保存期限ヲ經過シタル文書ハ全部廢紙トシテ處分スヘキモノナルコト明カナルニヨリ官ノ文書トシテ效力ヲ有スルニハ單ニ官廳ニ保管セルノ一事ヲ以テ足レリトセス必スヤ書類保存期間内ニアル所ノ文書タルヲ要スルコト多辯ヲ俟タスシテ明カナル所タリ然ルニ本件被告カ毀棄シタリト認定サレタル各文書ハ保存期間内ノモノナルヤ本件一件書類竝ニ押收ノ證據書類ニヨルモ明カナラサル所ニシテ從テ原判決カ此點ニ關スル理由ヲ判示セサリシハ理由ノ不備アル不法ノ判決ニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在レトモ○原判決ニ於テ本件ノ訴狀申請書等ハ既ニ廢紙ニ歸シタルモノナリトノ事實ヲ認メタル廉ナキヲ以テ右等ノ文書ハ被告ノ本件犯罪ノ當時總テ保存期限内ニ在リシモノナルコトヲ認メタル趣旨ナルコト判文上自ラ明ナルノミナラス縱シ右等文書ハ既ニ保存期限ヲ經過シタルモノトスルモ苟モ之ヲ毀棄スルニ於テハ仍ホ文書毀棄ノ罪ヲ構成スルコト多言ヲ俟タサルカ故ニ假リニ原判決ニ於テ本件被告カ犯罪ノ當時右等文書カ其保存期限内ニ在リシモノナルヤ否ヤヲ認示セサリシトスルモ理由不備ノ不法アリト云フヘカラサルヲ以テ本論旨ハ理由ナシ

◎僞證及僞證教唆事件

明治四十二年(れ)第八九九號
明治四十二年七月三十日判決（棄却）

判決要旨

一、刑事訴訟法第二百三條第一項ニ「法律ヲ適用シ其理由ヲ附スヘシ」トアルハ罪トナルヘキ事實ニ對シ刑罰法ノ正條ヲ適用シタル理由ヲ示スノ謂ナリトス而シテ之ヲ示スニハ各正條ニ規定スル刑期金額ノ範圍ヲ掲ケ其ノ範圍内ニ於テ被告ニ科スヘキ刑ヲ判決主文ニ記載スルヲ以テ足レリトシ更ラニ判決理由中ニ重ネテ之ヲ明記スルノ要ナシ

一、控訴裁判所ニ於テ控訴ヲ理由ナシトテ棄却スル判決ニハ控訴裁判所ニ於ケル犯罪事實ノ認定及ヒ法律ノ適用カ第一審判決ト全然符合スルコトヲ判示スルノ外更ラニ被告ニ言渡スヘキ刑ヲ量定シ其ノ刑カ第一審判決ニ言渡シタル刑ト同一ナルコトヲ判示スルコトヲ要ス

判決ニ法律ヲ適用シ其理由ヲ附ス可シトノ意義○控訴棄却ノ判決○控訴有理由ノ判決

一、控訴裁判所ニ於テ控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シ更ラニ刑ノ言渡ヲ爲スニハ判決主文ニ於テ被告ニ科スヘキ刑ヲ量定スルノ外其ノ理由中ニ重ネテ其ノ刑ヲ量定シタル理由ヲ說明スルノ要ナシ

（參照）控訴裁判所ニ於テハ控訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ」控訴ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲ス可シ（刑事訴訟法第二百六十一條）

第一審　大津地方裁判所　第二審　大阪控訴院

被告人　鈴木末吉外一名　辯護人　高木益太郎

右僞證及僞證敎唆被告事件ニ付明治四十二年五月一日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

第五點原審ハ其判決主文ニ於テ被告兩名ニ對シ各三个月ノ重禁錮ヲ科シタリ然レトモ右科刑ヲ爲スニ付テハ當該法條ニ定メタル法定刑期ノ內果シテ幾何ノ刑期ヲ裁定シテ之ヲ科ス可キヤニ付其理由ヲ判示セサルノミナラス又幾何ノ刑期ヲ裁定シテ之ヲ處罰スヘキヤ刑期ヲ明定シテ之カ設明

ヲ與ヘス是レ刑ノ言渡ヲ爲スニ付其理由ヲ付スヘキノ法則ニ違背シタルノ不法アリト信スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百三條第一項ニ所謂「且法律ヲ適用シ其理由ヲ付スヘシ」トハ刑ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ認メラレタル罪トナルヘキ事實ニ對シ刑罰法ノ正條ヲ適用シタル理由ヲ示スノ謂ニシテ之ヲ示スニハ判示ノ犯罪事實ヲ處罰スルニ付適用スヘキ正條ヲ掲クルヲ以テ足レリトシ各正條ニ規定スル刑期金額ノ範圍ヲ掲ケ及ヒ其範圍內ニ於テ被告ニ科スヘキ刑ヲ判決主文ニ記載スルコトノ外ニ更ニ判決理由中ニ重ネテ之ヲ明記シ且ツ其刑ヲ量定シタル理由ヲモ說明スヘシトノ趣旨ニ非ス而シテ控訴裁判所ニ於テ刑事訴訟法第二百六十一條第一項ニ依リ刑ノ言渡ヲ爲シタル第一審判決ニ對スル控訴ヲ理由ナシトシテ控訴ヲ棄却スル場合ニ於テハ控訴判決ニ於ケル犯罪事實ノ認定及法律ノ適用カ第一審判決ト全然符合スルコトヲ判示スルコトノ外ニ控訴裁判所ニ於テモ被告ニ言渡スヘキ刑ヲ量定シ其刑カ第一審判決ニ言渡シタル刑ト同一ナルコトヲ判示シ以テ第一審判決ヲ是認シタル理由ヲ示ササルヘカラサルコトハ當院從來ノ判例ニ於テ屢〻判示スル所ナリト雖モ此ト場合ヲ異ニシ本件ノ如ク刑事訴訟法第二百六十一條第二項ニ依リ控訴裁判所ニ於テ控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ叙上ノ判例ニ依ルコトヲ得ス即チ叙上判例ノ場合ニ於テハ控訴判決ノ主文ニハ被告ニ科スヘキ刑ノ量定ナキヲ以テ其理由中ニ刑ヲ量定シテ被告ニ科スヘキ刑ヲ明ラカニスルコトヲ必要トスルモ本件ノ場合ニ於テハ此ト異ナリ原判決（控訴判決）ノ主文ニハ既ニ被告ニ科スヘキ刑ヲ量定シアルヲ以テ其理由中ニ重ネテ之ヲ明記シ且其刑ヲ量定シタル理由ヲ說明スルノ要ナキナリ從テ本論旨ハ理由

ナシ

◎公印盜用公文書僞造行使私印盜用私書僞造行使詐欺取財事件

明治四十二年(れ)第八八八號
明治四十二年七月二十七日判決（棄却）

判決旨要

一、新刑法ニ於テハ公務所ノ文書ヲ僞造スル所爲ト之ヲ行使スル所爲トハ各別罪トシテ規定セルモ同一犯人カ之ヲ併セ行ヒタル時ハ刑法第五十四條ニ依リ合シテ一罪トシ其重キニ從テ處斷スヘシ

以上ノ場合ニ於テハ右各所爲中何レヲ重シトシテ處斷スルニ拘ラス此ノ犯罪ノ終了ハ常ニ其ノ最終ノ所爲タル行使ノ終リタルトキニアルモノトス從テ裁判所カ右二個ノ所爲中文書僞造ノ行爲ヲ重トシテ處罰シタルトキト雖モ之レニ對スル公訴ノ時效ハ右文書ヲ行使シタル時ヨリ起算スヘキモノトス

第一審　浦和地方裁判所
被告人　林庄太郎

第二審　東京控訴院
辯護人　福田又一

右公印盜用公文書僞造行使私印盜用私書僞造行使詐欺取財被告事件ニ付明治四十二年五月十四日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ因リ判決スルコト左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

第二點原院ハ第一ノ事實ニ於テ林久五ニ宛テタル證書ヲ同年五月十日頃作成シタルモノトシ且理由中「證憑ヲ按スルニ被告ハ當公廷ニ於テ明治三十九年中ヨリ同四十一年十月迄高坂村助役ノ職ニ在リシコト判示ノ如ク夫レ夫レ各被害者ヲ欺キ金圓ヲ騙取シタルコト被害者等ニ交付シタル證書ハ皆高坂村役場ニ於テ作成シ村長ノ印又ハ善六ノ私印等ヲ押捺シタルコトノ始末等總テ判示ニ照應スル事實ヲ自認シ云云」トアルモ同年五月十日頃作成ノ事實ハ原院ノ公判始末書ニハ此ノ如キ自認ノ記載ナシ然ルニ原院カ自認セサル事實ヲ自認セルカ如ク論スルハ猥ニ事實ヲ推測シテ處斷スルモノニシテ其不當ニ法律ヲ適用セルヤ甚タシト云ハサル可ラスト云フニ在リ

依テ原判決ヲ査閲スルニ其事實認定ノ部ニ第一事實トシテ被告庄太郎ハ云云第一明治四十一年四月下旬云云其借用ノ證トシテ同年五月十日頃高坂村役場ニ於テ高坂村長加島善六ノ氏名ヲ僞署シ善六ヨリ久五ニ宛テタル右金員借用證（豫第二號）ヲ作成シ善六名下ニ擅ニ同村長ノ職印ヲ押捺

一人ニテ公文書ヲ僞造シ行使シタル者ノ處分及ヒ之レニ對スル公訴時效ノ起算點

シテ僞造ヲ完成シ云云ト記載シ其證據說明ノ部ニ被告ハ當公廷（原院公判廷）ニ於テ明治三十九年中ヨリ同四十一年十月迄高坂村助役ノ職ニアリシコト判示ノ如ク夫レ夫レ各被害者ヲ欺キ金員ヲ騙取シタルコト被害者等ニ交付シタル證書ハ皆高坂村役場ニ於テ作成シ村長ノ印又ハ善六ノ私印等ヲ押捺シタルコトノ始末等凡テ判示ニ照應スル事實ヲ自認スト記載シ被告ハ原院公判廷ニ於テ明治四十年五月十日頃判示ノ證書ヲ作成シタルコトヲ自認シタルカ如ク記載シアルモ原院公判始末書ヲ査閲スルニ所論ノ如ク被告カ右判示ノ證書ヲ作成シタル年月日ニ付テハ何等供述ノ記載ナキヲ以テ此點ニ於テ原判決ハ事實ノ認定ニ關シ虚無ノ證據ヲ採用シタル失當アリト雖モ舊法ニ於ケル一罪タル公印盜用公文書僞造行使罪ハ同罪最後ノ所爲タル僞造文書行使ノ所爲ヲ終リタル日ニ發生シタリト云フヘク同罪ニ對スル公訴時效期間モ亦同日ヨリ進行スヘク公文書カ僞造セラレタル日ハ同罪ノ發生時期及同罪ニ對スル公訴時效期間ノ進行ニ何等ノ關係ナク新刑法ニ於テハ公務所ノ印ヲ盜用シテ公務所ノ文書ヲ僞造スル罪ト右僞造ニ係ル公務所ノ文書ヲ行使スル罪トハ各別箇ノ罪トシテ規定セルモ同一犯人カ同文書ヲ僞造シテ且ツ行使シタル時ハ右僞造ト行使ノ各所爲ハ交互手段タリ結果タル關係ヲ有スルヲ以テ同法第五十四條第一項後段ニ依リ各所爲ハ合シテ一罪トナルヘキカ故ニ此場合ニ於テハ以上各所爲ノ內其何レヲ重シトシテ處斷スルニ拘ハラス常ニ同罪最後ノ所爲タル行使ノ終リタル日ニ發生シタリト云フヘク同罪ニ對スル公訴時效ノ間期モ亦同日ヨリ進行ヲ開始スヘク同文書ヲ僞造シタル日ハ同罪ノ發生時期及ヒ同罪ニ對スル公訴時效期間ノ進行ニ何等ノ關係ナキモノトス然レハ原判決ニ於テ所論ノ一罪タル公印盜用公文書僞造行使ノ事實ヲ判示スルニ當リ其行使ノ時期カ明治四十一年五月二十三日ナルコトヲ判示スル以上ハ同罪ハ新刑法施行以前ニ發生シタルモノナルコト及ヒ同罪ニ對スル公訴時效期間進行ノ開始時期ヲ明示シタルモノトシテ欠クル所ナク更ニ同文書ヲ僞造シタル時期ヲ判示シ及ヒ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ說明スルノ理由ナキナリ從テ假令原判決ニ於テ右公文書ヲ僞造シタル時期ヲ判示シ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ說明スルニ當リ所論ノ如ク虚無ノ證據ヲ採用シタリトスルモ之カ爲メ原判決ヲ破毀スルノ理由トナラス故ニ本論旨ハ結局理由ナキニ歸ス

◉僞證敎唆事件

明治四十二年(れ)第九一七號
明治四十二年八月十日判決（棄却）

判決要旨

一、自己ノ犯罪ヲ免カレンカ爲メ人ヲ敎唆シテ僞證セシメタル所爲ハ僞證敎唆罪ヲ構成ス

說明

被告自ラ虚僞ノ陳述ヲナシ因テ以テ罪責ノ免脫ヲ謀ルハ之レ自己ヲ保護スル辯護權ノ範圍ニ屬シ裁判所ハ被告ノ陳述カ虚僞ニ涉ルノ故ヲ以テ之ヲ處罰スルヲ得スト雖モ然レトモ被告カ人ヲ敎唆シテ自己ノ犯跡ヲ虚陳セシムルニ於テハ最早辯護權ノ範圍ヲ超越セル所爲ニシテ之ヲ目シテ辯護權ノ行使ト爲スヲ得ス左

自己ノ犯罪ヲ免カルヽカ爲メ人ヲ敎唆シテ僞證セシメタル被告ノ處分

レハ被告カ他人ヲ教唆シテ自己ノ犯跡ヲ虚陳セシムルノ行爲ハ則チ被告以外ノ第三者カ人ヲ教唆シテ僞證ヲナサシムルト其ノ行爲ノ性質ニ於テ敢テ異ナルコトナケレハ之ヲ僞證教唆罪ニ問擬スヘキヤ當然也

第一審　千葉地方裁判所　第二審　東京控訴院

被告人　海老原德太郎　辯護人　山本二郎　岩崎勤

右僞證教唆被告事件ニ付明治四十二年五月十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人山本二郎上告趣意書原判決ハ被告人ニ僞證教唆ノ事實アルコトヲ認定シテ直ニ刑法第百六十九條及第六十一條ヲ適用シ被告ヲ僞證教唆罪ニ問擬シタルモ是レ被告カ自己ニ係ル事件ノ審理ヲ受クルニ方リ虚僞ノ供述ヲ爲サシメタルヲ以テ刑法上ノ僞證教唆罪ト爲スモノニシテ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリト思料ス抑モ僞證罪トハ他人ノ被告事件ニ證人トシテ宣誓ヲ命セラレタル上虚僞ノ供述ヲ爲スニ依リテ構成セラルルモノニシテ即チ其犯罪構成要件トシテ(一)他人ノ被告事件タルコト(二)證人タリ得ル資格アルコト(三)他人タル被告ヲ曲庇シ又ハ陷害スルノ意思アルコトノ三要件ヲ具備スルコトヲ必要トシ其一箇ヲ缺クニ於テハ僞證罪タルコトヲ得サルモノニシテ僞證教唆罪モ亦此要件ヲ具備スルコトヲ必要トスルヤ勿論ナリ何トナレハ教唆罪トハ其自己ニ代ユルニ他ノ責任能力者ヲ行爲ヲ以テスルモノニシテ犯罪ノ態樣ニ於テ何等輕重ナク法理ノ上ニ於テモ唯犯人ノ複數ナルニ止マルノミ然リ而シテ今ヤ本件ニ付テ之ヲ見ルニ其第一要件タル他人ノ被告事件タルコトヲ要スル根本ノ要素欠缺スルモノニシテ被告ハ自己ノ犯罪ニ付テ虚僞ノ供述ヲ爲サシメタルモノニシテ決シテ僞證罪ノ主體タリ得ヘカラス第二ニ僞證罪ハ證人トシテ爲シタル供述ノ虚僞ナルコトヲ必要トスルニ本件事案ハ然ラス夫レ被告人カ自己ニ係ル被告事件ニ於テ虚構ノ陳述ヲ爲スハ其權利ニ屬スルモノニシテ即チ被告ノ有スル辯護權ノ支分權ナリト云フヲ正當トス糺問主義ノ廢止セラレテ彈劾主義トナリタル刑事訴訟ニ於テハ被告ノ供述ノ虚僞ナルヲ以テ犯罪ヲ構成スルモノト爲サス而シテ被告ハ其犯罪行爲ニ付キ諸般ノ方面ヨリ幾多ノ辯護權ヲ有スルモノニシテ本件ニ於ケル事實ノ認定其當ヲ得タルモノトスルモ僞證罪ノ構成要素タル證人タリ得ルノ能力ナキ者ヲ以テ僞證教唆罪ニ問擬セントスルハ僞證罪ト教唆罪トノ關係ヲ誤解シタルモノト信ス第三ニ被告ヲ曲庇又ハ陷害スルノ意思アルコト即チ目的アルコトヲ要ス蓋シ自己ニ係ル被告事件ニ於テ自ラ進ンテ處罰ヲ受ケント爲シ又ハ處罰ヲ免レント爲シ以テ虚僞ノ供述ヲ爲スハ毫モ法律ノ禁スル所ニアラサルハ前述ノ如クニシテ此理ハ彼ノ證據煙滅罪及犯人藏匿罪等ニ付テ見ルモ明瞭ニシテ該規定ニヨレハ犯人自己ノ行爲ニ係ルトキハ勿論他人ヲシテ之ヲ犯サシメタル場合ニ於テモ共ニ犯罪ヲ構成スルモノニアラス由是觀之被告人自身ノ其被告事件ニ付テ爲スノ供述ハ其犯罪事件ノ審理ニ妨害アルモノト雖モ何等處罰セラルヘキ犯罪ニアラサルナリ況ンヤ自己ノ犯罪ヲ免カル、カ爲メ人ヲ教唆シテ僞證セシメタル被告ノ處分

僞證罪ノ如キハ他人ヲ曲庇シ又ハ陷害シテ以テ裁判權ノ運用ヲ阻止スルノ目的アルコトヲ犯罪構成ノ要件ト爲スニ於テオヤ被告ニ於テ自ラ之ヲ曲庇セントセルハ刑法ニ所謂曲庇ニアラス拷問主義ノ廢止ハ即チ此意味ニ於テ效果アルモノナリト信ス之ヲ要スルニ以上ノ三要件ヲ具備スルニアラスンハ僞證罪ヲ是認スルコトヲ得ス或ハ刑法第六十五條ノ規定ヲ提ケテ以上ノ主張ヲ難セントスル者アランカ然レトモ本條ノ規定ハ絶對的ノモノニアラス本條ニ所謂身分トハ其犯人ノ身分タルコト疑ヒナカラン然ラハ證人タリ得ルノ資格ハ刑法ニ所謂身分タリヤ否ヤハ疑問ノ餘地アリト雖モ玆ニハ暫ク之ヲ身分ナリト解セン然レトモ僞證罪ノ主體タル犯人ヨリ見テ其他人タルコトヲ要スルハ犯人ノ身分ニ何等關係ナキコトナリ犯人ノ身分ト被告タル他人トハ刑法上別個ノ人格者ナリ既ニ然リトセハ證人タリ得ルノ資格ナキ者ト雖モ亦僞證教唆罪ヲ犯シ得ルモノナリ然レトモ其教唆者タル犯人ヨリ見テ亦本犯被告カ他人タルコトヲ要スルハ毫モ疑ヒナキトコロニシテ此理ハ自己ノ被告事件ニ付キ事實上及法律上證人タリ得サルコトニ依リテ明カナリド信ス故ニ刑法第六十五條ニ付キ誤レル斷定ヲ下シタル論者ノ所說ハ採ルニ足ラサルナリ以上之ヲ要スルニ原判決ハ正犯ト教唆トノ關係ニ於ケル此瀝然タル理論ヲ無視シ被告ニ僞證教唆罪アリト爲シタルモノニシテ到底不當ナル論結タルヲ免レサルモノト思料スト云フニ在リ

依テ按スルニ自己ノ犯罪ヲ免カルルノ目的ニ出テタリトスルモ苟クモ人ヲ教唆シテ他ノ罪ヲ犯サシムルニ於テハ其所爲タル竟畢自己ノ辯護權ノ範圍ヲ超越シタル行動ニ屬スルヲ以テ最早之ヲ目シテ辯護權ノ行使ト爲スコトヲ得ス從テ其教唆ノ所爲ニ付刑罰ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルコト亦疑ヲ容レサル所ナリトス而シテ右ノ趣旨ハ本院判例ノ夙ニ是認スル所ニシテ今日之ヲ變更スルノ理由アルヲ見ス左レハ原院ニ於テ被告狩獵法違犯事件ノ控訴中無罪ノ判決ヲ得ンカ爲メ海老原金藏ヲ教唆シテ原判決所揭ノ僞證ヲ爲サシメタル所爲アルコトヲ認メ之ヲ以テ僞證教唆ノ罪ヲ構成スルモノトシテ被告ニ對シ刑法第百六十九條第六十一條第一項ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

◉新聞紙條例違犯事件

明治四十二年(れ)第八七二號
明治四十二年七月二十三日判決（破毀）

判決要旨

一、重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ新聞紙上ニ之ヲ記載スルコトヲ得ス（新聞紙條例第十六條）

一、豫審ニ關スル事項トハ現ニ豫審判事ノ審問ニ係ル例ヘハ被告人ノ供述證人鑑定人ノ陳述押收物件ノ性質等豫審處分ノ內容ヲ意味スルノミナラス苟モ被告事件ノ內容ニ關スル事項ハ悉ク之レニ包含ス

（參照）重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス（新聞紙條例第十六條第一項）

新聞ニ記載ス可ラサル豫審事項ノ範圍

第一審　水戸地方裁判所　第二審　東京控訴院

被告人　北條辰彦　辯護人　大森富彌

右新聞紙條例違犯被告事件ニ付明治四十二年五月十二日東京控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告及ヒ辯護人高尾傳七ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ判決スルコト左ノ如シ

判決

原判決中有罪ノ部分ハ之ヲ破毀ス、被告辰彦ヲ罰金五十圓ニ處ス、但罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二十日間勞役場ニ留置ス、押收物件ハ所有者ニ還付ス

理由

辯護人大森富彌上告趣意書第一點新聞紙條例第十六條第一項ニ所謂重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項トハ豫審判事ノ爲ス所ノ審理ニ關スル事項卽チ豫審ノ內容ニ屬スル事項ヲ意味スルモノニシテ被告事件ニ關スル事項ト豫ニ審關スル事項トハ意義ノ範圍ニ於テ廣狹ノ差異アルハ當然ナリトス故ニ新聞紙上ニ被告事件ノ概要卽チ被告人及ヒ被害者ノ氏名犯行ノ手段被害ノ程度等犯罪ノ事實ヲ揭載スルモ豫審ニ於ケル被告人ノ供述證人ノ證言押收物件ノ性質等豫審處分ノ內容ヲ登載セサル以上ハ未タ以テ第十六條第一項ニ違犯スルモノト謂フヲ得ス同條第二項ニ於テ傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ新聞紙上ニ記載スルコトヲ得サル旨規定セルモ是レ只傍聽禁止中ノ審理ニ止リ其前後公開セラレタル審理ノ狀態等其訴訟ノ趣旨ヲ記載スルニ於テ毫モ此法條ニ牴觸セサルヨリ之ヲ觀ルモ同條第一項ノ事項ナル文詞ハ理論上狹義ニ解釋スヘキモノナルノミナラス御院ニ

於テ明治三十二年第六六七號新聞紙條例違犯被告事件ニ付同年六月二十三日言渡サレタル判決ノ趣旨亦同一ニシテ此判例タル十年間繼續シテ實行セラレタルモノニシテ今ニ至リ之ヲ變更スルノ理由ヲ發見スル能ハス而シテ本件ハ原判決ニ摘示スルカ如ク單ニ黑川巖外二名カ詐欺取財等ノ犯罪ヲ爲シタル要旨ヲいはらき新聞紙上ニ記載シタルニ止マリ毫モ豫審處分ノ內容卽チ被告人ノ供述證人ノ證言押收物件ノ性質等證憑ノ蒐集ニ關スル事項ヲ記載セサルニ不拘原裁判所ニ於テ新聞紙條例第十六條第一項ニ違犯セルモノトシ同第二十九條ニ問擬セラレタルハ擬律ノ錯誤アルモノト信スト云フニ在リ

因テ按スルニ新聞紙條例第十六條第一項ニ所謂豫審ニ關スル事項トハ豫審ニ繫屬スル被告事件ノ內容ニ關スル事項ノ謂ヒルコトハ本院ニ於テ夙ニ判示スル所ニシテ之ヲ立法ノ精神ニ徵スルモ斯ク解釋スルヲ以テ相當トス若シ所論ノ如ク豫審處分ノ內容ノミヲ謂フモノナリト解シ右豫審處分ノ內容ニ涉ラサル限リハ豫審ニ係ル被告事件ノ內容ヲ新聞紙ニ揭載スルヲ妨ケスト爲セハ豫審ニ於ケル證據蒐集ノ目的ヲ完全ニ遂行スルコトハ到底之ヲ望ムヘカラス豫審制度ヲ採用シタル趣旨ヲ沒却スルモノト謂ハサルヘカラス今原判決ニ於テ認定シタル事實ヲ査閱スルニ被告ハ新聞紙いはらきノ編輯人トシテ意思ヲ繼續シ明治四十二年三月九日發行同新聞第五千三百二十一號ヨリ同月十一日發行同新聞第五千三百二十三號ニ涉リ「空前ノ大詐欺」ト題シ先ツ黑川巖外二名ノ拘引セラレタル顚末ト其犯罪地域ノ廣濶ニシテ被害額ノ多大ナル事實トヲ略叙シ進ンテ黑川等カ巧妙ノ手段ヲ用ヰ詐欺取財ヲ爲シタル事例ノ二三ヲ詳說シ尙ホ一二ノ被害事實ヲ附記シ更ニ其共犯ト

新聞ニ記載ス可カラサル豫審事項ノ範圍

シテ拘引セラレ若クハ拘引狀ヲ發付セラレタル者ノ氏名ヲ掲示シ水戸地方裁判所豫審判事ハ水戸警察本部及ヒ水戸警察署ト氣脈ヲ通シテ活動ヲ繼續スルヲ以テ取調ノ結果事件ハ益紛糾シ或ハ意外ノ邊ヨリ拘引者ヲ見ルヤ測知スヘカラストノ趣旨ヲ掲ケ當時水戸地方裁判所ニ於テ豫審中ノ黑川巖外二名ニ對スル被告事件ニ關スル事項ヲ連載シタリト云フニ在リテ其記載シタル事項ハ豫審ニ係ル被告事件ノ内容ニ屬スルコト明確ナレハ新聞紙條例第十六條第一項ニ所謂豫審ニ關スル事項ヲ記載シタルモノニ該當スト謂ハサルヘカラス故ニ原判決ニ於テ前掲犯罪事實ヲ認メ之ヲ前示法條ノ違犯トシテ論シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ但シ原判決ニ據レハ原審ハ前掲新聞紙記載ノ事項ハ被告ノ新聞社ニ於テ自ラ探知シタルモノニ係ルコトヲ認メサルカ故ニ本論旨中援用シタル本院明治三十二年第六六七號事件ノ判旨後段ハ本件ノ場合ニ該當セサルモノトス

◉約束手形僞造行使詐欺取財事件

明治四十二年(れ)第八八五號
明治四十二年七月二十七日判決（破毀）

判決要旨

一、豫審終結決定ニ依リ重罪トシテ公判ニ附セラレタル被告事件ニ付キ第一審裁判所カ之ヲ輕罪ナリト認定シ輕罪ノ刑ニ處シタルトキハ第二審裁判所モ亦タ之ヲ輕罪トシテ受理判決スヘシト雖氏若シ第一審裁判所カ其ノ事件ハ重罪ト認ムルモ唯其ノ處罰ノ刑ヲ輕減シテ輕罪ノ刑ニ處シタルニ止マルトキハ第二審裁判所ハ尚ホ其ノ事件ヲ重罪トシテ取扱ヒ審判ニ先チ下調ヲ爲ササル可ラス

第一審　岐阜地方裁判所　　第二審　名古屋控訴院
被告人　村田健太郎　　辯護人　原田亮

右約束手形僞造行使詐欺取財被告事件ニ付明治四十二年五月十二日名古屋控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシテ被告ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

原判決ヲ破毀シ事件ヲ大阪控訴院ニ移ス

理由

辯護人原田亮上告趣意書第四點本件ハ重罪事件トシテ岐阜地方裁判所ニ於テ審理判決セラレタルコト一件記錄ニ徵シテ明ナリ而シテ其審判ノ結果酌量減刑ニ依リ一年六个月ノ重禁錮ニ處セラレタリト雖モ酌量減刑ハ舊刑法各本條ニ規定シタル特別減刑若クハ未遂犯從犯ノ減刑ト異リ其罪質ヲ變更スルモノニ非ルハ御院判例竝ニ學說ノ一致スル所ナルヲ以テ原院ニ於テモ又依然重罪事件トシテ繫屬シタルモノトイハサル可カラス　シ夫レ刑法施行法第二十九條ノ規定ハ刑法施行後ノ犯罪ニ適用スヘキモノニシテ舊刑法施行當時ニ犯サレタル本件被告事件ニ付適用スヘカラサルヤ

言ヲ俟タス況ンカ現ニ舊刑法ヲ適用處斷シタルオヤ從テ原院ニ於テハ刑事訴訟法第二百五十八條第一項及ヒ第二百三十七條ノ規定ニ依リ公判開廷前一應被告人ヲ訊問シ特ニ調書ヲ作成セサルヘカラサルニ拘ラス原院ニ於テハ該手續ヲ履踐スルコトナク直ニ公判ヲ開廷シテ審理判決ヲ爲シタルハ法則ニ背戻スル不法アルモノト信スト云フニ在リ

因テ按スルニ刑事訴訟法第二百三十七條ニハ重罪事件ニ付テハ云云トアルカ故ニ豫審終結決定ヲ以テ重罪トシテ公判ニ付シタル事件ヲ第一審裁判所ニ於テ輕罪ナリト認メテ輕罪ノ刑ニ處シタル場合ニ在テハ第二審裁判所ハ輕罪事件ヲ受理シタルモノナルヲ以テ同條ノ規定ニ從ヒ其事件ノ下調訊問ヲ爲スノ要ナキモ第一審裁判所ニ於テ重罪ナリト認メタルモ其刑ヲ酌減シテ輕罪ノ刑ニ處シタル場合ニ在リテハ第二審裁判所ハ重罪事件ヲ受理シタルモノナルヲ以テ其事件ノ下調訊問ヲ爲ササル可ラサルモノトス今第一審判決ヲ査スルニ約束手形僞造行使即チ重罪ナリト認メタルモ其刑ヲ酌減シテ重禁錮ノ刑ニ處シタルモノナレハ原院ハ宜シク公判開廷ニ先チ下調訊問ヲ爲ササル可ラサルニ其措置爰ニ出テサリシハ失當ニテテ本論旨アリ而シテ此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘキモノナルヲ以テ其他ノ論旨ニ對シテハ逐一說明ヲ與フルノ要ナキモノトス

◉贓職法違犯事件

明治四十二年(れ)第八三五號　明治四十二年十月五日判決（破毀）

判決要旨

一、數人共同シテ收賄シタル場合ニ於テ其ノ價額ヲ追徵スルニハ右共同者各自ノ實收如何ニ拘ラス平等ニ之ヲ分擔セシムヘキ行爲ニアラサルヲ以テ證據ニヨリ之ヲ說明スルノ要ナシ

一、收賄シタル金品ヲ費消スルノ所爲ハ罪トナルヘキ行爲ニアラサルヲ以テ證據ニヨリ之ヲ說明スルノ要ナシ

一、拇印ハ刑事訴訟法上一種ノ印章タルヲ失ハス從テ捺印ヲ必要トスル書類ニ之テ押捺シアル以上ハ別ニ捺印シ能ハサル事由ヲ附記スルノ要ナシ

一、官吏ノ任命補職ハ官報ニ掲載スルニ由テ直チニ其ノ效力ヲ生スヘキモノニアラス當該官廳ヨリ本人ニ其ノ辭令ヲ交付スルカ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ本人ニ通告スルヲ要ス

一、豫審請求書ト公判判事ノ認定スル賄賂ノ金額及贈賄者ノ人數人共犯ノ收賄者ニ對スル價額追徵○罪トナラサル事項ノ認定○拇印ノ效力○官吏ノ任命補職○豫審請求書ト公判認定ノ相違

名ニ付キ多少相異スル所アリトスルモ之ヲ以テ直チニ公訴ノ範圍外ニ涉リ審判シタルモノト云フヲ得ス

説明

判決事項ノ認定。 裁判所カ判決事項ヲ認定スルニ付キ特ニ一定ノ證據ニ依據スヘキハ獨リ罪トナルヘキ事實ヲ認定スル場合ニ限ル凡ソ刑事裁判所ノ認定ハ其ノ目的トスル所畢竟罪トナルヘキ事實ヲ認定スルニ外ナラスト雖モ其之ヲ認定スルニ付テハ付從ノ事項トシテ若クハ其ノ準備事項トシテ確定セサル可ラサルモノ一ニシテ足ラス例ヘハ被告人ノ身分年齡若クハ犯罪ノ日時場所ノ如キ是ナリ被告ノ身分カ華士族平民中ノ何レニ屬スルヤ又タ其ノ生年月日ノ何年何月ニ相當スルヤノ問題ハ其ノ性質罪トナルヘキ事項ニアラサルカ故ニ此等ノ事項ヲ決定スルニ付テハ夫レノ犯罪事實ヲ認定スルカ如ク一定ノ證據ヲ援用シ之レニ準據スルノ要ナキナリ

又タ本案ノ目的タル事項ニ付テモ一定ノ證據ヲ必要トスルハ唯有罪ノ判決ヲ爲ス場合ニ止マリ若シ之レニ無罪ノ言渡ヲ爲スニ付テハ則チ罪トナルヘキ事實ノ認定ニアラサルカ故ニ一定ノ證據ニ依據スルノ要ナキナリ刑事訴訟法第二百三條ハ唯罪ヲ斷スルニ付キ證據ニ援ルヘキヲ命シ其ノ然ラサル場合ニ之ヲ命シタルノ文意ヲ發見スルコト能ハス宜ナル哉犯罪則チ罪トナルヘキ事實ハ普通ノ狀態ニ反スル一種ノ現象ニシテ其ノ之ヲ現出スルニ至ルマテニハ必スヤ相當ノ形跡存スヘク左レハ今之ヲ認定スルニ付テモ必ス先ツ此ノ形跡（即チ證據）ヲ點檢シ據テ以テ事ノ眞想ヲ知ラサル可スト雖モ若シ其ノ行爲カ罪トナラサルニ於テハ是レ則チ吾人共同生存ノ普通ノ狀態ニシテ從テ無罪タルヘキ證據ヲ求ムルカ如則チ難キヲ人ニ攻ムルモノニシテ採證ノ理ニ於テ已ニ其ノ然ルヲ知ルヘシ之ヲ要スルニ法律ハ罪ヲ斷スルニ付テノミ一定ノ證據ヲ求メ罪トナラサル事項ノ認定ニ付テハ之レニ一定ノ理由ヲ附スルコトヲ求ムル場合ハ之レアルモ證據ニ準據スヘキヲ命スルノ規定ナシ

拇印ノ效力。 拇印ハ一定ノ印顆ニ依リテ顯出スルモノニアラサルモ古來之ヲ一種ノ印章ニ代用セルハ一般慣例ノ認ムル所ナリ本判決ハ則チ從來ノ慣例ニ依リ拇印ノ效力ヲ認メタルモノニシテ大ニ讀者ノ注意ヲ要スル所ナリト信ス

官吏ノ任官及ヒ補職。 官吏任命ノ性質如何ニ付テハ行政法上ノ一大問題ニシテ之ヲ決スル容易ノ業ニアラスト雖モ其ノ效力ノ發生時期ニ至テハ諸種ノ異論アルヲ聽カス官吏ノ任命補職ノ效力ハ單ニ之ヲ官報ニ掲載シタルノミニテハ發生セス必ス之ヲ本人ニ通知スルコトヲ必要トスルハ已ニ學說ノ一致スル所ニシテ本判決ハ正ニ其ノ時期ヲ明ニスルモノニシテ判旨已ニ明斷ナリト雖モ更ラニ一

歩ヲ進メテ之ヲ分析スルトキハ亦タ多少説明ヲナスノ餘地ナキニアラス則チ任官若クハ補職ノ效力ハ單ニ其ノ通知ヲ受信シタルトキニ生スルカ將タ本人ニ於テ更ラニ之ヲ了知シタル時ニ生スルカ例ヘハ官吏ノ任命若クハ補職ヲ隔地間ニ於テ郵便若クハ電信ヲ以テスル場合ニ其ノ書信カ本人ノ居宅ニ受信セラルヽモ之ヲ受ケタル者ハ家族若ハ其雇人ニシテ本人ハ他ヘ旅行中ナルカ如キ若クハ其家ニ在宅スルモ受信者カ之ヲ本人ニ示スコトヲ忘レ數日間本人ニ於テ之ヲ知ラサルカ如キ場合ヲ想像シテ右任命補職ノ效力ノ發生時期如何ヲ考フルニ余ノ信スル所ニ依レハ斯ル場合ニ於テハ本人自ラ其ノ信書ニ接シ其ノ申達ノ趣キヲ了知シタル時ニ以テ右效力ノ發生時期トナスヘキモノナリト確信スヽ之ヲ完然ニ了知シタル時ニ可ラス則チ法令ニ別段ノ規定ナキ以上ハ官吏ノ任命補職ノ效力ハ民法上ノ所謂受信主義ニアラスシテ本人ノ效力ヲ認定スヘキモノナリト確

第一審　大阪地方裁判所　第二審　大阪控訴院

被告人　高田寅外二名　辯護人　横山鐵太郎　竹田廣助　赤沼眞次郎　花井卓藏　渡邊澄也　高木益太郎　牧野賤男　天野敬一　高野金重　後藤德太郎

右濱職法違反被告事件ニ付明治四十二年四月十五日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告等ハ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

判決

被告實及ヒ芳太郎ノ上告ハ之ヲ棄却ス、原判決中被告哲夫ニ關スル部分ハ之ヲ破毀ス、被告哲夫ヲ重禁錮四月ニ處シ收賄金八百五十圓ノ三分一ヲ追徵ス、押收物件ハ差出人ニ還付ス、公訴裁判費用ハ被告哲夫ニ於テ相被告實芳太郎ト連帶負擔スヘシ、

理由

被告哲夫上告趣意書第一點凡賄賂ノ收受金ハ現ニ收受ヲナシテ費用シタル現實ノ金額ヲ追徵スヘキモノナルコトハ濱職法第二條竝ニ追徵ノ性質ニ徵シ明白ナリ然ルニ原判決カ被告等通謀ノ事實アリトシ直ニ各自ニ其全部ノ追徵ヲ命スヘキモノナリト判示シ各被告ノ現實收受シタリト認ムヘキ金額ヲ（豫審決定竝ニ第一審判決ニハ各被告ノ現實收受ノ金額ヲ認定セリ）明カニ判斷セサリシハ理由ノ不備アルモノトス而シテ本件ノ場合ヲ以テ共同收受ナリトスルモ共同收受ノ場合ハ各自ニ全部追徵ノ責務ヲ命スヘキモノナリトノ法理ノ存在ヲ認メス又追徵金ハ裁判費用ノ如ク共犯者間連帶責任ナリトスル等特別規定アルニアラサレハ單ニ共謀ナリトノ故ヲ以テ現ニ收受セサル部分ニ對シテモ換言セハ其全部ニ對シ各被告共同ノ責任アリト論スルヲ得サルハ言ヲ俟タス（明治四十一年(れ)第一二〇七號本年三月二十三日御院判例引用）故ニ原判決ハ擬律ノ錯誤アル失當ノ判決ナリトスト云フニ在リ

因テ按スルニ原判決ニハ被告哲夫カ被告實及ヒ芳太郎ト通謀シテ其大阪府會議員タル職務ニ關シ

數人共犯ノ收賄者ニ對スル價額追徵○罪トナラサル事項ノ認定○拇印ノ效力
○官吏ノ任命補職○豫審請求書ト公判判認定ノ相違

テ相被告於勢牛三郎ヨリ賄賂トシテ金八百五十圓ヲ收受シタル事實ヲ判示シアルヲ以テ被告等各自カ收得シタル金額ノ明示ナキモ理由ノ不備アルモノニ非ス本論旨ノ前段ハ其理由ナシ然レトモ數人カ共同シテ一團ト爲リ賄賂ヲ收受シタル場合ニ於テハ共犯人其金額ニ付キ責任ヲ負フヘク各自カ分配ヲ受ケタル部分ノミニ付キ責任ヲ負フモノニ非ス而シテ又費用シタル賄賂ヲ追徵スル場合ニ於テハ分配金額ノ多少ニ拘ハラス共犯人ノ各自ヲシテ平等分割シタル數額ヲ負擔セシムヘキコトハ本院ノ屢判示スル所ナリ（本論旨ニ援用セル判例以外三十四年（れ）第一八〇六號三十五年三月二十八日宣告ノ判決參照）原判決ニ於テハ被告哲夫等三名各自ニ對シテ收受費用シタル賄賂金ノ全額ヲ追徵スヘキモノナリト判示シタルハ擬律上不法アルモノニシテ本論旨ノ後段ハ理由アリ

被告哲夫辯護人横山鑛太郎高木益太郎上告趣意書第一原判決ハ上告人カ收受シタリト認定シタル金員ヲ追徵シタル理由ヲ「且其收受シタル賄賂金ノ現存セリト認ムヘキモノ記錄中ニ存在セサル事跡ヲ綜合參酌スレハ」ト說示シ斯ノ如クシテ沒收不能ナルカ故ニ其價ヲ追徵ストセラレタルモノナリ然ルニ一件記錄中ニ於テ賄賂金ノ存在ヲ認ムヘキ資料之レナシトノ證據事實ハ原院公廷ニ於テ上告人ニ提示又ハ言ヒ聽ケ之ニ對スル辯解ヲ求メタル事跡ナシ抑モ判決ノ理由ヲ成スヘキ一切ノ證據ハ必ス被告人ノ意見ヲ徵シ辯解ヲ經タルモノナルコトヲ要シ證據カ積極的事實ニ對シ用ヒラルルト消極的事實ニ對スルトニ依リ區別アルコトナシ殊ニ前記賄賂金ノ現存セリト認ムヘキモノ記錄中ニ存在セストノコトハ其反面タル收受者ニ於テ之ヲ費用シタルモノナリトノ事實ヲ言

現ハサントスルモノナルヘク果シテ然ラハ費用ノ事實ヲ直接ニ證據ニ依リテ說明スルコトヲ要シ前示ノ如キ理由說明ハ其當ヲ得タルモノニアラス要スルニ原判決ハ收調ヲ經サル證據ニ依リテ金員追徵ニ關スル理由ヲ說明シタル失當アリト言ハサルヲ得スト云フニ在レトモ○所論ノ文詞ハ記錄ノ調査上收受シタル賄賂金ノ現存ヲ認ムル能ハサルニ因リテ判示費用ノ事實ヲ認定ストノ趣旨ニ解スヘク記錄ノ內容ヲ揭ケテ一定ノ事實ヲ證スル場合ト異ナルヲ以テ證憑書類ヲ被告人ニ讀聞ケ其辯解ヲ求ムルニ由ナキモノトス故ニ原審ノ訴訟手續上所論ノ如キ違法アルコトナシ若シ夫レ費用ノ事實ニ至テハ罪トナルヘキ事實ニ非サンハ證據ニ依リテ之ヲ說明スルコトヲ要セスト雖モ原判決ニ於テハ前示ノ如ク證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ說示シアレハ本論旨ハ理由ナシ

被告哲夫辯護人竹田廣助上告理由第三點原判決ハ訴訟手續ニ違背セル不法アリ原裁判所ノ證據トシテ採用セラレタル高木トミナルモノハ虛無ノモノニシテ送達不能ニ歸シ或ハ梶川トメナルモノニ該當セルモノノ如クナルニ依リ（記錄千〇九十九枚西警察署巡查林洞倫ヨリ西警察署長宛報告及同千〇九十七頁西ノ宮警察署長加藤八十五郎ヨリ檢事山田正德宛報告書參照）原裁判所ニ於テモ高木トミノ證人喚問ヲナスヘキ旨證據方法ヲ採用セラレタルニ拘ハラス更ニ梶川トメトシテ明治四十二年三月二十日親族渡トシテ送達セラレタリシ事ハ一件記錄ニヨリ明白ナリ（千九十枚參照）高木トミナルモノアリ而モ梶川トメノ假名ナリシヤ否ヤモ不明ナルノミナラス同豫審調書ニヨレハ署名スル能ハサル旨ノ附記アルノミニテ捺印ヲ爲ササリシ旨ノ附記ナキヲ以テ旁無效ノモノナリト爲ササルヲ得ス而モ採テ斷案ノ資料ニ供セラレタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○所論

數人共犯收賄者ニ對スル價額追徵○罪トナラサル事項ノ認定○拘留ノ効力
○官吏ノ任命補識○逢審請求書ト公判判決ノ相違

ノ如ク高木（トミ）ハ梶川（トメ）ノ假名ナリシヤ否ヤニ付キ疑アリトスルモ高木（トミ）トシテ訊問シタル豫審調書ハ高木（トミ）豫審調書トシテ之ヲ採用スルニ於テ何等妨クル所アルナシ又同調書ニハ署名スル能ハサルニ付キ裁判所書記代署シ拇印ノミ爲サシメアリ而シテ拇印モ亦刑事訴訟法ニ所謂印ノ一種ナレハ拇印ノ存在スル以上ハ捺印スル能ハサル事由ノ附記ヲ要セサルヤ疑ヲ容レス故ニ前掲高木（トミ）豫審調書ハ無效ニアラス從テ之ヲ罪證ニ供シタル原判決モ違法ニアラス

同第十二點原裁判ハ規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサル違法アリ原裁判ハ明治四十二年四月十五日言渡サレタルニ止マラス判決モ亦同日ニ爲サレタルコトハ其原本ニ日附ノ明記アルニヨリ明カナリ而シテ其署名セル判事中松山久太ハ同月十日ノ官報ニ發表セラレタル如ク横濱地方裁判所ニ轉補セラレタリ而シテ辭令ハ本人ノ知リタル時ニ其效力ヲ生シ之ヲ領受シタル日ニ效力ヲ生スルモノニアラサルハ司法部内一般ノ解釋ニシテ現ニ受書ヲ徵セサルニ徵シ明白ナリ而モ官報ハ十二日大阪ニ到達スルノミナラス法定ノ到達期間三日ナルニヨルモ遲クモ十三日既ニ大阪控訴院判事ニアラサルカ故ニ判決ニ干與スル能ハサル事ハ裁判所構成法ノ規定ニヨリ明白ナルニ拘ハラス十五日原判決ニ干與シタルハ刑事訴訟法第二百六十九條第一號ニ該當セル不法アリト云フニ在レトモ○官吏ノ任命補職ハ官報ノ掲載ニ因リテ直ニ效力ヲ生スルモノニ非ス當該官廳ヨリ本人ニ辭令ヲ交付スルカ又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ本人ニ通告シ始メテ其效力ヲ生スルモノナルコトハ本院ノ夙ニ判示スル所ナリ故ニ所論ノ判事松山久太ハ當該官廳ノ職務上ノ行爲ニ因リテ其轉補ノ通告

ヲ受クルマテハ當然前職ヲ執得リルコトハ論ヲ俟タス而シテ明治四十二年四月十五日同判事カ原判決ノ原本ニ署名シタル當時ニ於テハ未タ轉補ニ付キ適法ノ通告ヲ受ケサリシモノト認ムルヲ相當トス故ニ本論旨ハ理由ナシ

被告實、哲夫芳太郎辯護人高木益太郎上告論（六）本案ハ一件記錄四一〇丁西尾哲夫ニ對スル起訴狀犯罪事項欄ニハ「被告三百五十圓ヲ收受シタルコト」又記錄四一一丁山下芳太郎ニ對スル起訴狀犯罪事項欄ニハ「被告カ——高田實ヨリ賄賂トシテ金二百圓ヲ收受シタル事實」ト明記シアルニ依レハ被告哲夫芳太郎ニ對シテハ高田實ヨリ賄賂ヲ收受シタリトノ點ニ付キ起訴アリタルニ過キサルコト明白ナリ左スレハ原判決カ有罪ノ判斷ヲ下シタル右被告二名カ於勢半三郎ヨリ賄賂ヲ收受シタリトノ點ハ乃チ起訴ノ範圍外ニ屬スルモノナルヲ以テ原院カ此點ニ立入リ判決ヲ下シタルハ起訴ナキ事件ニ付判斷ヲ下シタルノ違法アルヲ免レスト云フニ在リ

因テ被告哲夫芳太郎ニ對スル豫審請求書ヲ閲スルニ起訴ノ事實トシテ記載シアルモノハ洵ニ所論ノ如シ而シテ原審ノ認定シタル事實ハ稍之ト異ナル觀ナキ能ハス然レトモ公訴ノ内容ハ被告等カ大阪府會議員トシテ明治四十年十二月中大阪府有船園場賣却案ノ委員會ニ於ケル職務行爲ニ關シテ賄賂ヲ收受シタリト云フニ在リテ賄賂ノ金額及贈賄者ノ何人ナルヤニ付キ多少認定ヲ異ニスル所アリトスルモ全然公訴ノ内容ニ變更アリト謂フヲ得ス故ニ原審ノ認定カ賄賂ノ金額及贈賄者ノ氏名ニ關シテ起訴ノ事實ト異ナル所アリト雖モ起訴ノ範圍外ニ渉リテ審判シタルモノニ非サレハ

原判決ニハ所論ノ如キ不法アルコトナシ

(七)本案公訴事實ハ被告等カ其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ府會調査委員會ニ於テ請託ノ如ク修正案ヲ可決シタリト云フニ在ルヲ以テ即チ刑法第百九十七條ニ依リ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ案件ナリ故ニ刑法施行法第二十九條ニ依リ舊刑法ノ重罪事件ト看做スヘキモノナレハ其公判開廷以前下調ヲ要スル筈ナルニ原院カ此法式ヲ履踐セスシテ輙ク本件ノ審理判決ヲ下シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○被告等ニ對スル事案ハ被告等カ職務ニ關シテ賄賂ヲ收受シタリト云フニ在リテ因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササリシト云フニ非サレハ刑法第九十七條第一項末段ノ場合ニ該當セス故ニ刑法施行法第二十九條ニ依リ舊刑法ノ重罪ニ該當スル事件トシテ刑事訴訟法第二百三十七條ノ手續ヲ爲ササリシハ相當ニシテ本論旨ハ理由ナシ

◉詐欺取財事件 明治四十二年(れ)第一〇七三號 明治四十二年十月五日判決 (棄却)

判決要旨

一、新刑法實施以前ニ犯罪ニ着手シ爾後繼續シテ之ヲ行ヒ其ノ實施後ニ至リテ始メ之ヲ終了シタルトキハ專ラ新刑法ニ依リテ處斷スヘク新舊兩法ヲ比照スヘキモノニアラス

第一審 廣島地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 池田吉之進 (横山勝太郎 鳩山和夫 中澤助一郎)

右詐欺取財被告事件ニ付明治四十二年六月四日廣島控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

被告辯護人横山勝太郎上告趣意書第三點本件第一審判決ヲ閲スルニ被告ヲ刑法第二百四十六條第一項ニヨリ懲役八月ニ處シタルニ拘ハラス其判決ノ理由中刑期ノ量定ヲ爲サス漫然判決主文ニ於テ懲役八月ニ處スト言渡シタルハ主文ヲ維持ス可キ理由ヲ欠缺スルモノニシテ刑事訴訟法第二百三條ニ違背スル不法ノ裁判ナルニ原院カ之ヲ認可シ控訴棄却ノ裁判ヲ言渡シタルハ同一ノ不法ヲ襲踏シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○第一審判決ニ於テ被告ノ所爲ニ對シテ刑法第二百四十六條第一項ヲ適用スル旨ヲ判示シ判決主文ニ於テ同法條所定ノ刑期範圍內ニ屬スル懲役八月ヲ言渡シアル以上ハ判決理由中ニ於テ主文ノ刑期ヲ量定シタルモノナルコト自ラ明ニシテ特ニ之ヲ明示セサルモ不法ニアラス故ニ右判決ヲ是認シタル原判決モ亦不法ニアラス

◉瀆職法違反並委託金費消事件 明治四十二年(モ)第一〇六五號 明治四十二年十月八日判決 (棄却)

條件附收賄○數人ニ對スル收賄ノ教唆

判決要旨

一、公務員カ其ノ職務ニ關シ條件附契約ヲ締結シ其ノ條件ノ到來スルト否トニ依リ或ハ贈賄者トナリ或ハ受賄者トナルヘク定メタルトキハ其ノ行爲ハ一面贈賄ノ約束タルト同時ニ他ノ一面ハ收賄ノ約束ニ外ナラサルヲ以テ則チ一ケノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルヽモノニ該當ス

一、被告カ數人ニ對シ各獨立セル瀆職ノ行爲アランコトヲ敎唆シタル行爲モ亦タ一ケノ所爲カ數個ノ罪名ニ觸ルヽモノニ該當ス

第一審　福井地方裁判所　　第二審　大阪控訴院

被告人　竹尾茂外二十三名

辯護人　（花井卓藏　高木益太郎　下田一發　高田安之介　眞田一夫　藤井濱次郎　波邊澄也　江木衷　末繁彌次郎　森保助三郎）

右瀆職法違反並ニ錢彌ノ委託金費消被告事件ニ付明治四十二年五月十七日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告等ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

判決

本件上告ヽ之ヲ棄却ス

理由

被告松井文太郎辯護人法學博士江木衷、辯護人末繁彌次郎、森保助三郎上告趣意書第二點原審判決ハ本件被告等ノ贈賄ノ約束ヲ同時ニナシタル場合又ハ之ヲ敎唆シタル場合ハ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシ刑法ニヨレハ第五十四條第一項ノ適用セラルルモノトセルハ不法ナリ原審カ上述ノ如キ見解ヲ執レルハ判決中ニ現行法ニ照スニ云云久太郎以下六名ハ收賄ノ約束ヲ爲スト同時ニ贈賄ノ約束ヲ爲シタルモノニシテ即チ一箇ノ行爲カ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルニ付同法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ云云トアリ又被告茂以下七名ノ右次松以下十七名ノ犯罪ヲ敎唆シタル行爲ニ付テハ云云一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルニ付キ云云トアルニヨリテ明ナリ然ルニ贈賄ノ約束ヲナスニハ贈賄ノ意思ヲ要シ收賄ノ約束ヲナス場合ニハ收賄ノ意思ヲ要ス而シテ意思カ二箇アルノミナラス行爲即チ約束モ二箇アリ同時ニ同一ノ書面ニヨリテ爲ス場合ト雖モ贈賄ノ行爲ト收賄ノ行爲ト二箇アルナリ同時ニナサレタレハトテ行爲ハ別別ニ存在スルモノナリ敢テ一箇ノ行爲カ數箇ノ結果ヲ發生スルモノニアラス一發ノ彈丸カ人ヲ殺シ窓硝子ヲ破毀シタル場合ノ如キハ行爲ハ全ク一箇ナルコト明ナルモ本件ノ場合ノ如キ意思表示ヲ併合シテナスニ止リ一箇ノ意思表示タルヲ得サルナリ何トナレハ自己カ他人ニ贈賄スルト云フコト自己カ他人ヨリ收賄スルト云フコトハ必ス二箇ノ意思表示ニヨリテナサルヲ得サ

條件附收賄○數人ニ對スル收賄ノ敎唆

ルモノナリ故ニ斯ノ如キ場合ハ數罪ナルコト明ナルモノニシテ敢テ一箇ノ行爲カ數箇ノ罪名ニ觸レタル場合即チ一罪ニ非スト云フニ在リ

因テ按スルニ原判決ニ依レハ被告久太郎等ハ竹尾茂等ノ案出シタル金圓贈與ノ提案ニ從ヒ一ノ條件附約束ヲ爲シタルノミナルモ條件ノ到來スルト否トニ依リ或ハ贈與者トナリ或ハ受贈者トナルモノニシテ右約束ハ一面贈賄ノ約束タリ一面收賄ノ約束ナルカ故ニ其行爲ハ一箇ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノト云ハサルヘカラス又被告茂等ハ一所爲ヲ以テ被告次松以下十數名ノ者ニ對シ各獨立セル瀆職ノ行爲アランコトヲ敎唆シタルモノナレハ其行爲モ亦一箇ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノト云ハサルヲ得サルヲ以テ原院カ本件ニ付刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用處分シタルハ違法ニアラサルノミナラス本論旨ハ畢竟原院カ一罪トシテ處分シタルヲ併合罪ナリト主張スルモノニシテ被告ノ不利益ニ歸スルヲ以テ上告適法ノ理由タラス

◉傷害事件

明治四十二年(れ)第一一〇五號 明治四十二年十月八日宣告 (棄却)

判決要旨

一、公務員カ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行ヲ加ヘ且ツ其ノ身體ヲ傷害シタル所爲ハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ刑法第五十四條ニ依リ重キニ從テ處斷

スヘシ

第一審 仙臺地方裁判所 被告人 日下儀藏

第二審 宮城控訴院 辯護人 村松山壽 伊藤金次郎

右傷害被告事件ニ付明治四十二年五月二十七日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スルコト左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

辯護人村松山壽同伊藤金次郎上告趣意書第三點原判決法律適用ノ部ヲ査閲スルニ「被告ハ公務員ノ職務執行ニ當リ之ニ對シ暴行ヲ加ヘタル所爲ハ刑法第九十五條第一項ニ傷害ノ所爲ハ同第二百四條ニ該ル處一所爲二罪名ニ觸レタルモノナルヲ以テ刑法第五十四條ニ依リ云云」ト判示セラレタリ然レトモ元來刑法第九十五條ノ犯罪ハ公務員ニ對スル暴行ヲ以テ其構成要素トスルモノナレハ傷害罪ノ實質（傷ヲ生セシメサル場合モ包含ス）ハ同條ノ暴行云云ノ犯罪ニハ常ニ構成要素トシテ隨伴スルモノト云ハサル可カラス而シテ若シ之ニ對シ一所爲二罪名ニ觸ルルモノトシテ原判決ノ如ク法律ヲ適要シ得ルモノトセハ其結果職務執行中ノ公務員ニ對スル暴行者ニハ如何ナル場合ニ於テモ苟モ刑法ノ變更セラレサル限リハ刑法第九十五條一項ニ定メタル刑期ニ依リテ處罰セラルル場合ナキ如キ極メテ奇怪ナル結果ヲ生スルニ至ラン何トナレハ刑法第九十五條一項ノ暴行

一ノ爲行カ數個ノ罪名ニ觸ル場合ニ於ケル刑法ノ適用

云云ハ即チ其實質刑法ノ傷害罪ナルハ即チ前ノ如ク而カモ傷害罪ノ刑期ハ同條ノ刑期ヨリ其長期長ク又長キニ從フハ刑法ノ原則ナレハナリ按スルニ刑法ハ全然適用セサルカ如キ無用ノ刑期ヲ明文ヲ以テ定ムル理由ナキヲ以テ前示ノ如キ解釋ハ到底容ル可キニアラス果シテ然ラハ本件ノ如ク他ノ罪名ニ常ニ觸ル可キ構成要素ヲ具備スル犯罪ニアリテハ其要素ヲ捕ヘ來リテ刑法第五十四條ノ所謂他ノ罪名ニ觸ルルモノト云フヲ得サル筋合ナルニ原判決ハ右理論ヲ無視シ本件ニ對シ刑法第九十五條ノ外更ニ同第二百四條竝ニ刑法第五十四條ヲ適用處斷セラレタルハ違法ナリト云フニ在リ

然レトモ刑法第九十五條第一項ハ公務員ノ職務執行ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ヲ處罰スルノ規定ニシテ右暴行ニ因リテ公務員ノ身體ヲ傷害シタル者ニ對スル處罰ヲ包含スル故ニ傷害ノ所爲ニ付キテハ同法第二百四條ニ依ルヘキモノトス而シテ公務員ノ職務執行ニ對スル暴行ノ所爲ト右暴行ニ因リテ公務員ヲ傷害シタル所爲トハ素ト同一行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ關ルルモノニ該當スルヲ以テ同法第五十四條ヲ適用シテ重キニ從テ處斷スヘキモノナリ故ニ原判決ノ擬律ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ

◉強盜殺人放火事件

明治四十二年(れ)第九五一號 明治四十二年十月八日判決（棄却）

判決要旨

一、刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ結果タル行爲トハ或ル犯罪ニ

由リ其ノ當然ノ結果トシテ生シタル行爲卽チ或ル犯罪ト行爲トカ因果ノ關係ヲ有スル場合ニ限リ適用セラルルモノトス

強盜殺人ヲ爲シタル犯人カ其ノ罪跡ヲ蔽ンカ爲メ家屋ニ火ヲ放タル場合ノ如キハ強盜殺人ノ所爲ハ放火ヲ爲スノ動機タリシニ止マリ其ノ原因トナリタルモノニアラサレハ之レニ對シ刑法第五十四條ヲ適用スヘキモノニアラス

（參照）一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニ從テ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス（刑法第五十四條第一項）

第一審　札幌地方裁判所　第二審　函館控訴院

被告人　岸畑岸太郎外二名　辯護人　竹內義一

右强盜殺人放火被告事件ニ付明治四十二年五月十日函館控訴院ニ於テ言渡シタル判決ヲ不法トシ被告等ヨリ上告ヲ爲シタリ因テ判決スル左ノ如シ

判決

本件上告ハ之ヲ棄却ス

理由

犯罪ノ結果タル行爲トハ何如○刑法第五十四條ノ適用○强盜殺人放火ノ併發

被告三名辯護人竹内義一上告趣意書一罪カ他ノ犯罪ノ手段又ハ結果タル關係ヲ有スルトキハ所謂牽連犯ニシテ其數箇ノ犯罪行爲ヲ合一シテ一罪トナシ之ヲ處斷スヘキコトハ刑法第五十四條ノ規定ニ徴シテ疑ヲ容レサル所ナリ本件被告事件ハ被告人等カ强盜殺人ノ犯行ヲ遂クルト同時ニ其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ放火罪ヲ犯シタルモノナルコトハ原院ノ認ムル所ニシテ即チ强盜殺人罪ヲ犯シタル結果放火罪ヲ犯シタルモノニシテ相牽連セル數箇ノ行爲ヲ合一シテ一罪トナシ處罰スヘキ場合ニ相當スルカ故ニ刑法第五十四條ニ依リ同第二百四十條後段同第百九條第一項ヲ比較シ第二百四十條後段ヲ適用シテ處斷スヘキニ拘ハラス原院カ右被告等ノ强盜殺人罪及放火罪ヲ併合罪ナリトシテ刑法第四十五條同第四十六條第一項ニ則リ第二百四十條後段ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ○刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ結果タル行爲トハ或ル犯罪カ原因ト爲リ其當然ノ結果トシテ生シタル行爲ヲ云フモノニシテ其犯罪ト行爲トノ間ニ因果ノ關係アルニアラサレハ同條ノ規定ハ之ヲ適用スヘキモノニアラス原判決ニ依レハ被告等ハ强盜殺人ヲ爲シタル後其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ放火ヲ爲シタルモノニシテ强盜殺人ノ罪ハ被告等カ放火ヲ爲スノ動機タリシニ止マリ放火行爲ノ原因トナリタルモノニアラス之ヲ換言セハ放火ノ罪ハ强盜殺人罪ノ當然ノ結果トシテ生シタル行爲ニアラサレハ原院カ本件ニ付刑法第五十四條ヲ適用セス併合罪トシテ處分シタルハ擬律ノ錯誤ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

司法行政

判例彙報第二十卷大審院刑事判例 終

行政裁判所判例

法學博士　江木衷　編纂

判例彙報社藏版

行政裁判所判例

司法
行政

判例彙報第二十卷行政裁判所判例索引

行政法規

國有地下戻ニ關スル判例

◉上地林下戻申請ニ關スル訴……七
○檢地帳ニ記載セラレタル林野ノ所有權
◉國有山林下戻請求ノ訴……九
○起訴後ニ於ケル訴狀ノ訂正
○原告ノ請求シタル下戻ノ山林ニ付キ被告ニ於テ爭ハサルトキハ如何ニ判決スヘキヤ
◉國有林下戻不當處分取消請求ノ訴……一一
○書證ノ寫本ハ如何ナル證據力ヲ有スルヤ
◉官林下戻不當處分取消請求ノ訴……一三
○拜領山ハ私有ナルカ
◉山地境界之義ニ付御裁定願……一四
○已定ノ印紙ヲ帖用セサル訴狀ノ效力
◉國有林民有ニ下戻申請不許可處分ニ對スル訴……一五
○稼山所有權ハ官民何レニ屬スルヤ
○百姓山役錢ハ正租ナルカ
◉官林下戻請求ノ訴……三一
○地盤ヲ讓渡シタルトキハ其ノ地上ノ立木ノ所有權ハ何レニ屬スルヤ
◉上地山林下戻請求ノ訴……四七
○土地台帳及ヒ登記制度ナキ時代ニ於ケル土地所有權ノ保存
○立木ノ所有權
◉國有土地下戻不當處分取消ノ訴……五七
○國有地下戻ノ請求ヲ許スヘキ場合如何
○幕臣ニ對シ官沒シタル土地ニ對シ下戻ヲ請求スルコトヲ得ルカ
◉國有林立木下戻不當處分取消請求ノ訴……五九
○寺院カ開墾料、農明料、初穂料等ヲ以テ植栽シタル立木ノ所有權
◉安宅林無地諸國有林下戻請求ノ訴……六一
○盜伐前ニ於ケル山林引上處分ノ性質
◉不當處分取消國有林野下戻請求ノ訴……六三
○土地所有權ノ證明

○村持山ノ性質
◉國有林野下戻請求ノ訴……六五
○土地所有權ノ證明
◉不當處分取消國有林下戻請求ノ訴……七五
○土地民有ノ證明
◉國有森林立木分割下戻請求ノ訴……七八
○部分木ノ下戻
○下戻部分ノ擴張
○土地民有ノ證明
◉國有原野下戻請求ノ訴……八二
○土地民有ノ證明
◉山林下戻不許可處分ニ對スル訴……一〇三
○官有林ノ下戻
◉不當處分取消官有林下戻請求ノ訴……一二四
○村方備山ノ性質
◉國有山林下戻請求ノ訴……一二六
○野山ノ性質
○毛上權ノ效力
◉國有林下戻請求ノ訴……一二九
○百姓山ノ性質
◉上地國有林下戻請求ノ訴……一五八
○官有地ノ下戻
◉國有森林不當處分及國有森林下戻請求ノ訴……一六三
○檢地帳ニ登錄セラレタル土地ハ官民何レニ歸スルヤ
◉民地引直ノ訴……一六五
○山床引渡トハ如何
○營轄權ト所有權トノ別
◉國有林下戻不當處分取消請求ノ訴……一八六
○外書小物成ノ性質
○口米ノ性質
◉不法指令取消ノ訴……一九四
○自治制實施以前ニ於ケル町村ノ法律上ノ地位
○自治制實施以前ニ於ケル町村ノ代表者ノ權限
○一旦返地シタル山林ノ下戻請求
◉國有林野下戻不當處分取消ノ訴……二〇七
○御林及ヒ御運上山ノ意義
○入會地ノ開墾
◉國有林野下戻請求ノ訴……二一四
○高受地ハ官民何レニ屬スルヤ
◉國有林下戻不許可ノ訴……二二七
○高外ノ小物成ノ性質
○毛上權ノ效力
○民有地ノ證明

◉國有林下戻請求ノ訴……二三八
○碑文ノ證據力
◉國有原野下戻請求ノ訴……二四〇
○町村長ノ作製シタル證明書ノ效力
◉國有森林下戻請求ノ訴……二四二
○毛上稅ト土地ニ對スル租稅
○秣場永ノ性質

稅務ニ關スル判例

◉所得金額決定不服ノ訴……一
○株式會社ニ於ケル會社資本ノ範圍
○株式募集ノ場合ニ於ケル額面以上ノ超過額ハ會社ノ資本ナルカ將タ會社ノ利得ナルカ
○右額面超過額ニ對シ所得稅ヲ賦課スルコトヲ得ルヤ
◉第一種所得金額決定取消請求ノ訴……二五
○營業ノ讓渡ニ依リテ得タル利得ニ課稅スルコトヲ得ルカ
○株式價格ノ算定
◉所得金額決定請求ノ訴……三四
○稅務署長ノ決定シタル所得金額ニ對スル異議ノ申立及ヒ其ノ方法
◉公賣取消ノ訴……三八
○國稅滯納處分
◉所得金額決定處分取消請求ノ訴……五一
○決定シタル所得金額ノ變更
○一旦決定シタル所得金額ニ對シ稅務監督局長ハ隨時其ノ誤謬ヲ訂正スルコトヲ得ルヤ
◉第一種所得決定額實行處分取消請求ノ訴……五六
○第一種所得金額更訂ニ對スル不服申立ノ方法
◉酒造稅賦課ニ關スル訴……九三
○醪ヲ汲ミ取リ搾上ケテ清酒ヲ得タル場合ニ於ケル造石稅ノ賦課
◉不當課稅取消稅金還附請求ノ訴……九五
○鑛產稅ノ賦課
○鑛產物トハ如何
○他ノ鑛山ヨリ買入レタル鑛物ニ對スル鑛產稅ノ賦課
◉違法課稅處分取消ニ關スル訴……一一
○金錢貸附業トハ如何
○金錢貸附業ノ營業場
○金錢貸附業ニ對スル課稅
○所得稅ト營業稅トノ併課
◉酒造課稅及滯納處分取消幷酒造稅金返還請求ノ訴……一一四
○僞造ノ納稅保證書ニ依ル酒造稅金ノ徵收
◉沖繩縣酒類出港稅不法賦課幷裁決取消請

求ノ訴……一二八
○泡盛ノ酒質
○麹ノ意義
○泡盛ニ對スル課稅
◉縣稅戶數割賦課決定ニ對スル訴ニ付テノ原狀回復ノ申立……一三二
○行政裁判ニ對スル再審ノ申立
◉營業稅課稅標準算定取消請求ノ訴……一三三
○株式會社ノ代理店又ハ取扱店ハ會社ノ營業場トシテ之レニ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得ルヤ
○營業稅法第十五條ノ適用
◉亡失清酒造石稅免除ニ對スル訴……一五一
○收稅官吏ノ爲セル酒類藏出帳檢印ノ效力
◉町稅賦課裁決取消幷徵收金還附ノ訴……一五三
○主稅ノ取消ハ其ノ效力ヲ附加稅ニ及スコトヲ得ルヤ
◉所得稅違法課稅取消ノ訴……一五五
○所得金額變更ノ請求及ヒ其ノ方法
◉所得金不法決定取消請求ノ訴……一六九
○所得金額決定ノ效力
○決定セル所得金額ノ變更方法
◉不法處分取消ノ訴……一七一
○稅務署ノ處分ニ對スル行政訴訟ノ提起
◉營業稅金減額請求ノ訴……一八九
○會社ノ資本減少ノ決議ト營業稅課稅標準ノ資本金額トノ關係
○資本減少ノ效力ハ決議ノ時ニ生スルヤ現ニ之ヲ實行シタル時ニ生スルヤ
◉不法市稅還附請求ノ訴……一九二
○市外ノ資本ニ對スル市稅ノ賦課
○右課稅ニ對スル不服ノ申立
○市制第百四條ノ適用
◉所得稅金額決定所分取消請求ノ訴……二一七
○所得金額決定ノ標準時期
○所得金額ハ未成家屋ノ家賃ヲ見積リテ之ヲ算定スルコトヲ得ルヤ
◉所得金額決定取消請求ノ訴……二四五
○所得稅法第五條ノ一時ノ所得トハ如何
○醫師カ專業トセスシテ唯朋友知人ノ求メニ依リ病狀ヲ診察シ其ノ報酬トシテ得タル所ノ收入ニ對シ所得稅ヲ課スルコトヲ得ルカ
○已定ノ所得金額ニ對スル增加ノ認定及ヒ其ノ要件
◉營業稅課稅標準審査決定取消ノ訴……二四七
○貸金業者ニ對スル運轉資金ノ算定
◉所得金額決定不服ノ訴……二五〇
○營業ノ爲メニサセル貸金ノ利息ニ對スル所得稅ノ賦課

○取立不能ノ利息ニ對スル所得稅ノ關係
◉所得稅課稅免除ノ訴……二五二
○稅務署長ノ處分ニ對スル不服ノ申立

選擧ニ關スル判例

◉縣參事會不當裁決取消請求事件……三五
○區長ノ職務
○區長ノ被選權
◉郡會議員當選取消ノ裁決ニ對スル訴……四一
○郡金庫取扱者ノ被選權
◉郡會議員當選ノ訴……六七
○一戶ヲ構ヘタル者トハ如何
○寄留屆ヲ爲シ商業ヲ營ミ租稅ヲ負擔スルトキハ一戶ヲ構ヘタル者ト斷定スルヲ得ヘキカ
○一戶ヲ構ヘタル者ト郡會議員ノ被選權
◉村會議員違法選擧取消訴願ニ對スル縣參事會裁決取消ノ訴……七一
○府縣會議員ノ失職
○選擧中一時自席ヲ離ルトキハ選擧係タル資格ヲ失フヘキカ
○選擧掛タルコトヲ得ル要件
◉郡會議員當選ノ訴……九八
○立候補者ノ效力
○選擧人ノ被選人選定
◉不當裁決取消ノ訴……一〇六
○町村負擔ノ分任トハ如何
○町村ノ救助ヲ受クルトハ如何
○選擧ノ拒絕
◉市會議員選擧取消裁決不服ノ訴……一一一
○相續人ト被相續人間ニ於ケル納稅期間ノ通算
○選擧確定名簿ノ效力
◉懲戒處分取消ノ訴……一三五
○隱居者ノ選擧資格
○隱居者ノ財產留保
○相續ノ效力
○選擧人名簿ノ效力
◉村會議員選擧取消ノ裁決ニ對スル訴……一八三
○選擧人名簿ノ
○確定セル選擧人名簿ノ變更方法
◉縣參事會決定取消ノ訴……一九八
○無效投票ノ扣除方法
○同姓者アル場合ニ於テ姓ノミヲ記シタル投票ノ效力
○候補者ト非候補者
◉村會議員選擧取消ノ訴……二三四
○撰擧人名簿縱覽期間ト名簿確定ノ時期
○町村制第十九條ノ適用

○確定名簿ノ效力

町村法人ノ能力ニ關スル判例

◉紀念麻名普通水利組合水路工事地元請負ニ關スル訴……四
○町村法人ハ他人ノ工事ヲ請負コトヲ得ルヤ
○右請負ヲ協賛シタル町村會決議ノ效力
◉不法指令取消ノ訴……一九四
○自治制實施以前ニ於ケル町村ノ法律上ノ地位
○自治制實施以前ニ於ケル町村ノ代表者ノ權限
○一旦返地シタル山林ノ下戻請求
◉不當裁決取消ノ訴……二五三
○村法人ハ自己ノ基本財産ヲ自ラ借用シ之ヲ他ニ使用スルコトヲ得ルヤ
○村有基本財産ノ使用及ヒ其ノ方法

郡會ノ權限及ヒ郡費ニ關スル判例

◉郡會議決取消處分取消請求ノ訴……一七二
○郡制第三十二條ノ適用
○郡町村ノ官公吏カ各種團體ノ寄附金募集等ニ熱注シテ郡内行政事務ニ滯滯ヲ來シタルトキハ郡會ハ之レニ關シ意見書ヲ監督廳ニ呈出スルコトヲ得ルヤ
◉郡費分賦ノ件ニ關スル訴……一七七
○郡制第九十條ノ適用
○郡費ヲ分賦スヘキ割合

公用徵收ニ關スル判例

◉收用審査會裁決不服ノ訴……一八
○收用審査會ノ爲セル損失補償ノ決定ニ不服アルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルヤ
◉土地收用損失補償額決定請求ノ訴……二四
○收用地ノ補償額ニ付テノ爭議ハ行政司法何レノ裁判所ニ於テ之ヲ受理スヘキヤ
○收用殘地ノ價額ヲ定ムル標準

漁業ニ關スル判例

◉鰤大敷網敷設免許違法否拒並違法更新ノ處分ニ對スル訴……二七
○他人ノ專用漁業區域ニ定置漁業ヲ許可スルコトヲ得ルカ
○專用漁業ノ意義
◉不當裁決取消請求ノ訴……二一
○漁業區域ノ制限

雜件

◉石炭鑛試掘願不許可處分取消請求ノ訴……五四
○試掘權存續期間ノ起算點
◉境界査定不服ノ訴……八四
○土地民有ノ證明
◉漁業免許更正請求ノ訴……八九
○行政訴訟ノ對手
○行政訴訟ノ本質
○行政訴訟ハ處分者裁決者何レヲ對手トスヘキヤ
◉縣令取消請求ノ訴……一四一
○貸座敷營業免許區域ノ削除
○貸座敷營業免許ノ取消
◉不當裁決取消ノ訴……一六〇
○訴願期限ノ經過ト其ノ宥恕
◉豫戒令取消ノ訴……一六八
○豫戒令ヲ受ケタル者ハ行政訴訟ヲ以テ之レカ取消ヲ求ムルコトヲ得ルヤ
◉懲戒處分取消請求ノ訴……二三
○町村長ノ懲戒處分
○譴責處分
○過怠金處分
◉縣會議員資格ノ訴……二三〇
○瀆職議員ノ失職

司法
行政

判例彙報第二十卷

法學博士 江木衷編纂

行政裁判所判例

◉所得金額決定不服ノ訴（明治四十一年第七十九號 明治四十一年十月三十一日判決（請求不立））

判決要旨

一、株式會社ノ資本ハ株金額ニ止マリ株式ヲ發行スルニ依テ得タル株式額面以上ノ超過額ハ之ヲ其ノ會社ノ準備金ニ組入レタルト否トヲ不問稱シテ會社ノ資本ト云フヲ得ス

株式額面超過金ニ對スル所得稅ノ賦課

一、株式會社カ株式ヲ額面以上ニ發行シタルトキハ其ノ超過額ニ對シ取得稅ヲ附加スルモ違法ニアラス

一、株式ノ募集ハ會社資本ノ調達ニシテ營業上必要缺ク可ラサル行爲ナレハ之レニ依リテ得タト利得即チ額面以上ノ超過金ハ營利ノ事業ニ屬スル一種ノ收入ニ外ナラス、從テ右超過金ハ所得稅法第五條第五號ノ規定ニ該當セス

富山縣西礪波郡戸出町大字戸出村九百三十六番地
原　告　株式會社共通銀行
同銀行取締役
法定代理人　瀨尾四平　訴訟代理人　沼田勇三郎
金澤稅務監督局長
被　告　和田一郎

右當事者間ノ明治四十一年第七十九號所得金額決定不服ノ訴書面ニ就キ審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告事實上供述ノ要領ハ原告銀行ハ明治三十九年十二月設立ヲ發起シ資本ノ總額ヲ三十萬圓トシ一株五十圓總株數六千株ノ內四千株ハ額面以上即チ五十二圓ヲ以テ引受價格ト定メ株式募集ヲ爲シ明治四十年一月二十一日創立總會終結シ會社成立シタリ而シテ四千株ニ對スル額面超過額金合計八千圓ハ商法第百九十四條第二項ニ依リ準備金ニ組入レタリ原告銀行ハ明治四十年四月ヨリ營業ヲ開始シ六月ニ至ル所得金ハ一千八百五十一圓六十六錢ナリ然ルニ石動稅務署長ハ原告銀行ノ所得ヲ決定スルニ當リ前顯額面超過額金八千圓ヲ所得ニ計上シ金九千八百五十一圓六十六錢ノ所得額決定通知書ヲ交付シタルヲ以テ原告ハ被告ニ審査ヲ請求シタルニ被告モ亦前決定ノ如ク決定ヲ爲シタリ然レトモ右額面超過額金八千圓ハ商法第百九十四條第二項ニ從ヒ準備金ニ組入レタルモノニシテ其性質資本ト同視ス可キモノナリ假リニ之ヲ原告銀行ノ利益ナリトスルモ所得稅法第五條第五號ニ所謂營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得ナレハ所得稅ヲ課スルコトヲ得サルモノナリ又本件ノ額面超過額八千圓ハ原告銀行營業開始以前ノ收入ニ屬スルヲ以テ之ヲ原告營業上ノ利益ト云フ能ハサルヤ辯ヲ待タス依テ明治四十年四月ヨリ同年六月ニ至ル原告銀行ノ所得金中ニ額面超過額金八千圓ヲ計上シタル處分ヲ取消ス被告ハ該金ニ付相當ノ處分ヲ爲ス可シ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リテ甲第一號乃至三號證ヲ提出シ書面審理ヲ請求セリ

被告答辯ノ要旨ハ原告主張ノ如ク株式額面差額超過額金八千圓ヲ原告所得中ニ計上シタリト雖モ

此計上ハ商法及所得稅法ノ解釋上正當ナレハ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リテ立證トシテ乙第一、二號證ヲ提出シ書面審理ヲ請求セリ

理由

按スルニ株式ヲ額面以上ノ價格ヲ以テ發行シタル場合ニ其超過額ハ商法第百九十四條第二項ニ依リ準備金ニ組入ルコトヲ要スレトモ之カ爲メ其超過額ハ會社ノ資本ノ性質ヲ有スルモノナリト云フヲ得ス何トナレハ會社ノ純然タル利益モ亦同條第一項ニヨリ準備金中ニ組入ルヘキモノナレハナリ依テ準備金ニ組入レタルカ故ニ資本金ナリトノ原告主張ハ理由ナシ又本件額面超過額金八千圓ハ一時收入ナルコト原告主張ノ如シト雖モ株式ノ募集ハ原告銀行資本ノ調達ニシテ此調達ハ原告營業上必要缺ク可ラサル行爲ナレハ之ニ由テ得タル利益ハ即チ營利ノ事業ニ屬スル利益ト云ハサルヲ得サルヲ以テ所得稅法第五條第五號ニ該當セス依テ原告主張ノ第二點モ理由ナシ最後ニ本件株式募集ハ原告營業開始前ナリトスルモ其募集ハ發起人カ原告ノ爲メニシタル行爲ナルノミナラス現ニ總會ノ決議ヲ經テ原告ノ準備金中ニ組入レタル以上ハ原告銀行ノ營業上ノ利益ト認メサルヲ得サルヲ以テ此主張モ亦理由ナシ然ラハ被告カ本件額面超過額金八千圓ヲ原告ノ所得中ニ算入セル決定ヲ是認シタルハ相當ニシテ原告ノ本訴請求ハ理由ナシ依テ主文ノ如ク判決ス

◉紀念麻名普通水利組合水路工事地元請負ニ關スル訴

明治四十一年第三十六號
明治四十一年十一月九日第二部宣告（請求不立）

判決要旨

一町村法人カ他ノ公法人ノ工事ヲ請負フカ如キハ全然町村行政ノ範圍外ニ出ツル行爲ナルヲ以テ町村會カ之ヲ議決スルハ其權限ヲ踰越セルモノトス

原告　近久芳太郎　徳島縣麻植郡牛島村會議長代理助役

被告　渡邊勝三郎　徳島縣參事會　徳島縣知事

右當事者間ニ於ケル紀念麻名普通水利組合水路工事地元請負ニ關スル訴文書ニ就キ審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實及理由

原告訴求ノ要旨ハ明治四十年五月九日牛島村會ハ紀念麻名普通水利組合水路中牛島村南部線ニ屬スル工事ノ執行ヲ牛島村ニ於テ請負フヘキ件ヲ議決シ所轄麻植郡長ハ之ヲ違法ナリトシテ牛島村

長ニ命シテ再議ニ付セシメタルモ村會ハ前議ヲ執リテ改メサルニ付牛島村長ヨリ麻植郡參事會ノ裁決ヲ求メタルニ明治四十年七月一日ヲ以テ本件工事ハ水利組合ノ事業ニシテ其ノ工事請負ノ如キハ町村制第二條ニ所謂町村公共事務ノ範圍外ニ屬スルモノナリトノ理由ニ依リ村會ノ決議ヲ取消ストノ裁決アリ依テ村會ハ之ニ服セス德島縣參事會ニ訴願シタルニ本年一月十五日ヲ以テ麻植郡參事會ノ裁決ハ正當ナルニ付取消スヘキ限ニアラストノ裁決ヲ與ヘラレタリ然レトモ本工事ノ水路ハ縱横村內ヲ貫通シ其ノ工事ノ完否ハ出水ノ際直接ノ利害ヲ一村ノ土地人畜ニ及ホスヲ以テ村自ラ其ノ工事ヲ請負ヒ以テ完全ノ施設ヲ爲スハ實ニ一村公益上ノ必要ニ出テ即チ自衞ノ爲メ牛島村自己ノ事業ヲ處理スルモノニシテ水利組合ノ事業ヲ補助スルモノニアラス故ニ明カニ町村制第二條ニ規定セル一村公共ノ事務ニシテ村會ノ議決ハ適法ノモノナルニ付茲ニ被告裁決ノ取消ヲ求ムト謂フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ水利組合ハ組合條例第一條ニ依リ市町村又ハ町村組合ノ事業ト爲スコトヲ得サル水利土工ニ關スル事業ノ爲メ之ヲ設クルコトヲ得ヘキモノニシテ其ノ事業ハ即チ水利組合ノ事業タルニ止リ假令組合カ之ヲ請負ニ付シテ執行シ地元町村ヲシテ之ヲ請負ハシムルコトアリトスルモ之カ爲ニ其ノ事業ノ性質ヲ變シテ町村ノ公共事業タラシムルモノアラス故ニ本件牛島村會ノ議決ハ全然其ノ權限ヲ踰越シタルモノニシテ被告ノ裁決ハ正當ナルニ依リ原告ノ請求ハ棄却セラレタシト謂フニ在リ

依テ之ヲ審按スルニ町村カ他ノ公法人ノ工事ヲ請負フカ如キハ全然町村行政ノ範圍外ニ出ツル行

爲ナルカ故ニ町村會ニ於テ之ヲ議決スルヲ得ス從テ牛島村會カ紀念麻名普通水利組合ノ水路中牛島村南部線ニ屬スル工事ノ執行ヲ牛島村ニ於テ請負フヘキ件ヲ議決シタルハ其ノ權限ヲ踰越シタルモノニシテ被告カ其ノ議決ヲ取消シタル麻植郡參事會ノ裁決ヲ取消スヘキ限ニ在ラスト裁決シタルハ適法ナリトス依テ主文ノ如ク判決ス

◉上地林下戻申請ニ關スル訴 明治三十七年第八百二十三號 明治四十一年十月三十一日判決（請求相立）

判決要旨

一、檢地帳ニ記載セラレタル土地ハ其ノ外書ナルト否トヲ不問民有地ト認ムルヲ通例トス

原　青森縣中津輕郡清水村
告　久波寺
同寺住職
右代表者　高阪清觀　訴訟代理人　平澤均治
外四名

被　農商務大臣男爵
告　大浦兼武　訴訟代理人　濱地八郎

右當事者間ニ於ケル上地林下戻申請ニ關スル訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

檢地帳ノ效力

被告カ原告ニ與ヘタル明治三十六年一月四日附林第一二九九號指令ハ之ヲ取消ス

被告ハ靑森縣中津輕郡淸水村大字坂元字山元二十三番上地林反別百九十九町五反八畝十一歩ノ土地及立木ヲ原告ニ下戻スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實

原告陳述ノ要旨ハ原告久渡寺ハ元ト興福寺ト稱セシカ慶長年間住僧寛海ノ代ニ於テ津輕創業ノ藩祖爲信本寺ニ臨ミ「是予ノ祈願所ナリ國ヲ護ルコト久シキニ渡ルヘシ依テ宜シク護國山久渡寺ト改ムヘシ」ト命セラレ且ツ當久渡寺全山ヲ境內地トシテ下賜セラレタリ爾來累代ノ藩主ハ本件係爭地ヲ原告寺ノ所有山ト認メタルノミナラス寺費ヲ以テ山守用達等ヲ雇入レ杉檜其他ノ雜木ヲ栽培シ保護シ堂宇ノ修繕等ニハ樹木ヲ伐採シテ之レニ充テタリ然ルニ明治四年從來ノ境內地中五反五畝二十七歩ヲ除クノ外悉ク引上クル旨縣廳ヨリ達セラレシカ遂ニ明治十三年社寺內外區畫ヲ決定シ上地官林ニ編入セラレタリ依テ被告ニ其下戻ヲ申請セルニ不許可ノ處分ヲ受ケタルニ依リ本訴ニ及ヘリト云フニ在リ立證トシテ甲第一號乃至五號證ヲ提出セリ

被告答辯ノ要旨ハ原告カ主要ノ證據タル甲第一號證ハ除地ノ證ニシテ係爭地カ之レニ該當スルモノトスルモ檢地帳ノ外書ナレハ所有ノ證トナスニ足ラス其他原告ノ主張ヲ認ムルニ足ルヘキ確證ナキニ依リ其請求ハ排斥セラレタシト云フニ在リ

理由

被告ハ甲第一號證ハ除地ノ證ニシテ且檢地帳ノ外書ナレハ所有ノ證據トナスニ足ラスト云フモ檢

地帳ニ記載セラレタル土地ハ其外書ナルト否トヲ問ハス普通檢地ヲ受クヘキ地即チ民有地ヲ表示シタルモノト認ムルヲ相當トスルカ故ニ甲第一號證(貞享四年檢地水帳)ニ右ノ外除地トシテ寺屋敷、觀音堂地、熊野堂地、白山權現堂地、十二神社等ノ檢地間數ヲ揭ケ其下ニ何レモ久渡寺抱ト記シ而シテ其末段ニ「境內山場廣故不及檢地」トアルニ依レハ右境內山ハ當時檢地ヲ受クヘキ民有地ニシテ久渡寺ノ所有ニ屬シタル事實ヲ認定スルニ足ルモノトス而シテ係爭地カ右境內山ノ地域ニ該當スル事實ハ甲第二號證(社寺境內外區畫仕分帳)竝ニ甲第三號證(久渡寺境內地圖)ニ依リ之レヲ認メ得ヘキニ依リ原告ノ請求ハ理由アルモノトシテ主文ノ如ク判決ス

◉國有山林下戻請求ノ訴 明治三十七年第七百十五號 明治四十一年十月廿一日判決 (請求相立)

判決要旨

一、國有山林下戻ノ請求ニ於テ原告カ起訴後訴ノ範圍內ニ於テ事實上落筆セル山林ヲ追加スルモ之ヲ以テ新ナル請求ヲ加ヘタルモノト云フヲ得ス

一、國有林下戻請求ノ訴ニ於テ被告カ原告ノ請求ヲ爭ハサルトキハ之レニ由テ該山林ヲ原告ニ下戻サシムヘキモノトス

起訴後ニ於ケル訴狀ノ訂正

秋田縣平鹿郡榮村
原告　大屋寺內部落
同村村長
右代表者　泉谷巳之松　訴訟代理人　沼田宇源太
農商務大臣男爵
被告　大浦兼武　訴訟代理人　岸　清一

右當事者間ニ於ケル國有山林下戻請求ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告カ原告大屋寺內部落ニ與ヘタル明治三十七年五月二十三日附林第一六九六七號指令ハ之ヲ取消ス

被告ハ秋田縣平鹿郡榮村大屋寺內字大屋澤國有林百五町歩外三筆ノ土地及立木ヲ原告大屋寺內部落ニ下戻スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實及理由

原告ハ本件山林ハ何レモ古來原告部落ノ鄕山トシテ所有シ來リ享保十六年中同水源山トシテ「水ノ目林御札山」トセラレタルモノニシテ歷然タル民有ナリシヲ政租ノ際誤テ官有ニ編入セラレタルニ依リ其下戻ヲ申請セルニ被告ハ之レヲ却下セルヲ以テ本訴ニ及ヘリト陳述シ」被告ハ原告ノ立證竝ニ係爭山林カ原告部落ノ鄕山タリシ事實ハ凡テ之レヲ爭ハサルモ原告大屋寺內部落ノ請求地中字長谷山乙國有林反別二十町歩ノ一筆ハ出訴期限經過後本訴ニ追加セルモノナルヲ以テ棄却セラレタシト答辯セリ

按スルニ被告カ明治三十七年五月二十三日附林第一六九六七號指令ヲ以テ處分ヲ與ヘタル土地ハ附屬第一號ノ一申請書ニ記載シアル大字屋澤外三筆ニ外ナラス面シテ本件ハ前記行政處分ノ取消ヲ要ムルヲ以テ其目的トナセルコトハ訴狀ノ一定ノ申立請求ノ原因竝ニ附屬書類ノ記載ニ徵シテ明カナレハ原告カ字長谷山乙國有林一筆ニ係ル訴狀ノ訂正ハ本訴目的ノ範圍內ニ於テ事實上落筆セルモノヲ更正シタルニ過キサルヲ以テ之レカ爲メ新ナル請求ヲ加ヘタルモノニ非スト認ムルニ依リ此點ニ關スル被告ノ抗辯ハ採用スルヲ得ス而シテ本件ハ被告ニ於テ原告ノ立證竝ニ係爭山林カ原告部落ノ鄕山ナリシ事實ハ凡テ爭ハサルトコロニシテ原告ノ請求ハ理由アルモノト認メ主文ハ如ク判決ス

◉國有林下戻不當處分ノ訴

明治三十七年第八百五十三號
明治四十一年十月三十日判決　（請求不立）

判決要旨

一、書證トシテ寫本ヲ提出スルモ本書ノ提出ナキ以上ハ之ヲ以テ斷證ニ供スルヲ得ス

福島縣大沼郡新鶴村
原告　弘安寺

寫本證書ノ證據力

同寺住職
右代表者　菊地碩淳

被告　大浦兼武　訴訟代理人　鈴木充美
農商務大臣男爵

右當事者間ニ於ケル國有林下戻不當處分ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實及理由

原告請求ノ要旨ハ本件係爭地ハ往古ヨリ原告寺ノ所有地ニシテ萬治年間ニ長尾山及大窪山ノ二箇所ニ分割セラレ明治五年地券發行ノ當時及明治十一年山野改正ノ際現今ノ字ニ改正セラレタルモノナレハ原告寺ニ下戻サルヘキモノナリト云フニ在リテ甲第一號乃至甲第三號證ヲ提出シ」被告ハ原告提出ノ甲號各證ハ總テ不正確ナルカ故ニ原告ノ請求ハ理由ナキヲ以テ排斥セラレ度シト答辯セリ

按スルニ原告カ證據トスル甲第一號乃至甲第三號證ハ寫ニシテ本書ノ提出ナキヲ以テ原告主張ノ事實ヲ認ムルニ由ナキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

◉官林下戻不當處分取消請求ノ訴

明治三十七年第千二百八十九號
明治四十一年十月二十九日判決

（請求不立）

判決要旨

一、拜領山ハ必シルモ私有ニ屬セス

宮城縣栗原郡岩ケ崎町
原告　中村小次郎　訴訟代理人　有馬忠三郎

被告　大浦兼武　訴訟代理人　鈴木充美
農商務大臣男爵

右當事者間ノ官林下戻不當處分取消請求ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス、訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告陳述ノ要旨ハ陸前國栗原郡岩ケ崎町字猪子山字後山二箇銘官林反別三十七町五反六畝十九歩外五筆ノ官林ハ原告ノ先祖中村日向カ仙臺藩主ヨリ拜領シ爾來累代之ヲ所有シ來リタルニ地租改正ノ際官林ニ編入セラレタルヲ以テ下戻ヲ申請シタルニ不許可ノ指令ヲ與ヘラレタルハ不當ナルヲ以テ請求地ヲ原告ニ下戻スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ請求地中字猪子字山後山字猪子山梅田山ノ二筆ヲ除キ他ノ請求地カ原告ノ拜領山タリシコトハ之ヲ認ムト雖拜領山ハ私有關係ニアラス明治初年一旦取上ケラレ其後歸農者ニハ特典ヲ以テ下付セラレタル例アリト雖原告ノ如ク歸農セサルモノニハ適用スヘキ限ニアラス要スルニ原告ノ請求ハ不當ナルヲ以テ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔タルヘシトノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

拜領山ノ所有權

理由

原告ハ制度上拜領山ハ當然私有物ナリト主張スルモ之ヲ認ムヘキ理由充分ナラス而シテ當事者隻方ヨリ參考トシテ提出セル舊仙臺藩重臣ノ諸願書及之ニ關シテ辨事役所ヨリ取締ノ各藩ニ達シタル文書ニ依レハ舊藩時代ニ於テモ本件請求ノ山林ヲ當然私有物ト認メタルニアラスシテ諸願ノ趣旨ハ舊領ノ藩士陪隷ヲシテ其ノ地ニ歸農セシメ以テ自活ノ途ヲ得セシムルニアリテ辨事役所モ亦歸農ヲ條件トシテ之ヲ聞屆ケタルモノト認ムヘキニヨリ歸農セサル原告ハ本件請求ノ山林ニ對シ何等ノ權利ヲ有スルモノニアラス其請求ハ理由ナキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

◉山地境界之義ニ付御裁定願

明治四十一年第百五十四號
明治四十一年十一月四日第二部裁決（却下）

判決要旨

一、裁判所カ原告ニ對シ訴狀ノ訂正及ヒ相當印紙ノ貼用ヲ命シタルモ原告ニ於テ之ニ從ハサルトキハ其訴訟ヲ却下スヘキモノトス

原　新潟縣東蒲原郡三川村大字行地五番戸平民農
告　阿部八太郎

原告ヨリ提起シタル山地境界之義ニ付御裁定願ト題スル訴訟狀ニ就キ審査ヲ遂ケ裁決スルコト

左ノ如シ

主文

本訴ハ之ヲ却下ス

理由

本件ノ要旨ハ原告所有ノ新潟縣東蒲原郡三川村大字行地小阪第千二百七十九番山地杉二町五反歩ト國有ニ係ル同大字字上ノ山第千二百七十六番山地二十町歩、同大字字向山第千二百七十三番山地三町五反歩及同大字字横峯山地五町三反三畝十歩トハ天然ノ境界アリテ古來其區別判明セルニ拘ラス長野大林區署カ何等ノ根據ナク原告ノ所有地ヲ侵シテ境界ヲ査定シタルハ不當ナルニ因リ之カ取消ヲ求ムト云フニ在ルモ訴狀ノ方式ヲ具備セス且ツ法定ノ印紙ヲ貼用セサルモノナルニ依リ之カ改正及貼用ヲ命シタルニ原告ハ之ニ從ハサルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ主文ノ如ク裁決ス

◉國有林民有ニ下戻申請不許可處分ニ對スル訴

明治三十七年第六百六十六號
明治四十一年十一月五日第一部宣告（請求不立）

判決要旨

一、係爭山林カ原告ノ稼山ニシテ毛上ノ收益ヲ採取シタル事實アルモ之ヲ以テ其所有ノ證據トナスヲ得ス

貼用印紙ノ不足○外書百姓山役錢ノ性質

一外書ニ記載セラレタル百姓山役錢ハ正租ト認ムルヲ得ス

原　山形縣西村山郡白岩町
　　告　大字幸生
　　同町町長
　　右代表者　後藤直寛　　訴訟代理人　太田資時
　　農商務大臣男爵
被　　告　大浦兼武　　訴訟代理人　澤田俊三

右當事者間ニ於ケル國有林民有ニ下戻申請不許可處分ニ對スル訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス　訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告陳述ノ要旨ハ山形縣西村山郡白岩町大字幸生地籍百十七番字高樋一番國有雜木山九町二反四畝十歩外八筆ハ原告大字幸生ノ持山ニシテ之ヲ百姓山又ハ百姓持山ト稱ヘ古來山役ヲ納メ立木ノ賣却伐採等自由ニ進退シ來リタルモノナルニ地租改正ノ際誤テ官有ニ編入セラレタルニ因リ被告ニ其下戻ヲ申請シタル處被告ハ不許可ノ指令ヲ與ヘタルハ不當ナルヲ以テ之ヲ取消シ前記山林ノ下戻ヲ要ムト云フニ在リテ甲第一號證乃至甲第四號證ヲ證據トシテ提出セリ

被告答辯ノ要旨ハ原告陳述ノ事實ハ之ヲ認メス又原告提出ノ甲第一號證乃至甲第四號證ハ其成立ヲ認メス且本件請求ノ目的物中白岩町大字幸生字三合雜木山三十三町七反六畝六歩及字大ゴキ雜木山二百二十四町四反六畝二十歩ノ二筆ハ明治三十五年八月中ノ追加申請ニ係リ即チ國有土地森林原野下戻法ニヨリ與ヘラレタル期限後ノ下戻申請ナルヲ以テ原告ハ本訴ヲ以テ之ヲ請求スルヲ得ス要スルニ原告ノ請求ハ理由ナキヲ以テ排斥ヲ請フト云フニ在リ

理由

原告ノ提出スル甲第一號證濟口證文ニハ「同村(幸生村)地內百姓山ニ而自由ニ相稼候」云云トアレトモ該記事タル原告幸生村即チ山論當事者ノ主張ヲ記述シタルニ過キサレハ之ヲ以テ百姓山若ハ自由進退ノ證トナン難シ尤該證文ニ取扱人ノ意見トシテ「幸生村地內同村稼山ニ相違無之」云云ノ記事アレハ請求山林ハ原告ノ稼山ニシテ毛上ノ收益ヲ採取シタル事實ハ之ヲ認メ得ヘキモ稼山タリシコト若ハ毛上ノ收益ヲ採取シタルコトハ共ニ原告ノ所有ヲ證スルニ足ラス甲第二號證村指出帳ニハ「當村林三十箇所」トアレトモ請求地カ是三十箇所ノ內ナルコト明カナラサル以上ハ請求地ヲ原告ノ持林ト認ムルニ由ナク甲第三號證ノ一巳年貢割付甲第三號證ノ二寅年貢割付ニ於ケル永四十文五分百姓山役錢ハ請求地ニ關スル納稅タルコト明カナラサルノミナラス外書ニ記載セラレタル高外ノ小物成ニ過キスシテ正租ト認メ難ク甲第七號證繪圖ハ甲第一號證ノ立證場所カ請求地ニ該當スルコトヲ證スルモノナレトモ場所ノ該當ハ被告ノ認ムル所ナレハ該證ハ無用ニ歸シタルモノナリ之ヲ要スルニ原告ノ主張ハ一モ確證ナキヲ以テ採用スルヲ得サルモノトス此他原被告ニ於テ尙ホ論爭スル所アレトモ本件裁判上必要ナシト認ムルヲ以テ說明セス

右ノ理由ナルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

◉收用審査會裁決不服ノ訴

明治四十年第百三十五號
明治四十一年十一月七日第一部宣告（請求相立）

判決要旨

一、收用審査會ノ損失補償決定ハ一定ノ事實ニ對シ一定ノ法規ヲ適用スルコトヲ本旨トナスモノ公益若クハ行政上ノ便宜ヲ考量シテ斟酌ヲ加フルモノニアラサレハ違法處分ニシテ裁量處分ニアラス

一、被收用者カ起業者ヨリ補償ヲ受クヘキ損失ノ種類若シクハ原因ヲ論爭スル訴訟ハ其性質行政訴訟ニ屬スルヲ以テ通常裁判所ニ提起スヘキモノニアラス

東京市四谷區仲町
原告　相馬永胤　訴訟代理人　今村力三郎

東京府收用審査會會長
東京府知事

被告　河部浩　訴訟代理人　關直彦　梅田穎三郎

東京市麹町區
東京電燈株式會社取締役

從參加人　佐竹作太郎　訴訟代理人　鳩山和夫　鳩山一郎　上原鹿造

右當事者間ニ於ケル收用審査會裁決不服ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

從參加人ノ妨訴抗辯相立タス

被告カ起業者東京電燈株式會社ノ申請ニ因リ明治四十年十月三日原告ニ對シテ爲シタル裁決ハ之ヲ取消ス

被告ハ起業者ヲシテ原告ニ對シ特別高壓電氣ノ電線架設ノ爲メ使用スル原告ノ所有地東京府豐多摩郡戸塚村字下戸塚字三島田四百四十七番同所田四百四十六番同所田四百十六番同所田四百十七番同所田四百十五番同所田四百十四番同所田三百八十八番同所田三百八十七番同所田三百三十五番同所田三百三十四番同所田三百五十番同所田三百二十九番同所田三百十五番同所田二百九十九番同所田二百九十八番同所田二百八十六番同所畑二百八十五番同所田二百八十四番ノ電柱中間ノ土地及電柱ノ左右各四十尺ノ土地ニ對スル損失ヲ補償セシムヘシ

訴訟費用ハ從參加人ニ關スル分ハ從參加人其他ハ被告ノ負擔トス

事實

原告陳述ノ要旨ハ東京電燈株式會社ハ送電事業ニ必要ナル電柱線架設工事ノ爲東京府豐多摩郡戸塚村大字下戸塚字三島ニ於ケル原告ノ所有地ヲ使用セントスルニ際シ電燈會社ハ其使用區域ヲ單

ニ電柱ノ敷地ニ必要ナル部分ニ止メ之ニ對スル少許ノ損失補償ヲ提供スルニヨリ原告ハ之ニ應セサリシニ電燈會社ハ突然被告ニ向テ收用審査會ノ裁決ヲ求メ被告之ニ對シ明治四十年十月三日ヲ以テ裁決ヲ與ヘ原告ノ意見ヲ排斥セリ原告ハ該裁決ニ服スル能ハス抑電燈會社カ原告ノ所有地ヲ通シテ使用セントスル特別高壓電氣ハ電流中最危險ナル性質ヲ有スルモノニシテ現ニ遞信大臣カ電氣事業取締規則ニ依リ電燈會社ニ命シタル特種設計ノ條項中ニモ電柱ノ地表上ノ高サハ二十尺以上トシ電線路ト人家トノ距離ハ電柱ノ高サノ二倍ノ距離ヲ保ツヲ要ストノ規定アルニ見ルモ明ナル事實ナリ左ラハ電線路ノ左右各四十尺ハ特別高壓電氣ノ流電ヨリ生スル危險界ニシテ此範圍内ハ人家ヲ建設スル能ハス土地所有權ハ自ラ制限ヲ受クルヿトナルナリ近時東京市ハ急速ノ發展ヲナシ其四圍ノ土地ハ之カ爲著シク價格ヲ騰貴セリ其地目ノ田畑タルト山林タルトヲ問ハス苟モ別莊若ハ住宅地トシテ利用シ得ヘキ地所ハ一坪ノ價數圓ヨリ數十圓ニ及ヘリ是其土地カ固有セル交換價額ナリ然ルニ今危險ノ最甚タシキ特別高壓電氣ノ爲地上ニ電柱ヲ建設シ空中ニ電線ヲ架シ電氣ヲ通スルトキハ其附近ノ土地ハ忽チ利用途ヲ杜絶セラレ爲ニ著シク價額ヲ低減スルヤ明ナル事實ナリ然ルニ被告ハ單ニ電柱建設地ニ該當スル地所ニ限リ少許ノ使用料ヲ支拂フヘキ者ト裁決シテ殘地カ空中ノ電線ヲ通スル特別高壓電氣ノ爲利用ヲ妨ケラレ爲ニ受クル損害ヲ度外ニ置キタルハ其意ヲ解シ難シ被告ノ裁決理由ニ「土地所有者ハ現在ノ田ヲ以テ宅地ノ價格アリトシ恰モ宅地カ田ニ變シタル場合ノ如ク價格ノ減少アリトシテ要求スル所アルモ事未來ニ屬シ」云云ト說明セリ然レトモ原告ハ未來ノ損害ヲ要求シタルニアラス起業者ノ事業ノ爲現在ノ價格ニ低落ヲ招ク

ヲ以テ其損害ノ補償ヲ要求シタルモノナリ抑價格低落ノ有無ハ事實問題ニ屬スルカ故ニ被告ハ鄭重ナル調査ヲナシ損害ノ有無ヲ制定スヘキ職責ヲ有ス然ルニ如斯淺薄ナル理由ヲ以テ原告ノ要求ヲ排斥シタルハ原告ノ服スル能ハサル所ナリ仍テ該裁決ヲ取消シ前記原告所有地ノ内電柱中間ノ土地及電柱左右各四十尺ノ土地ヲ使用セシムルカ又ハ其損失ヲ補償セシムヘシトノ判決ヲ請フト云フニ在リテ從參加人ノ妨訴抗辯ニ對シテハ其理由ナキ旨ヲ辯駁セリ

被告答辯ノ要旨ハ原告ノ論旨ハ要スルニ電線路該當地ヲ總テ別莊又ハ住宅地ニ恰當ストノ前提ヲ下シ其結果之等ノ土地カ別莊又ハ住宅地向トシテ其價格ヲ有スルニ拘ラス電線路架設ノ爲家屋ノ建築ヲ妨ケラレ之ヲ別莊又ハ住宅地トシテ利用スルノ途ヲ杜絶セラルルカ故ニ其價格ヲ減少スルノ損害アリト主張スルニアルモノノ如シ然レトモ原告ノ所有地ニシテ此電線路ニ氣該スルモノハ悉ク神田川上水ニ沿ヘル極メテ卑濕ナル田ニシテ決シテ原告主張ノ如ク別莊又ハ住宅地向ノ高等ナル地位地相ヲ有スルモノニアラス故ニ其現ニ有スル價格モ別莊又ハ住宅地トシテノ高價タラサルコト勿論ニシテ單ニ田地トシテノ價格ヲ有スルニ止マルモノトス殊ニ電線路ノ通過スヘキ部分ハ神田川沿官有土手敷ニ殆ント相接スル地盤ニ在ルカ故ニ之ヲ原告カ現在使用シツツアリシ目的即田トシテ利用スルノ上ニ於テ其價格ヲ減スルカ如キ支障ヲ來スノ虞ナキモノトス原告ハ電線路ノ左右各四十尺ハ人家ヲ建築スルヲ得ス此範圍内ノ土地ハ其利用ヲ妨ケラレ價格ヲ減少ストナスカ如キモ現行ノ法規ニハ電線路ノ左右四十尺以内ニ建設物ヲ禁止スルノ明文ナキカ故ニ原告カ行政法規ニ依リ現在ノ田ヲ變シテ宅地トナシ之ニ家屋ヲ築造スルカ如キハ所有權ノ自由範圍ニ屬

ス固ヨリ利用ヲ制限スルモノナキナリ要スルニ本件係爭ノ土地ハ現ニ田ナリ然ルニ原告ハ別莊又ハ住宅地ニ於ケルト同一ノ論結ヲ以テ現ニ建物制限ヲ加ヘラレタルモノノ如ク說明シ以テ價格ノ低落アリトナスモノニシテ其根本ニ於テ誤レルモノトス仍テ原告請求ノ排斥ヲ請フト云フニ在リ

從參加人ハ被告ト同一ノ答辯ヲナシ且妨訴抗辯ヲ提出セリ其要旨ハ第一行政裁判所カ土地收用審査會ノ裁決ニ對シテ管轄權ヲ有センニハ(一)其裁決カ違法ナルコトヲ要シ(二)其違法裁決ニヨリ權利ヲ傷害セラレタリトスルモノヨリ出訴スルコトアルヲ要ス然ルニ本件ハ原告ニ於テ收用審査會カ其權限ノ範圍內ニ於テ定メタル損失補償ノ金額ヲ不當トシテ出訴シタルモノニシテ所謂行政廳ノ自由裁量ノ範圍ニ屬スル處分ニ對シテ出訴シタルモノナリ果シテ然ラハ假令其補償金額カ不當ニ少シトスルモ審査會ノ行爲ヲ不正ト謂フヘカラサルヤ明カナルヲ以テ本件ハ行政訴訟ノ要件ヲ缺ケリ況ンヤ土地損失補償金ハ徵收當時ニ於ケル價格ニヨルヘキハ學說ノ一致スル所ナルノミナラス明文上明カナルヲ以テ審査會カ收用法規ノ實際上ノ適用ヲ誤ラサルコト疑ナキニ於テオヤ要スルニ行政裁判所ハ本件ニ對シテ管轄權ヲ有セス第二土地收用法第八十二條ニ依レハ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルモノハ通常裁判所ニ出訴スヘシトノ規定アリ本件ハ土地收用審査會カ定メタル補償金額ヲ不當トスルモノナレハ宜ク通常裁判所ニ出訴スヘキモノナリ然ルニ原告ハ行政裁判所ニ出訴シタルハ其途ヲ誤マリタルモノニシテ行政裁判所ハ本件ヲ審理スヘキ權ナキヤ一點ノ疑ヲ容ルヘキ餘地ナシ仍テ本件ノ棄却ヲ請フト云フニ在リ

理由

從參加人ニ於テハ第一收用審査會ノ裁決ニ對シ行政訴訟ヲ提起スルハ收用審査會ノ違法ニ依リ權利ヲ傷害セラレタル者ナルコトヲ要ス然ルニ本件ハ東京府土地收用審査會カ其權限ノ範圍內ニ於テ定メタル損失補償額ヲ不當トスルニ在リテ所謂行政廳ノ自由裁量ノ範圍ニ屬スル處分ヲ非難スルニ止リ行政訴訟ノ要件ヲ缺ク者ナレハ原告ニ訴權ナク行政裁判所ニ管轄權ナシト云フモ收用審査會ノ損失償補決定ハ一定ノ事實ニ對シ一定ノ法規ヲ適用スルコトヲ旨トシ公益若ハ行政上ノ便宜ヲ考量シテ斟酌ヲ加フル者ニアラサレハ違法處分ニシテ裁量處分ニアラス從テ其裁決カ違法ニアラスヤ否ノ問題生シ得ヘキハ洵ニ睹易キ所ナリ而シテ本件ハ原告ニ於テ東京府土地收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害スラレタリトスルニアリテ土地收用法第八十一條第二項ニ於ケル行政訴訟ノ要件ヲ具備セリ然ラハ原告ハ行政訴訟ヲ提起シ得ルモノニシテ行政裁判所ニ管轄權ナシト謂フヲ得ス第二土地收用法第八十二條ニ依レニ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテハ通常裁判所ニ出訴スヘク行政訴訟ヲ提起シ得ヘキモノニアラスト云フモ本件ハ原告ニ於テ補償ヲ受クヘキ損失ノ種類若ハ原因ニ付論スルモノニシテ數額ノ爭ニアラサレハ其性質行政訴訟事件ニシテ通常裁判所ニ出訴スヘキモノニアラス然ラハ原告ニ於テ行政裁判所ニ出訴シタルハ相當ニシテ從參加人ノ妨訴抗辯ハ二點共ニ其理由ナキモノトス

被告及從參加人ニ於テハ原告所有地ニシテ電線路ニ該當スルモノハ神田川上水ニ沿ヘル極メテ卑濕ナル田ニシテ決シテ原告主張ノ如ク別莊又ハ住宅地向ノ高等ナル地位地相ヲ有スル者ニアラス

故ニ其現ニ有スル價格モ別莊又ハ住宅地トシテノ高價ヲ有セサルハ勿論ニシテ單ニ田地トシテノ價格ヲ有スルニ過キスト云フモ近年都市ノ發展ニ伴ヒ郊外ニ於ケル田畑山林ノ漸次宅地ニ變更セラルルニ顯著ナル事實ニシテ實地臨檢ノ結果ニ依レハ係爭地ハ早稻田大學運動場及原告別莊ニ連接セル一帶ノ地所ニシテ臨檢ノ前日稀有ノ大雨アリシカ爲ニ神田川上水氾濫シ其沿岸ノ地域ト與ニ係爭地モ亦浸水セラルルト雖モ其田地ヲ埋立テ地均ヲナセル現狀ヲナルコトハ被告及從參加人ノ認ムル所ナルノミナラス係爭地ノ東方ニハ早稻田ヨリ目白ニ通スル四間幅ノ新道アリテ之ニ沿ヒ續續人家ヲ新築セラレ、漸次係爭地ニ及ホスヘキ趨勢ナレハ係爭地ハ素ヨリ高等ノ宅地ト謂フヲ得サルヘキモ被告主張ノ如ク單ニ卑濕ノ耕地トシテ止ムヘキ場所ニアラサルコト明カナレハ收用ノ審査會カ裁決ヲナス當時ヨリ係爭地ノ位置及附近ノ狀態ニ觀テ既ニ宅地トシテ場所相當ノ價格ヲ有セシモノト認ムルニ十分ナリ又被告ハ現行ノ法規ニハ電線路ノ左右四十尺以內ニ建設物ヲ禁止スルノ明文ナキカ故ニ原告カ現在ノ田ヲ變シテ宅地トナシ之ニ家屋ヲ築造スルモ固ヨリ所有權ノ範圍ニ屬シ他ヨリ其利用ヲ制限スルモノナキナリト云フモ前段說明ノ如ク原告所有地ハ宅地タルノ價格ヲ有スルニ拘ラス其一部ヲ使用シ之ニ特別高壓電氣用ノ電線ヲ架設スルトキハ電柱中間ノ地ハ勿論電柱ノ左右各四十尺ハ危險區域トシテ安全ニ家屋ヲ建築シ難キハ甲第一號證ニ依リ明カナレハ原告ノ所有地ハ事實上利用ノ途ヲ狹縮セラレタルモノト謂ハサルヲ得ス之ヲ要スルニ原告所有地ハ現ニ宅地タルノ價格アルモノナレハ本件ノ使用ニヨリ其殘地就中前記危險區域ハ其價格ノ減少ヲ來スヘク從テ被告カ單ニ耕地トシテ利用スルノ外途ナキモノトシ右殘地ノ價格減少ニ對シ何等ノ補償ヲ與ヘサリシハ土地收用法第四十九條ノ規定ニ違背スルモノト謂ハサルヲ得ス仍テ主文ノ如ク判決ス

◉第一種所得金額決定取消請求事件

（明治四十一年第四十六號 明治四十一年十一月十九日判決）（請求相立）

判決要旨

一、營業ノ賣却ハ營業者カ自ラ之ヲ繼續スルヨリモ賣却スルヲ利益ナリトシテ爲スモノナレハ之ニ由テ得タル利益ハ營利ノ事業ニ屬スル所得ナリトス

一、株式ノ價格ハ其ノ拂込額ニ依リ算定スヘキニアラス其ノ當時ノ時價ニ依リ算定スヘシ

東京市本所區業平町
原告 合資會社東レザー商會
右代表者 大石儀作 訴訟代理人 中村豐三郎 森井例 原嘉道
被告 稅務監督官補 訴訟代理人 岩田周作
菅野盛次郎

右當事者間ノ第一種所得金額決定取消請求ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告カ原告ニ與ヘタル明治四十年十二月十日附所得金額決定ハ之ヲ取消ス

營業賣却ニ依リテ得タル利得○株式ノ價額

原告ノ所得ハ金三萬二千七百五圓四十三錢トス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實

原告ハ原告會社ハ明治三十九年八月一日資本金一萬二千五百圓ヲ以テ設立シ明治四十年二月十日現在資産三萬三千八百四十圓七十二錢六厘ヲ現金一萬八千六百圓株式拂込額面七萬五千圓（一株十二圓五十錢）ニテ東レザー株式會社ニ讓渡シ該讓渡金ヲ以テ負債金一萬二千三百九十三圓八十一錢八厘ヲ辨濟シ殘高現金六千二百五圓四十三錢三厘（外七十四錢九厘切捨）株式七萬五千圓ヲ出資者（資本金一萬二千五百圓及明治三十九年八月一日ヨリ翌年二月十日ニ至ル事業益金八千九百四十六圓九十錢八厘）ニ對シ分配スルモノニシテ益金八千九百四十六圓九十錢八厘ハ所得稅ヲ負擔スヘキ所得ナルモ販賣益金五萬九千七百五十八圓十二錢五厘ハ營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ得ナルヲ以テ所得稅ヲ課スヘカラルノミナラス假令所得稅ヲ課スヘキモノトスルモ當時該株式ハ時價六圓五十錢內外ニ過キサルヲ以テ一株ノ價格ヲ十二圓五十錢トシテ計算シタルハ不當ナルヲ以テ被告ノ決定ハ減少サレタシト陳述シ」被告ハ販賣益金ハ營業ニ屬スル所得ナルヲ以テ所得稅ヲ課スヘク又株式價格ハ公ノ市場ニ表ハレタル時價ナキヲ以テ株式拂込額面ニ依リ計算スルヲ相當トスルヲ以テ被告ノ決定ハ取消スヘキ理由ナシト答辯セリ

理由

第一原告ハ營業賣却益金ハ營利ノ事業ニ屬セサル所得ナリト主張スレトモ營業ノ賣却ハ原告ニ於テ之ヲ繼續スルヨリモ賣却スルヲ利益ナリトシテ爲シタルモノナレハ之ニ依リテ得タル利益ハ營利ノ事業ニ屬スル所得ナリト云ハサルヲ得ス

第二被告ハ株式ノ價格ハ時價ニ依リ計算スルヲ相當トスレトモ公ノ市場ニ表ハレタル時價ナキヲ以テ株式ノ拂込金額ニ依リ計算スヘキモノナリト主張スレトモ甲第一號證ノ一乃至十九株主名簿書換請求書ニ依レハ該株式ハ常ニ賣買セラレ時價アルコト明カナリ而シテ甲第一號證ノ一ニ依レハ其時價ハ讓渡ノ當時ハ六圓五十錢ナルヲ以テ之ヲ標準トシテ計算スルヲ相當トス依テ主文ノ如ク判決ス

●鰤大敷網敷設免許違法否拒並違法更新ノ處分ニ對スル訴

明治四十年第三十三號
明治四十一年十一月十九日

判決要旨

一、他人ノ專用漁業區域內ニ定置漁業ヲ許可スルニ付テハ右專用漁業者ノ承諾ヲ得サル可ラサルモノニアラス

然レトモ其ノ定置漁業カ專用漁業ト相容レサルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得ス（漁業法施行規則第八條）而シテ其ノ所謂相容レサルトハ定置漁業ノ爲メニ專用漁業ニ著シク妨害ヲ加フル場合ヲ云

他人ノ專用漁業區域ニ對スル定置漁業ノ許可

フモノニシテ其ノ妨害ノ度僅少ニ止マルカ如キハ右漁業法施行規則第八條ノ所謂相容サルモノニ相當セス

一、專用漁業トハ一定ノ水面ヲ專用シ限定セラレタル種類ノ漁業ヲ爲スノ義ニシテ一定ノ水面ヲ獨占シテ其ノ區域内ニ於ケル凡テノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ附與セラレタルモノニアラス從テ專用漁業者ハ其ノ區域内ニ定置漁業ノ許可ヲ受クヘキ已得權ヲ有シタルモノト云フヲ得ス

二八

高知縣高岡郡須崎町
原告　須崎浦漁業組合
右代表者　金治丑松　訴訟代理人　岸本辰雄　外二名

高知縣知事　訴訟代理人　江淵俊政
被告　石原健三
高知縣高岡郡多ノ郷村　訴訟代理人　高木豐三　外二名
從參加人　森光龜太郎　外二名

右當事者間ノ鰤大敷網敷設免許違法否拒並ニ違法更新ノ處分ニ對スル訴ニ付審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス　訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告ハ其專用漁業ノ區域内ニ鰤大敷網ノ敷設ヲ出願シタルニ被告ニ於テ之ヲ拒否シタルハ理由ナキノミナラス從來ノ慣行ヲ無視シ原告ノ承諾ヲ得スシテ森光龜太郎外八名ニ鰤大敷網敷設免許更新ノ許可ヲ與ヘタルハ不當ナルニヨリ其許可ヲ取消シ原告ニ鰤大敷網敷設ノ免許ヲ與ヘラレタシト請求シ」被告ハ之ニ對シ係爭漁業ハ既ニ森光龜太郎外八名ノ權利ニ屬シ他ニ原告ノ新願アルモ同人等カ免許更新ヲ出願スル以上ハ其更新ヲ許可スルヲ至當トス而シテ明文上及慣行上其更新ヲ許可スルニ原告ノ承諾ヲ要セサルニヨリ被告ノ處分ハ適法ナリト答辯シ又被告從參加人ハ被告カ從參加人ノ更新申請ヲ許可シ原告ノ出願ヲ却下シタルハ適法ナルニヨリ原告ノ請求ハ棄却セラレタシト陳述セリ

理由

按スルニ本件第一ノ爭點ハ原告ノ專用漁業區域内ニ於テ定置漁業ヲ許可スルトキハ新ナル免許ナルト更新ナルトヲ問ハス原告ノ承諾ヲ要スルヤ否ヤニ在リ原告ハ其專用漁業ハ慣行ニ基キタルモノニテ甲第五號證及甲第六號證ノ示ス如ク舊藩時代ヨリ存在シ且明治三十九年專用漁業免許狀ニモ定置漁業ニ關スル特別ノ制限ナキニヨリ其區域内ニ於テ定置漁業ヲ許ストキハ其承諾ヲ要スルコト當然ナルノミナラス其之ヲ要スルハ明治二十九年高知縣令第二十五號第七條ノ規定ニ依ルモ

他人ノ專用漁業區域ニ對スル定置漁業ノ許可

明カナリト云フト雖右縣令ハ明治三十六年高知縣令第十三號ニ依リ既ニ消滅ニ歸シ而シテ現行漁業法ノ專用漁業トハ一定ノ水面ヲ專用シ限定セラレタル種類ノ漁業ヲ爲スコトナルニヨリ其區域內ニ定置漁業ヲ許スモ當然原告ノ承諾ヲ要スルモノニアラス次ニ原告ハ甲第四號證ヲ以テ漁業法發布後モ漁業組合內ノ免許出願ニハ組合ノ承諾ヲ添附スヘキ慣行アルコト疑ナシト云フト雖該證ニハ組合ノ意見ヲ付シ云云トアリ承諾ヲ得ヘシトアラサレハ之ヲ要スルモノト云フヲ得ス又原告ハ甲第三號證ヲ以テ從參加人カ定置漁業ヲ出願シタルトキニ原告ハ一期間承諾ヲ與ヘタルニ過キサルコトヲ證シ其免許期間更新ノトキニモ原告ノ承諾ヲ求メサルヘカラサルコトヲ主張スト雖既ニ法律上承諾ヲ要件トセサル以上ハ被告ニ於テ原告ノ承諾ナキ場合ニ免許ヲ與フルモ不法ト爲スヲ得ス第二ノ爭點ハ原告ハ自己ノ專用水面內ニ於テハ當然鰤大敷網ノ敷設ヲ許可セラルヘキ權利ヲ有スルヤ否ヤニ在リ原告ハ慣行上舊藩時代ヨリノ專用漁業權ヲ有シ其區域內ニ於テハ如何ナル漁業モ爲シ得タルニヨリ當然鰤大敷網敷設ノ許可ヲ受クヘキ權利アリト主張スト雖前段說明ノ如ク專用漁業免許ハ其水面ヲ獨占スルノ權利ヲ付與シタルモノニアラサレハ原告ハ當然其區域內ニ於テ定置漁業ヲ許可セラルヘキモノナリト云フヲ得ス第三ノ爭點ハ從參加人ニ許可セラレタル定置漁業ハ原告ノ專用漁業ト相容レサル害ヲ爲スモノナリヤ否ニ在リ此點ニ關シテハ鑑定人三名中二名ノ鑑定書ニ依レハ「雙子大敷網ノ垣網及身網ノ爲メ「ニゴリ網代」ニ於ケル魚道ノ妨害トナルヤ否ニ付認定スルコト左ノ如シイワシシラサハマチハ幾分其魚道ヲ妨ケラルルコトアリト認ム」又「保護區域延長九百間ノ內乙種六百間ニ對シテハ障礙ヲ受クルコトナキモ甲種保護區域三百間

ノ爲メ障礙ノ有無左ノ如シ鰤叩縛網瓢曳網飯建網ハ障礙ヲ受クルコトアルモ其程度甚少ナシ」トアリテ其妨害ノ程度甚僅少ナルヲ認ムヘク隨テ漁業法施行規則第八條ニ所謂相容レサルモノト認定スルヲ得ス又原告ハ其專用漁業權ハ農商務大臣ヨリ付與セラレタル免許狀所載ノ制限ノ外何等ノ制限ヲ受クヘキモノニアラサレハ其制限以外ノ漁業ハ妨害ノ多少ヲ問ハス許可セラルヘキモノニアリト云フト雖定置網ハ免許狀記載ノ鰤地曳網鰤敷網ト異ナリ常ニ存在スルモノニシテ原告カ之カ爲メ制限ヲ受クヘキハ言ハスシテ明カナル爲メ換言スレハ該網ノ存在カ既ニ制限ヲ示スヲ以テ特ニ免許狀ニ之ヲ記載セサリシモノト認ムレハ此主張ハ採用スルヲ得ス又原告ハ鑑定人ニ於テ從參加人ノ定置漁業カ原告ノ專用漁業ニ妨害アリト鑑定スル以上ハ漁業法施行規則第十一條ニ依リ取消サルヘキモノナリト主張スト雖同條ハ漁業權ノ許否ヲ決スル場合ニ適用スヘキモノニアラサレハ是亦理由ナキモノトス

以上ノ次第ナルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

◉官林下戻請求ノ訴（明治三十七年第六百九十一號 明治四十一年十一月十九日判決（請求相立））

判決要旨

一、係爭地ノ所有權カ民有ニ屬スル以上ハ其ノ地上ノ立木モ亦タ其所有ト認ムルヲ通例トス

土地ト立木トノ關係

青森縣東津輕郡東嶽村
原告　渡邊春吉　訴訟代理人　平澤均治
農商務大臣男爵
被告　大浦兼武　訴訟代理人　元田肇

右當事者間ニ於ケル官林下戻請求ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告ハ青森縣東津輕郡東嶽村大字宮田山下國有林百十八番地反別七町八畝二十八歩西南ハ三本木村及瀧澤村ノ地籍ニ隣接セル峯境ヨリ東北ハ溜池田地菟地原野ニ接スル山岸迄東南ハ細越道ノ内査定標第百八十三號ヨリ百八十號迄西北ハ溜池ニ直角ニ(査定標第百十六腦ヲ起點トス)稍南方ニ奔レル(熊助畑ノ右方)分水嶺迄ノ地及ヒ立木ヲ原告ニ下戻スヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實

原告陳述ノ要旨ハ青森縣東津輕郡東嶽村大字宮田字山下百四十八番國有林七町八畝二十八歩ノ地ハ舊宮田領山下ノ内奥カト澤出戸カト澤清野熊畑助畑ト稱セシ地ニシテ元ト同村大字瀧澤佐々木孫三郎ナルモノ舊津輕藩ヨリ漆仕立山トシテ割渡サレ漆苗ヲ植栽シ防風ノ爲メ松其他ノ雜木ヲ植付ケ漆木ヲ成木セシメシヲ安政二年中原告先代渡邊仁三郎ニ讓渡シ舊藩ノ認可ヲ得タルモノニシテ爾來原告ニ於テモ之ヲ防護シ自由ニ進退シ來リタルニ改租ノ際誤テ官有ニ編入セラレタルモノナレハ其下戻ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ係爭地カ甲第一號證記載ノ地ニ該當スルヤ否ヤ竝原告ノ承繼關係明白ナラサルノミナラス係爭地ニハ少數ノ漆木點在スルノミニシテ割渡サレタル地ニ漆木ヲ植栽シ成木セシメタリトノ事實ヲ認メ難ケレハ原告請求ハ理由ナキニ依リ棄却セラレ度シト云フニ在リ

理由

被告ハ場所ノ該當ヲ爭フモ甲第一號證ニ「宮田村領山下漆畑云云」トノ記事アルニ依リ仁三郎ナルモノノ讓受ケタル地カ宮田ノ内字山下地内ナルハ明ラカニシテ字山下地籍内ニハ係爭地ノ外他ニ漆仕立場所ナキ旨ノ被告ノ自認係爭地ニ漆木存在ノ事實及各證人ノ證言ヲ綜合スレハ係爭地カ甲第一號證ノ宮田村仁三郎ナルモノ其姓渡邊ナルハ甲第二號證ニ宮田村仁三郎ト記名セラレ佐々木孫三郎ト列記セラルルモノ甲第三號證ニ渡邊仁三郎トシテ佐々木孫三郎ト列記セラルルニ依リ推定シ得ヘク而テ渡邊仁三郎ハ原告先代ノ幼名ナルハ現ニ係爭地ヲ讓渡シタル佐々木孫三郎ノ承繼者タル證人佐々木平八郎及證人石川勝雄ノ證言ニ徵シ信シ得ヘケレハ原告ノ承繼關係ハ之ヲ認ムルヲ得ヘク又被告ハ係爭地内ニハ漆木點在スルノミニテ成木ノ事實ヲ認メ難シト云フモ實地ヲ臨檢スル所ニ依レハ係爭地内原告ノ所謂熊助畑ニ三十五本清野畑ニ四十本出戸カド澤ニ八十本奥カド澤ニ三十本以上ノ漆木存在シ其樹齡モ鑑定ノ結果ニ依レハ四十年乃至五十年ニシテ甲第一號記載年度ニ略符合スレハ係爭地内ニ漆苗ヲ植付ケ成木セシメタル事實ヲ認ムルニ足ル舊藩制ニ依リ漆木成木ノ上ハ土地所有權ヲ得ルモノナルハ被告ノ認ムル所又立木ハ既ニ其土地原告ニ屬スル以上ハ反對ノ證據ナ

土地ト立木トノ關係

キ限リ原告ノ所有ト認ムルヲ相當トス

右ノ理由ニ依リ主文ノ如ク判決ス

●所得金額決定請求事件

明治四十一年第百七十五號
明治四十一年十二月二十一日判決（棄却）

判決要旨

一、稅務署長ノ通知シタル所得金ニ對シ異議アルトキハ所得稅法第三十六條ニ依リ審査ノ請求ヲ爲シ同第三十七條ノ決定ヲ經ルニアラサレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

原　東京市芝區西久保巴町　訴訟代理人　富澤効
告　園田實德
幸橋稅務署長
被告　佐川貞一郎

右當事者間ノ明治四十一年第一七五號所得金額決定取消請求訴訟審理判決スルコト左ノ如シ

主文

本訴ハ之ヲ棄却ス　訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

本訴ノ要旨ハ明治四十一年八月十日被告カ原告ニ對シテ爲シタル所得金額決定ハ違法ノ點アルヲ以テ之カ取消ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ハ未タ所得稅法第三十六條ニ依リ審査ノ請求ヲ爲サス

隨テ同法第三十七條ニ規定セル所得金額ノ決定ヲ經サルモノナレハ原告ハ同法第三十九條ニヨリ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

●縣參事會不當裁決取消請求ノ訴

明治四十一年第九十號
明治四十一年十一月二十五日第二部宣告（請求不立）

判決要旨

一、苟モ町村長ノ管掌ニ屬スヘキ事務ナル以上ハ其種類性質ノ如何ヲ問ハス別ニ反對ノ規定ナキ限リ區長ヲシテ之ヲ補助セシムルコトヲ得

一、町村ノ區長ハ事實上郡會議員ノ選擧事務ニ干與セサルモ尚ホ町村長ノ補助機關トシテ郡制第六條第八項ノ所謂選擧事務ニ關係アル吏員ニ該當ス

兵庫縣城崎郡八代村
原　告　吉谷次郎平　訴訟代理人　廣岡字一郎
兵庫縣參事會
兵庫縣知事
被　告　服部一三　訴訟代理人　長濱貞夫

右當事者間ニ於ケル縣參事會不當裁決取消請求ノ訴文書ニ就キ審理判決スルコト左ノ如シ

所得金額決定ニ對スル異議

主文

原告ノ請求相立タス　訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實及理由

原告カ明治四十年九月三十日兵庫縣城崎郡八代村選擧區ニ於テ城崎郡會議員ニ當選シ爾後就職中ナリシコト明治四十一年一月十一日城崎郡參事會カ同郡長ノ申立ニ基キ原告ハ郡會議員當選ノ當時八代村ノ内猪爪村區長ノ職ニ在リタルヲ以テ町村制第七十三條ニ依リ郡會議員選擧事務ニ付キ町村長ヲ補助スヘキ職責ヲ有スル吏員ナレハ郡制第六條ニ依リ八代村選擧區ニ於テ被選擧權ヲ有セサルモノナリトノ理由ヲ以テ原告ニ對シ失職ノ決定ヲ爲シタルコト及原告カ被告ニ對シ前記城崎郡參事會ノ決定取消ヲ訴願シ被告ハ之ニ取消スヘキ限ニアラスト裁決シタルコトノ各事實ハ原告及被告ニ於テ爭ナキ所ナリ而シテ原告ハ猪爪村區長ハ町村制第六十四條ニ所謂村會又ハ區會ニ於テ選擧シタルモノニアラサルヲ以テ正當ナル行政法上ノ吏員ト謂フコトヲ得ス假ニ正當ナル町村制上ノ區長ナリト謂フコトヲ得ヘキモノトスルモ區長ハ必ス選擧事務ニ關係スヘキ本然ノ職責アルモノニアラサルカ故ニ其ノ被選擧資格ノ有無ハ事實上選擧事務ニ關係シタルト否トヲ標準トシテ之ヲ決定セサル可カラス然ルニ原告ハ明治四十年九月三十日執行ノ城崎郡會議員選擧ノ事務ニハ猪爪村區長トシテ毫モ關係シタルコト無キヲ以テ八代村選擧區ニ於テ郡會議員ノ被選擧權ヲ有スルコト明白ナリ依テ被告カ爲シタル城崎郡參事會ノ決定ハ取消スヘキ限ニアラストノ裁決ハ之カ取消ヲ求ムト主張シ被告ハ猪爪村區長ハ町村制第六十四條ニ依リ八代村會ニ於テ選擧セラレタル區長ニシテ原告ノ之ヲ否認スルハ全然謂レナキ事實ナルノミナラス區長ナルモノハ當該町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル事務ヲ補助スヘキ職責ヲ有スルハ町村制第七十三條ノ示ス所ニシテ選擧事務ニ就テモ亦町村長ノ指揮命令ニ從ヒ之ニ關係スヘキ職責ヲ有シ苟モ區長タル以上ハ事實選擧事務ニ從事シタルト否トヲ問ハス當然郡制第六條第八項ノ吏員ニ該當スヘク從テ原告主張ノ如ク選擧事務ニ從事シタルヤ否ヤノ事實關係ノ有無ヲ標準トシテ其ノ被選擧資格ヲ決定スヘキモノニアラス依テ被告ノ裁決ハ相當ナルヲ以テ原告ノ請求ハ棄却セラレンコトヲ望ムト答辯セリ

按スルニ原告ハ猪爪村區長ハ町村制第六十四條ニ所謂村會又ハ區會ニ於テ選擧シタルモノニアラサルヲ以テ正當ナル行政法上ノ吏員ト謂フコトヲ得スト主張スト雖モ原告カ八代村内ノ一區タル猪爪村ノ區長タル以上ハ町村制第六十四條第二項ニ依リ選擧セラレタルモノト推定スヘク原告ハ別ニ之カ反對ノ立證ヲ爲ササルノミナラス被告ノ提出セル參考書類ニ依ルモ其ノ村會ニ於テ選擧セラレタル事實ヲ認ムルニ足ルヲ以テ原告ノ該主張ハ之ヲ採用スルヲ得ス而シテ區長ハ町村長ノ指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スヘキ職責ヲ有スルコトハ町村制第七十三條ノ規定セル所ニシテ其事務苟モ町村長ノ管掌ニ屬スルモノナルニ於テハ其種類性質ノ如何ヲ問ハス別ニ反對ノ規定ナキ限ハ町村長ハ同條ニ依リテ區長ヲシテ補助セシムルコトヲ得ルハ明白ナリ然ラハ郡會議員選擧事務ハ町村長ノ管掌スル事務ニ屬スルカ故ニ其選擧事務ニシテ町村ノ一區内ニ關スルモノニ付テハ區長ハ町村長ノ指揮命令ヲ受ケテ之ヲ補助執行スヘキ職責アルモノト

謂ハサルヘカラス從テ區長ハ町村長ノ補助機關トシテ郡制第六條第八項ノ所謂選擧事務ニ關係アル吏員ナルコト疑ヲ容レス原告ハ區長ハ必ス選擧事務ニ關係スヘキ本然ノ職責アルモノニアラサルカ故ニ其被選擧資格ノ有無ハ事實上選擧事務ニ關係シタルト否トヲ標準トシテ之ヲ決定セサル可ラスト謂フト雖モ假令原告カ事實上選擧事務ニ干與セサリシトスルモ單ニ村長カ之ニ干與セシメサリシニ過キスシテ之カ爲ニ性質上選擧事務ニ關係アル吏員ニ非スト謂フヲ得ス之ヲ要スルニ原告ハ選擧ノ當時被選擧權ヲ有セサルモノニシテ被告ノ裁決ハ相當ナリ依テ主文ノ如ク判決ス

◉公賣取消ノ訴

明治四十年第百四十八號
明治四十一年十一月十日判決（請求不立）

判決要旨

一、國稅徵收法第十二條ハ差押ヘキ財產ノ見積價格カ督促手數料滯納處分費及ヒ同第三條ニ依ル先取債權ヲ控除シ殘餘ナキ場合ハ當該官廳ニ於テ滯納處分ヲ遂行スヘキ義務ナキコトヲ規定シタルモノニシテ其ノ權利ナキコトヲ規定シタルモノニアラス從テ此場合ニ於テ當該官廳カ滯納處分ヲ遂行スルコトアルモ之ヲ以テ違法ノ處分トナスヲ得ス

東京府西多摩郡西秋留村牛沼百八番地
原告　久保助太郎　訴訟代理人　弓削元健
八王子稅務署長
被告　田中寛治

右當事者間公賣取消ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告陳述ノ要旨ハ被告カ公賣ニ付シタル原告所有ノ土地ニ對シテハ國稅徵收法第三條ニ依リ先取權アル債權三千餘圓存在シ假リニ差押當時ニハ國稅ニ充ツヘキ殘餘額アリタリトスルモ公賣當時被告ノ見積價格ニ依レハ上記債權額ニモ足ラス國稅ニ充ツヘキ殘餘額ヲ得ルヘキ見込ナキコト明カナルヲ以テ國稅徵收法第十二條ニ依リ當然滯納處分ノ執行ヲ止ムヘキニ之レヲ遂行シタルハ違法ナリトス又被告ハ本件土地ニ對スル第一抵當權者ヨリ其ノ順位ヲ讓リ受ケタリト主張スルモ抵當權順位ノ讓渡ハ民法ニ依リ抵當債權者間ニ限ルモノナルヲ以テ被告及第一抵當權者間ノ讓渡ハ法律上效力アルモノニアラス假リニ之ノ讓渡ニシテ有效ナリトセンカ被告ハ公賣セル土地ノ內單ニ一筆ヲ賣却セハ稅金徵收ノ目的ヲ達スルニ充分ナルニ五筆ヲ賣却シタルハ國稅徵收法施行規則第十三條ノ規定ニ違背スル違法ノ處分タリ加之被告ノ處分ハ國稅徵收法施行規則第十九條第二十四條及國稅徵收法第四條ノ七ニ違背シタルモノタリ以上ノ如ク被告ノ處分ハ違法ナルヲ以テ原告

滯納處分

所有ノ南多摩郡八王子町元子安字森南千五百七十二番イ號ノ一市街宅地二百十六坪外四筆ノ土地ニ對スル公賣ヲ取消スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ國稅徵收法第十二條ハ差押當時ノ制限規定ニシテ一旦差押ヘタル以上ハ同法第二十四條ニ依リ之ヲ公賣スル職務ヲ有シ差押當時ノ見積價格ニヨレハ國稅ニ充ツヘキ殘餘見込額アリシモノナルカ故ニ被告ノ處分ハ違法ニアラス又被告カ第一抵當權者ヨリ順位ヲ讓受ケタルハ畢竟該土地公賣ノ結果第一抵當權者カ自己ニ取得スヘキ金額中ヨリ久保助太郎ノ滯納稅額ニ相當スル金額ヲ被告ニ納付スルコトヲ約シタルニ止マリ此契約アリタルカ爲メニ公賣ヲ決行シタルニアラス公賣決行ハ法規上當然爲ササルヘカラサル所タルノミナラス被告ト第一抵當權者トノ契約ハ公賣決行以後ノ事ニ屬ス而シテ被告カ差押ヘタル土地ノ全部ヲ公賣ニ付シタルハ當初五筆全部ヲ差押フルニアラサレハ多額ノ債權ヲ控除シテ剩餘ヲ得ル見込ナシトシテ爲シタル當初ノ差押ニ伴フ必然ノ結果ニシテ被告カ先取權ヲ有スルモノトシテ公賣シタルモノニアラサルヲ以テ五筆全部ノ公賣ハ違法ニアラス又原告ノ理由トスル第四點ハ本件ノ場合ニ該當セサルコトハ貴裁判所ノ判例ニ徵スルモ明カニシテ公賣期日及差押ハ被告之ヲ原告ニ通知スル法規上ノ義務ナク公賣公告ヲ爲シタルハ乙第三號證ニ徵シテ明カナリ要スルニ被告ノ處分ハ毫モ違法ノ點ナキヲ以テ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リテ乙第一、二、三號證ヲ提出セリ

理由

被告ハ國稅徵收法第二十四條ニ依リ通貨以外ノ差押財產ハ當然之ヲ公賣ニ付スヘキ職務ヲ有シ同法第十二條ハ單ニ差押當時ノ制限規定ニ過キスト主張スルモ本來同法第十二條ハ國庫ノ損益ヲ主トシ無用ノ手數ト費用トヲ省略スル趣旨ナルカ故ニ差押當時ト差押以後トヲ問ハス苟モ財產ノ價格ニシテ督促手數料滯納處分費及同法第三條ニ依ル先取債權ヲ控除シ殘餘見込額ナキトキハ滯納處分ノ執行ヲ止ムトノ規定ナルモ同條ハ斯ノ如キ場合ニ於テハ當該官廳カ滯納處分ヲ遂行スヘキ義務ナキコトヲ規定シタルニ過キスシテ私人ニ權利ヲ與ヘ又ハ私人ノ權利ヲ保障シタルモノニアラス依リテ本件ニ於テハ差押財產公賣當時ノ見積價格ニヨリ國稅ニ充ツヘキ殘餘見込額ナキコト明カナリト雖モ之カ爲メニ其公賣處分ヲ違法ナリトシテ取消スヘキモノニアラス從テ原告主張ノ理由第一點ハ其理由ナク第二點ハ本件ノ裁判ニ關係ナク第三點ハ現行ノ法令ニ原告主張ノ如キ規定存セサルヲ以テ原告ノ主張ヲ採用スルヲ得ス第四點ハ國稅徵收法第二十條ニ依リ差押ヲ爲ス場合ニシテ本件不動產ノ差押ニ適用スヘキモノニアラス又差押及公賣決行ノ通知ハ被告カ之ヲ爲スヘキ法規上ノ義務ナキ所ニシテ被告カ公賣ノ公告ヲ爲シタルハ乙第三號證ニ依リ認ムルニ充分ナリ以上說明スル如ク原告ノ主張ハ一モ其理由ナク被告ノ爲シタル本件公賣處分ハ之ヲ取消スヘキ理由ナキモノトス依リテ主文ノ如ク判決ス

●郡會議員當選取消ノ裁決ニ對スル訴

明治四十一年第百二十六號
明治四十一年十一月二十日第二部宣告

（請求不立）

滯納處分

判決要旨

一、銀行ヵ郡金庫事務取扱契約ニ依リ某郡金庫ノ名ヲ以テ同郡ノ歳入、歳出及ヒ郡有財産ニ屬スル現金ノ出納、保管ヲ取扱ヒ之ニ對シ實費辨償ヲ受クル外別ニ報酬トシテ年年一定ノ金額ヲ受領スルトキハ該契約ハ郡制第六條第九項ノ所謂請負ニ該當スルモノトス

一、郡長ヵ或銀行ヲシテ金庫事務ヲ取扱ハシムルコトハ命令權ノ作用ニアラスシテ私法的契約ニ基クモノトス

熊本縣菊北郡田浦村
原告　藤崎彌一郎外二名
熊本縣參事會
熊本縣知事
被告　川路利恭
訴訟代理人　笛津誠脩

右當事者間ニ於ケル郡會議員當選取消ノ裁決ニ對スル訴審理判決スル左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

本件ニ於テ原告等ヵ明治四十年九月三十日熊本縣菊北郡田浦村又ハ佐敷町選擧區ニ於テ執行シタル同郡郡會議員選擧ニ當選シタルニ被告ヵ其當選ヲ無効ト裁決シタルコト原告等ヵ選擧ノ當時株式會社菊北銀行ノ役員タリシコト竝ニ同銀行ヵ明治三十六年四月ヨリ同三十九年三月ニ至ルマテ契約ニ基ツキ報酬ヲ得テ同郡ノ金庫事務ヲ取扱ヒ又其以後モ同四十一年二月ニ至ルマテ引續キ同事務ヲ取扱ヒ且ツ同四十年四月十一日ニ於テ同三十九年四月ヨリ四十年三月ニ至ルマテノ同一割合ノ報酬ヲ受取リタルコトハ當事者間爭ナキ所ノ事實ナリ

原告主張ノ要旨ハ(一)本件ノ如キ銀行ヵ其常業タル營業ノ傍其性質相似タル金庫事務即チ保管事務ヲ引受クルモ別ニ非常ノ手數ト煩勞トヲ要スルニ非サルカ爲メ其筋ノ命令ノ儘公益ノ爲メ犧牲的ニ之ヲ引受ケタルモノニ過キスシテ敢テ報酬ヲ目的トシタルモノニ非サルコトハ其額ノ僅少ナルト又其期間滿了後郡ノ提供ヲ受クルモ尚且之ヲ受クルコトヲ拒ミシニ徵スルモ明ナレハ郡制第六條第九項ヲ適用スヘキ場合ニ非ス(二)本件契約ノ如キハ所謂行政命令權ノ作用ニ基ツク公法上ノ契約ナルヲ以テ其效力ノ發生消滅等ハ最モ嚴正ニ之ヲ解釋セサルヘカラス而シテ其契約期間ハ明治三十六年四月ヨリ同三十九年三月マテナルコトハ被告モ認ムル所ナレハ假令其後ニ於テ金庫事務ノ取扱ヲ繼續シ又其一部ニ對スル報酬ヲ受取リタレハトテ畢竟契約期間内ト誤信シタル結果ニ外ナラサレハ其行爲タル契約ニ基ツク請負ニ非ス要之原告等ハ本件選擧ノ當時郡ノ請負ヲ爲ス法人ノ役員タリシ者ニ非サルカ故ニ其當選ハ有效ニ從テ被告ノ裁決ハ不法ナリ依リテ之カ取消ヲ求ムト云フニ在リ

郡ノ爲メニスル請負契約○郡金庫事務ノ取扱

被告答辯ノ要旨ハ(一)葦北銀行カ郡金庫事務ヲ取扱フハ原告ノ云フカ如ク行政命令權ノ作用ニ基ツク公法的關係ニ非スシテ郡ノ爲メニ現金ノ保管及ヒ出納ヲ爲スニ於テハ之ニ對シテ一定ノ報酬ヲ與フヘシトノ郡長ノ申込ニ對シテ同銀行カ承諾ヲ爲シタル私法的契約ニ基ツクモノナリ假ニ郡長ノ意思表示カ命令ノ形式ニ出テタリトスルモ其合意ノ內容ニ於テ何等公法的義務ヲ包含セサルニ於テハ是亦一種ノ私法的契約ニ外ナラス況ヤ郡長ト銀行トノ間ニ交換セラレタル文書ニハ明ニ葦北郡金庫契約書トアルノミナラス其內容ニ照スモ亦郡長カ命令ヲ發シタルモノト解スヘカラサルニ於テオヤ郡金庫契約ニシテ既ニ一種ノ私法的契約ナル以上ハ郡制第六條第九項ニ所謂請負ノ中ニ包含セラルルコト毫モ疑ヲ容レス原告ハ葦北銀行カ郡金庫事務ヲ取扱ヒタルハ單ニ公益ノ爲メ犧牲的ニ其筋ノ命令ニ服シタルニ過キスト云フモ銀行カ金庫事務ヲ引受クルハ一般世人ノ信用ヲ博スル一方便ニシテ報酬ノ多寡手數ノ煩勞ハ敢テ問ハス銀行間ニ於テハ爭フテ之カ契約ヲ爲サントスル實狀ニシテ葦北銀行ノ如キ亦純乎タル營利的觀念ヨリ之カ引受ヲ爲シタルモノナリ(二)本件契約カ果シテ行政命令權ノ作用ニ基ツク公法上ノ契約ナルカ將タ純然タル私法上ノ契約ナルカハ既ニ之ヲ述ヘタリ然ルニ其契約期間ハ單ニ書面上ニ顯レタル明治三十六年四月ヨリ同三十九年三月マテニシテ同月限リ消滅シタルモノトスレハ原告主張ノ如キ結果ヲ生スヘキモ契約滿期後明治四十一年二月マテ間斷ナク郡金庫事務ヲ取扱ヒ契約滿了前ト何等異ナリタル所ナキ事實ニ徵スレハ當事者間ニ於テ暗ニ契約ヲ繼續スルノ意思表示アリタルモノト推定シ得ヘシ萬一契約繼續ノ意思ナキニ於テハ原告ハ何カ故ニ明治三十九年四月ヨリ同四十年三月ニ至ルマテノ報酬ヲ受領

シタルモノナルカ凡ソ法律行爲ナルモノハ意思ノ表示ニ依リ其效力ヲ生スヘキモノニシテ書面ノ交換ヲ竢テ初メテ成立スヘキモノニ非サルナリ然ルヲ明治三十九年四月以後ハ契約ニ基ツク請負ニ非スト云フニ至リテハ曲解モ亦甚シト謂ハサルヘカラス要スルニ被告ノ裁決ハ相當ナルヲ以テ原告ノ請求ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

理由

本件ノ爭點ハ(一)本件金庫事務取扱契約ハ郡制第六條第九項ニ所謂請負ナリヤ否(二)該契約ハ本件選擧ノ當時ニ於テ尙存續シタルヤ否ノ二點ニ在リ依リテ左ニ之ヲ說明スヘシ

(一)乙第一號證契約證書ニ依レハ本件郡金庫事務取扱契約ノ趣旨タル株式會社葦北銀行ハ葦北郡金庫ノ名ヲ以テ同郡ノ歲入、歲出及ヒ郡有財產ニ屬スル現金ノ出納、保管ヲ取扱ヒ之ニ對シ送金爲替料ニ付キ實費辨償ヲ受クル外別ニ報酬トシテ年年一定ノ金額ヲ受クルニ在ルコト明ナレハ該契約ハ郡制第六條第九項ニ所謂請負ニ該當スルコト勿論ナリ原告ハ該契約タル公益ノ爲メ犧牲的ニ之ヲ締結シタルモノニシテ報酬ノ如キハ敢テ目的トシタルモノニ非スト辯解スルモ前示ノ如ク契約ニ於テ之ヲ明定シ且ツ現ニ之ヲ受領シ來リタル事實アル以上其辯解ハ採用スルヲ得ス尙原告ハ電燈會社ニ關スル當裁判所ノ判例及ヒ改正衆議院議員選擧法第十三條第二項ヲ援用シテ辯論スル所アルモ前者ハ本件トハ其事實ヲ異ニシ後者ハ郡制第六條第九項トハ其法文ヲ異ニスルカ故ニ何レモ本件ヲ律スルノ資料ト爲スニ足ラス

(二)原告ハ本件金庫事務取扱契約ハ行政命令權ノ作用ニ基ツク公法上ノ契約ナリト云フモ郡金庫

事務ヲ取扱ハシムルコトハ命令權ノ作用ニ非サルハ勿論乙第一號證契約ノ內容ハ前說明ノ如クニシテ何等公法的關係ヲ規定シタルモノナケレハ私法的契約ナリトスル外ナシ而シテ同證ノ契約カ明治三十九年三月ヲ以テ期限トセルコトハ事實ナルモ原告ノ自認スルカ如ク其以後同四十一年二月ニ至ルマテ引續キ郡金庫事務ヲ取扱ヒ來リタルノミナラス同四十年四月ニ於テ同三十九年四月ヨリ四十年三月ニ至ル一箇年間ニ對スル前同一割合ノ報酬ヲ受領セル事實アルニ徵スレハ假令契約書ノ作成ナキモ當事者雙方ノ暗默ノ意思表示ニ依リ前契約ヲ更新シタルモノト推定スルヲ相當トス原告ハ是レ當事者カ前契約ノ期間內ト誤信シタル結果ニ外ナラスト辯解スレトモ何等ノ擧證ヲ爲ササルニ依リ其ノ辯解ハ採用シ難シ原告ハ又民法第六百十九條ノ規定ヲ援用シテ論辯スル所アルモ同條ノ規定ハ同條以外ノ場合ニ於ケル暗默ノ契約ノ成立ヲ否定シタルモノニ非サルコト勿論ナレハ原告ノ論旨ハ理由ナシ要スルニ本件選擧ノ當時ニ在リテモ尙乙第一號證ノ契約ト同一ノ契約存在シタルモノト認ムルヲ相當トス

以上說明ノ如クナルニ因リ原告等ハ本件選擧ノ當時葦北郡ノ爲メ請負ヲ爲ス株式會社葦北銀行ノ役員タリシモノト認ムヘク從テ郡制第六條第九項ニ依リ被選擧權ヲ有セサルモノナンハ被告カ其當選ヲ無效ト裁決シタルハ相當ニシテ原告等ノ本訴請求ハ理由ナシ依リテ主文ノ如ク判決ス

◉上地山林下戻請求ノ訴

明治三十七年第千九號
明治四十一年十二月二十二日第三部宣告（請求不立）

判決要旨

一、土地臺帳若クハ不動產登記ニ關スル制度ノ設ケナキ昔時ニ在テハ事實上ニ於ケル土地ノ占有及ヒ支配ハ所有權ノ實質ヲ形成シタルモノトス

一、係爭地ニシテ起訴者ニ屬スル以上ハ自己ノ收入ヲ以テ之ニ植栽シタル立木モ亦其所有ト認ムルヲ相當トス

原告　滋賀縣滋賀郡坂本村　嘉道
同寺住職　延曆寺

右代表者　農商務大臣男爵　山岡觀澄
訴訟代理人　太田資時
大西孝次郎

被告　大浦兼武
訴訟代理人　鈴木充美

右當事者間ノ明治三十七年第千九號上地山林下戻請求訴訟審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告ハ滋賀縣近江國滋賀郡坂本村大字坂本比叡山官林九百九十四町一反八畝十五歩同上牛尾山官

林十三町五反二十五歩同上上早尾山官林一町六反八畝八歩京都府山城國愛宕郡修學院村大字一乘寺比叡山ノ內官林三十一町二反五畝歩同上大字高野比叡山尸羅ヶ谷官林二十五町七反四畝二十三歩同上八瀨村比叡山八町官林六十町五反五畝十七歩同上比叡山大黑谷官林十一町一反八畝十五歩ヲ立木共（但シ上地處分後政府ノ植栽ニ係ル立木即被告提出見取圖中黑屋官行造林ヲ除ク）原告ニ下戻スヘシ

其餘ノ原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ之ヲ十分シ其九分ヲ被告ニ於テ其一分ヲ原告ニ於テ負擔スヘシ

事實

原告事實上供述ノ要領ハ本訴係爭地ハ古來原告寺ノ境內ニシテ原告寺ノ自由進退ニ屬シ其地上立木ハ原告寺ノ風致ヲ維持シ兼テ其所屬ノ堂塔伽藍修繕ノ用ニ供スル爲メ寺費ヲ以テ植栽シタルモノナリ而シテ其所有ノ原因ハ延曆年間原告寺創立ノ際志麻田辰張ナル者ヨリ大部分ノ寄附ヲ受ケ又其幾部ハ千野村苗鹿村外數村ヨリ寄附ヲ受ケタルモノニシテ曾テ織田信長ノ爲ニ堂塔伽藍ハ悉皆燒拂ハレタルモ係爭地ハ沒收セラルルコトナク自由ニ進退シ來リタリ尙原告寺ハ全然無比ノ名刹ナル爲メ豐臣、德川兩家ヨリ合五千石ノ寄附ヲ受ケタレトモ是全ク係爭地ニ關係ナキ寺領ナリ然ルニ明治ノ初年共ニ上地處分ヲ受ケタルニ付爰ニ本訴ヲ提起シタル次第ナリ依テ被告ハ滋賀縣近江國滋賀郡坂本村大字坂本比叡山官林一千百二町九反六畝歩同上牛尾山官林十三町五反二十五歩同上早尾山官林一町六反八畝八歩京都府山城國愛宕郡修學院村大字一乘寺比叡山ノ內官林二十

一町二反五畝歩同字高野比叡山尸羅ヶ谷官林二十五町七反四畝二十三歩同上八瀨村比叡山ノ內八町官林六十町五反五畝十七歩同上比叡山大黑谷官林十一町一反八畝十五歩ヲ立木共（但シ上地處分後政府ノ植栽ニ係ル立木ヲ除ク）原告ニ下戻スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トスト云フニ在リテ立證トシテ甲第一號乃至二十五號證ヲ提出シ實地檢證ヲ申請セリ

被告事實上供述ノ要領ハ原告寺カ係爭地ノ大部分ヲ比叡山一圓ニシテ寄附ヲ受ケタリト主張スル志麻田辰張ハ實在人タリシトノ立證ナケレハ之ヲ宗教上ノ異人ト認ムルノ外ナク又其他ノ部分ハ千野、苗鹿其他ノ部落ヨリ寄附セラレタルコトヲ證スル法燈及續法燈ハ原告自家作成ニ係リ所謂緣起ニ齊シキモノナレハ信用スルニ足ラス要スルニ係爭地ハ五千石ノ朱印地ト同シク原告寺ノ寺領ニ過キス決シテ原告寺ノ私有地ニアラサルナリ而シテ係爭ノ立木ハ原告寺ノ植栽セルモノナルヿハ之ヲ爭ハサルモ其費用ノ大部分ハ五千石及係爭寺領地ノ收入即公費ヲ以テ植栽シタルモノニシテ其少部分ニ原告寺私費植栽ノモノアリトスルモ其區別明瞭ナラサレハ是亦原告ノ主張ヲ是認スルヿ能ハス依テ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リテ

甲第一號乃至十一號證ノ二乃至四、甲第十二號證ノ一乃至二十三、甲第十三號證十四號證ノ二三、甲第十五號證乃至二十五號證ノ成立ヲ認メ甲第十一號證ノ一、甲第十二號證ノ二十四乃至三十六甲第十四號證ノ一ヲ否認セリ

理由

按スルニ成立ニ爭ナキ甲第一號證ノ二ニ原告寺ノ境內ハ山端、一乘寺、修學院、八瀨、高野、山

土地臺帳及ヒ登記制度ナキ時代ニ於ケル所有權ノ保存

中、穴太、上坂本、下坂本、乳野、苗鹿、仰木ノ諸部落及志麻田辰張ヨリ寄附シタル土地ナルノ記載及甲第二十一號證志麻田辰張ノ日枝岳一圓寄進牒寫ニヨリ係爭地ハ前示諸部落及志麻田辰張ノ寄附ニ成ル原告寺ノ所有地ナリト認定ス然ルニ被告ハ志麻田辰張ナル者カ實在セリトノ立證ナケレハ宗教的異人ト見ルノ外ナシト主張スレトモ前示甲第二十一號證ノ寄進牒寫及甲第二十號證ノ志麻田辰張ノ後裔ナリト稱スル田村清十郎信尚カ元祿五年中ニ刀一振ヲ苗鹿下之明神社ヘ寄附シタリトノ記載ニ徵シ志麻田辰張ハ宗教的異人ニ非スシテ實在人ナルヿヲ認ムルニ足ル被告ハ假ニ實在人ナリトスルモ辰張カ日枝ケ岳一圓ヲ寄附スル權利ヲ有シタリヤ否ヤ明確ナラスト主張セリ然レトモ當時土地臺帳若クハ不動產登記ニ關スル制度ナキヲ以テ事實上土地ノ占有及支配ハ所有權ノ實質ヲ形成スルコト毫モ疑ヲ存セス依テ反證ナキ限ハ志麻田辰張ハ寄附シ得ル權利アリシモノト認ムルヲ相當トス況ンヤ原告寺ハ寄附ヲ受ケタル後現實ニ之ヲ占有シ爾來數十ノ堂塔伽藍ヲ建設シ植栽ヲ爲シ又其一部ハ甲第二十五號證ノ如ク大永年間賣買ヲ爲シ明治維新ノ初年上地處分ヲ受クル迄千有餘年ノ久シキ間斷ナク自由進退ヲ爲シ來リタル所ヨリ之ヲ觀レハ志麻田辰張ノ寄附ニ由リ所有權ヲ取得シタルモノト認ムルニ充分ナルニ於テヲヤ被告ハ又法燈若クハ續法燈ハ原告寺ノ作成ニ係リ緣起ニ齊シキカ故ニ信用スルニ足ラスト主張スレトモ其記事ニシテ根據アリ信用シ得ヘキモノハ採テ以テ事實證明ノ具トナシ難キモノニアラサレハ全然之ヲ信用スルヲ得スト」被告主張ハ採用スルヲ得ス次ニ係爭立木ハ原告寺ニ於テ植栽シタルコトハ被告ノ爭ハサル所ナレトモ其大部分ハ公費植栽ニシテ其一部ハ公費私費混同ノ植栽ナレハ原告寺ニ下戻スヘキモノニ非スト被告ハ主張スレトモ甲第二十四號證ニ依レハ原告寺ハ年年五千石ノ寺領悉皆ヲ其所屬ノ各院各坊其他ニ分配シ盡ス慣例ナルコトヲ認メ得ヘキカ故ニ原告寺カ此五千石ノ寺領ヲ以テ係爭立木ノ大部分ヲ植栽シタリト認ムル能ハス又前說明ノ如ク既ニ係爭地ヲ原告寺ノ所有ト認定スル以上ハ其收入ヲ以テスル樹木ハ私費植栽トスヘキハ論ヲ待タサレハ係爭立木ハ原告寺ノ所有ト認ムヘキモノトス然レトモ原告作成ノ續法燈（本件ニ牽聯セル明治三十七年第千七號事件ノ甲第一二號證）ノ記事ニ依レハ境內山林ノ一部ヲ裂キ大字比叡山ノ中「南限飯室谷川、北限深谷川、西限峯二尾ハ乳野村、苗鹿村ニ與ヘ東限大師道、西限者卒谷、南限背尾道、北限飯室谷川ハ苗鹿村ニ與フ」トアリ而シテ其區域ハ實地檢證調書附屬第一見取圖中靑屋ノ部即小字野田ケ原、柏ノ木、戒心、華林、大久保合反別百八町七反八畝十步ニ該當シ今日尙原告寺ノ所有ト認メ難キニヨリ此部分ニ對スル原告ノ請求ハ排斥スヘキモノトス

以上ノ理由ニ依リ主文ノ如ク判決ス

◉所得金額決定處分取消請求ノ訴（明治四十一年第四十三號 明治四十一年十二月十五日判決（請求相立））

判決要旨

一、政府ニ於テ一旦所得金額ヲ決定シタルトキハ所得稅法施行規則第三十二條所定ノ三ケノ場合ニアラサレハ之レカ變更

ヲ許サス

一、一旦決定セラレタル所得金額ニ對シ稅務監督局長カ何等法條ノ據ルヘキナク之レニ對シ漫然誤謬訂正ヲ爲シタル違法タルヲ免レス

原告　東京市麴町區八重洲町一丁目一番地　東京海上保險株式會社
同會社取締役　法定代理人　末延道成　訴訟代理人　岡村輝彦　鈴木八郎
被告　東京稅務監督局長　菅野盛次郎　訴訟代理人　岩田周作

右當事者間ノ所得金額決定處分取消請求ノ訴ニ付審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告カ明治四十年十二月十九日附原告ノ明治三十八年一月ヨリ同十二月ニ至ル一事業年度所得金額ヲ金八万八千八百二十三圓二錢ト爲シタル決定ハ之ヲ取消ス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實

原告ハ海上保險業ヲ營ム法人ニシテ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル迄ヲ一事業年度ト定メ明治三十八年一月ヨリ同年十二月ニ至ル一事業年度ノ所得金額ハ明治三十九年六月六日附ヲ以テ其決定ノ通知ヲ受ケ之ニ對スル所得金額ノ納付ヲ了リタリ然ルニ四谷稅務署長ハ明治四十年十月十四日附ヲ以テ右事業年度ノ決定所得金額中使用人養老積立金ヲ算入セサリシトノ理由ヲ以テ更ニ之ヲ加算シタル金額ヲ以テ所得金額トシ右事業年度ノ所得金額ノ訂正通知ヲナシ且之ニ相應スル所得金千五百九十五圓八十七錢ヲ追徵シ原告ハ四十年十一月之ヲ納付シタリ原告會社ハ右使用人養老積立金ハ明カニ損益計算書ニ掲示シテ屆出テ四谷稅務署長ハ之ヲ調査シ一旦所得金額ヲ決定シナカラ之ヲ算入セサリシ決定ハ誤謬ナリトシテ訂正決定ヲ爲シタルハ不法ナルニ付所得稅法第三十六條ニ依リ被告東京稅務監督局長ニ申出テ審査ヲ求メタル處被告ハ明治四十年十二月十九日附ヲ以テ四谷稅務署長ノ訂正決定ト同一ナル決定ヲ爲シタリ依テ被告カ明治四十年十二月十九日附原告會社ノ自明治三十八年一月至同三十八年十二月一事業年度所得金額ヲ金八万八千八百廿三圓二錢ト爲シタル決定ハ之ヲ取消ストノ判決ヲ求ムト陳述シ甲第一號甲第二號證ヲ提出セリ

被告ハ原告會社ノ明治三十八年一事業年度ノ所得金額ノ決定ヲ爲スニ當リ使用人養老積立金ヲ算入スヘキ筈ナルニ之ヲ算入セス決定シタル誤謬ヲ發見シタルニ付更ニ之ヲ算入シタル追加訂正決定ヲ爲シ其訂正決定金額ハ原告陳述ノ如シ但原告會社損益計算書ニ養老積立金ノ明示アルモ原告會社ノ所得トシテ屆出テタルニアラス被告ノ處分ハ所謂誤謬ヲ訂正シタルモノナレハ法律上正當ニシテ又毫モ原告ノ權利ヲ害シタルモノニアラス依テ原告ノ請求相立タストノ判決ヲ求ムト答辯セリ

理由

按スルニ明治三十二年勅令第七十八號所得稅法施行規則第三十二條第二項ニ「前項決定金額ハ所得稅法第三十七條第三十九條第四十一條ノ結果ニ依ルノ外之ヲ變更セス」トアルニ由テ之ヲ觀レハ一旦決定シタル所得金額ハ濫リニ之ヲ變更シ永ク不確定ノ狀態ニ置クヲ許ササルヲ原則トシ唯例外トシテ前示三箇ノ場合ニ限リ之カ變更ヲ許ス精神ナルコトヲ知ルニ足ル而シテ本件ノ場合ハ前示所得稅法第三十九條第四十一條ノ場合ニ該當セサルコトハ辯ヲ俟タルノミナラス一旦政府カ原告會社ノ所得額ヲ決定シ之ニ基キ所得稅ヲ徵收シ了リタル本件ノ場合ハ第三十七條ノ場合ニモ該當セルヲ以テ被告カ何等法條ノ據ルヘキモノナキニ拘ラス漫然語謬訂正ハ行政上當然爲シ得ヘキ事ナリトシ本件訂正決定ヲ爲シタルハ其當ヲ得タルモノニアラス

右ノ理由ニ依リ主文ノ如ク判決ス

◉石炭鑛試掘願不許可處分取消請求ノ訴（明治四十一年第百三號 明治四十一年十二月十五日第三部宣告（請求不立））

判決要旨

一、試掘權ノ存續期間ハ鑛業法第十五條ニ依リ民法ノ期間ニ關スル總則ニ從ヒテ登錄ノ翌日ヨリ之ヲ起算スヘキモノトス

原告　長崎縣北松浦郡調川村　眞木龜四郎

訴訟代理人　牧野充安

被告　福岡鑛山監督署長　川崎才四郎

訴訟代理人　太田貫時

右當事者間ノ明治四十一年第百三號石炭鑛試掘權存續期間ハ明治四十一年四月十五日ヲ如シ

主文

原告ノ請求相立タス　訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實及理由

原告請求ノ要旨ハ原告カ先代ヨリ相續シタル石炭鑛試掘權存續期間ハ明治四十一年四月十五日ヲ以テ滿了スルニ付翌日更ニ同所ノ試掘願ヲ被告署長ニ提出シタリ然ルニ被告署長カ該出願ハ原告所屬ノ試掘權ト全部重複ストノ理由ヲ以テ不許可ノ處分ヲ爲シタルハ不當ナルニヨリ其處分ノ取消ヲ求ムト云フニ在リ之ニ對スル被告答辯ノ要旨ハ原告所屬ノ試掘權存續期間ハ其登錄ノ翌日即明治三十九年四月十七日ヨリ起算シ同四十一年四月十六日ヲ以テ滿了スヘキモノナレハ同年四月十六日ノ出願ニ係ル原告ノ試掘願ハ之ト重複スルモノトス故ニ該出願ニ對シ鑛業法第二十八條ヲ適用シ不許可ノ處分ヲ爲シタルハ相當ナルニ依リ原告ノ請求ハ棄却セラレタシト答辯セリ

本件ノ爭點ハ試掘權ノ存續期間二个年ハ登錄ノ日ヨリ起算スヘキヤ將タ其翌日ヨリ起算スヘキヤニ在リ依テ按スルニ鑛業法第九十三條ニ「公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス」第百十二條ニ「一个年ノ期間ハ其消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス」ト規定シアルヲ以テ之ヲ觀レハ其起算點ニ付規定ナキ本件ノ場

合ニ於テハ鑛業法第十五條ニ依リ民法ノ期間ニ關スル總則ニ從ヒ登錄ノ翌日ヨリ起算スルヲ相當トス

依テ主文ノ如ク判決ス

◉第一種所得決定額更訂處分取消請求ノ訴 明治四十一年第九十五號 明治四十一年十一月廿八日判決（棄却）

判決要旨

一、第一種所得金額ノ更訂ニ不服アルトキハ先ツ審査決定ノ請求ヲ爲シ尚ヲ其ノ決定ニ不服アルトキ始メテ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

原告　青森縣弘前市大字元幸町　株式會社津輕銀行　同會社取締役　右代表者　田澤柏三郎　訴訟代理人　小野恒三郎

被告　秋田稅務監督局長　岡村正市

右當事者間ノ第一種所得決定額更訂處分取消請求ノ訴書面ニ就キ審理判決スルコト左ノ如シ

主文

本訴ハ之ヲ棄却ス　訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告訴求ノ要旨ハ弘前稅務署ハ明治四十年一月ヨリ六月ニ至ル原告ノ第一種所得金額ヲ九千二百七圓六十二錢ト認定シ之ニ對スル稅額金五百七十五圓四十七錢ヲ明治四十年八月三十一日賦課徵收シタリ然ルニ弘前稅務署ハ同年十一月五日ニ至リ原告ノ所得金額ニ誤謬アルヿヲ發見シタリト稱シ更ニ所得金額ヲ金二万六百四十八圓九十六錢ニ更訂ストノ通知書ヲ發シ前決定額ト更訂額トノ差額ニ相當スル稅額七百十五圓八錢ノ納稅告知書ヲ交付セラレタルモ原告ハ之ヲ違法ナリトシ同年十一月八日被告ニ訴願シタルニ被告ハ理由ナシトシ之ヲ却下シタリ依テ本訴ニ及ヒタリト主張シ甲第一號證乃至甲第四號證ヲ提出シ且書面審理ノ申立ヲ爲シタリ被告ハ原告ノ事實上ノ供述ヲ認メ而シテ書面審理ノ申立ヲ爲シタリ

理由

按スルニ第一種所得金額決定通知ニ對シ不服アルモノハ先ツ審査決定ノ請求ヲ爲シ尚其審査決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキモノナルコトハ所得稅法第三十六條及第三十九條ノ規定ニ依リ明カナリ然ルニ本訴ハ右手續ニ由ラス直ニ原告ヨリ被告ニ訴願シ其裁決及第一種所得金額更訂處分ノ取消ヲ求ムルモノナレハ行政裁判法第二十七條ニ所謂適法ノ手續ニ違背スルモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

◉國有土地下戻不當處分取消ノ訴 明治三十七年第九百十三號 明治四十一年十二月十五日判決（棄却）

所得金額ノ更訂國有土地下戻ノ請求ヲ許スヘキ場合○藉臣ニ對スル宣沒處分

判決要旨

一、國有土地森林原野下戻法ハ地租改正處分若クハ上地所分ニ依リ官有地ニ編入セラレタルモノニ限リ之ヲ適用スルコトヲ得

一、明治元年八月布告第六百四十六號及ヒ同年九月布告第七百八十四號ニ依リ特ニ幕臣ニ對シ官没シタル土地ニ對シテハ右下戻法ヲ適用スルコトヲ得ス

原告　蜷川新　東京市小石川區原町十二番地　訴訟代理人　伊藤和三郎　岡崎正也　高木益太郎

被告　内務大臣男爵　平田東助　訴訟代理人　原嘉道

右當事者間ノ明治三十七年第九百十三號國有土地下戻不當處分取消ノ訴ニ付審理判決スルコト左ノ如シ

主文

本訴ハ之ヲ棄却ス　訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實及理由

原告請求ノ要旨ハ本件係爭地ハ原告祖先カ德川幕府ヨリ拜領シタル下屋敷地ニシテ原告家カ明治元年迄所有シ來リタルモノナリ然ルニ同年十月上地ヲ命セラレタルモノナルニヨリ國有土地森林原野下戻法第一條第三項ニ依リ下戻サルヘキモノナリト云フニ在リ之ニ對スル被告答辯ノ要旨ハ原告祖先カ舊幕府ノ旗下タル資格ニ於テ本件係爭地ヲ占有使用スルノ權利ヲ與ヘラレタルコトヲ認メ得ルモ原告家カ之ヲ私有シタルノ事實ハ認メ得ラレサルノミナラス舊幕臣下ノ拜領屋敷ハ明治元年八月第六百四十六號布告及同年九月第七百八十四號布告ナル特別法令ニヨリ上地セシメラレタルモノニテ何等錯誤ノ處分ニ依リタルモノニ非サレハ本件ハ國有土地森林原野下戻法第一條第三項ノ適用ヲ受ク可キモノニ非スト云フニ在リ

按スルニ國有土地森林原野下戻法ハ地租改正處分若クハ上地處分ニ依リ官有地ニ編入セラレタルモノニ對シ出訴ヲ許シタルモノナリ然ルニ本件係爭地ヲ官有ト爲シタルハ明治元年八月第六百四十六號布告及同年九月第七百八十四號布告「郭中屋敷ハ家作共被召上候事郭外屋敷地ハ被召上家作ノ儀ハ云云」ニ依リ特ニ幕臣ニ對シ爲シタル官没處分ナレハ國有土地森林原野下戻法ノ所謂上地處分トシテ見ル可キモノニ非ス從テ原告ハ之ニ依リ救濟ヲ求ムルヲ得サルモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

◉國有林立木下戻不當處分取消請求ノ訴

明治三十七年第九百四十五號　明治四十一年十二月十九日第三部宣告（請求相立）

國有土地下戻ノ請求ヲ許スヘキ場合○幕臣ニ對スル官没處分

判決要旨

一、寺院カ開帳料、燈明料及ヒ初穂料等ヲ以テ植附ケタル立木ハ私費植栽ニ係ルモノナレハ之ヲ下戻スヘキモノトス

奈良縣磯城郡初瀬町
原告長谷寺
同寺住職
右代表者 權田雷斧外三名
訴訟代理人 岡崎正也

農商務大臣男爵
被告大浦兼武
訴訟代理人 濱地八郎

右當事者間ノ國有材立木下戻不當處分取消請求ノ訴ニ付審理判決スルコト左ノ如シ

主文

明治三十七年六月十日附林第九二五六號指令ハ之ヲ取消ス。被告ハ左記ノ立木ヲ原告ニ下戻スヘシ奈良縣磯城郡初瀬町大字初瀬字天神山。一國有林反別四十八町四反三歩所在杉檜ノ立木。同縣同郡同町同大字兩部山。一國有林所在椚ノ立木。原告ノ此他ノ請求相立タス。訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實及理由

原告ハ請求立木ハ私費植付ニ係ルモノナルニヨリ下戻セラレタシト陳述シ」被告ハ之ニ對シ請求立木ノ植栽費ハ公私混淆ニシテ私費植栽ノ事實ヲ認ルムヲ得サルニヨリ原告請求ハ棄却セラレタシト答辯セリ

甲第三號證及第四證ニ依レハ本件係爭立木ハ主トシテ原告寺ノ私費ト認ムベキ開帳料、燈明料、諸堂散物、初穂料、祈禱料、配膳料、供料、過去帳料、臨時普請料等ヲ以テ植付ケタルモノナルコト明カナリ故ニ該立木ハ私費植栽ノモノト爲ササルヲ得ス

被告ハ同證植栽費中ニ御祈禱米賣拂代金、與木山拾木過料、天神山枯松樫惡木賣拂代、西部山年貢等ノ公費ヲ包含スルヲ以テ係爭立木ハ純然タル私費植栽ノモノニアラスト云フモ右御祈禱米ハ原告寺領五百石ヨリ出テタルモノナレトモ既ニ祈禱米ナル以上ハ一私人ノ寄附スル祈禱米ト同一ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ其賣拂代金ハ私費ナリト云ハサルヲ得ス又被告ハ與木山拾木過料及天神山枯松樫惡木賣拂代及兩部山年貢ヲ以テ所領ノ收入ナリト主張スルモ右過料及賣拂代ハ原告ノ私植林ヨリ生スル收入ト認ムヘキヲ以テ公費ト爲シ難ク又右年貢ハ甲第九號證ニ依レハ原告寺私有地小作米ナルコト明カナルヲ以テ是亦公費ト爲スヲ得ス

又原告ハ椚ト楢トハ同科同種ノモノナルニヨリ椚苗及楢苗ヲ總テ椚ト記載シタルモノナルヘシト云フモ其主張ハ原告ノ想像ニ過キスシテ甲第四號證ニハ單ニ椚ト記シアルニ依リ楢ニ對スル原告ノ請求ハ理由ナキモノトス依テ主文ノ如ク判決ス

●安宅林無地濱國有林地下戻請求ノ訴

明治三十七年第九百二十七號
明治四十一年十二月十五日判決（棄却）

證縣前ニ於ケル山林引上處分

判決要旨

一、置縣前ニ於テ山林引上處分ニ依リ官地ニ編入セラレタル山林ニ對シテハ明治三十二年法律第九十九號第一條ノ適用ニ依リ之レカ下戻ヲ請求スルコトヲ許サス

石川縣金澤市彦三七番町
原告　宮田吉次外一名　訴訟代理人　（相川久太郎　大田資時）
農商務大臣男爵
被告　大浦兼武　訴訟代理人　岸清一

右當事者間ノ安宅林無地濱國有林地下戻請求ノ訴ニ付審理判決スルコト左ノ如シ

主文

本訴ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告ハ本件請求山林ハ明治三年三月十二日立木ハ同年七月八日金澤藩廳ヨリ下付ヲ受ケ開拓ニ從事セシニ明治五年二月中本吉縣ヨリ故ナク取上ノ命ヲ受ケ其後國有林ニ編入セラレタルモノナルヲ以テ下戻ヲ請フト陳述シ」被告ハ本件山林開拓ノ命令ハ明治三年十二月之ヲ廢止シ其際直チニ該地所及立木ヲ取上ケタルモノニシテ府縣設置前ノ處分ナレハ明治三十二年法律第九十九號ニ依リ下戻ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノニ非サルヲ以テ本訴ヲ棄却サレタシト答辯セリ

理由

乙第三號證ニ吉平ニ當夏相渡候安宅新濱林地松木共今般詮義ノ趣有之松木代一万千百貫文相渡地面松木共引揚ケ(中略)此段可申渡者也庚午十二月トアルヲ以テ見レハ本件山林引上處分ハ明治三年即置縣ノ處分ナルヲ以テ原告ハ明治三十二年法律第九十九號第一條第三項ニ依リ下戻ヲ請求スルヲ得サルモノトス而シテ原告ハ甲第八號證未十二月五日附能美郡安宅村御林松木調理書ヲ提出シ明治四年中開拓事業ヲ繼續シ居リシコトヲ主張スレトモ本證ハ訴外人ナル腰田久太郎外一名ノ上申書ニシテ原告ニ關係ナキモノナレハ之ニ依リ其主張ヲ認ムルヲ得ス依テ主文ノ如ク判決ス

●不當處分取消國有林野下戻請求ノ訴（明治三十七年第五百七十四號　明治四十一年十二月二十二日第三部宣告）（請求不立）

判決要旨

一、立木ヲ賣渡シ其代金ヲ分配スルカ如キハ土地ノ管理者ト雖モ爲シ得ヘキ行爲ナレハ之ヲ以テ直ニ土地所有ノ證據ト爲スヲ得ス

一、村持山ナル記載ハ時ニ地元ヲ指稱スルコトアルヲ以テ土地

立木ノ賣渡並代金ノ分配○村持ノ意義

所有ノ證據ト爲スニ足ラス

原告　栃木縣河内郡大澤村　大字猪倉　同村村長　右代表者　齊藤清三郎　外原告一名　訴訟代理人　森龍太　平松市藏

被告　農商務大臣男爵　大浦兼武　訴訟代理人　岸清一

右當事者間ノ不當處分取消國有林野下戻請求ノ訴ニ付審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實及理由

係爭地ハ古來黑野入ト唱ヘ原告村民ニ於テ生草樹木等ヲ採取シ自由進退シタル土地ニシテ天明年間隣村手岡村トノ間ニ該地所ニ對シ訴訟起リ其結果該地ノ地元ヲ原告村トシ手岡村ト共同入會地タルヘキ旨裁許アリタリ原告ハ係爭地ニ對シ此ノ如ク私有ノ事實アルヲ以テ之レカ下戻ヲ求ムト陳述シ甲第一號證乃至甲第五號證ヲ提出セリ

被告ハ甲號各證ハ何レモ係爭地所有ノ事實ヲ證スルニ足ラサルヲ以テ原告請求ハ排斥セラレタシト答辯セリ

按スルニ甲第一號證ハ「右山相手方二ケ村地元ニ極手岡村入會」トアリテ係爭地カ手岡村トノ共同入會地タルヘキコトノ裁許アリタルヲ示スニ過キス又甲第三號證ハ係爭地ノ共同入會ニ關スル手岡村ノ請書ニシテ何レモ係爭地所有ノ事實ヲ證スルニ足ラス

原告ハ甲第二號證係爭地立木ノ代金分配ノ事實甲第四號證及甲第五號證係爭地立木ノ賣渡ヲ以テ所有ノ事實ヲ證セントスルモ右ハ管理者トシテ爲シ得ヘキ行爲ナレハ直ニ之ヲ以テ所有ノ證ト爲シ難ク又タ原告ハ甲第一號證「村持山」ノ記載ヲ以テ所有山ナリト主張スルモ「村持山」ハ時時地元ヲ意味スルコトアルヲ以テ是レ又タ所有ノ證キナスニ足ラス依テ主文ノ如ク判決ス

◉國有林下戻請求ノ訴

明治三十七年第千二百七號　明治四十一年十二月三日判決　（請求不立）

判決要旨

一、自己ノ召仕ナシテ係爭地ヲ小作セシメタル事實アリトスルモ如斯行爲ハ管理者ト雖モ爲シ得ヘキモノナレハ之ヲ以テ土地所有ノ證トナスニ足ラス

群馬縣吾妻郡長野原町　原告　浦野安　訴訟代理人　太田資時

農商務大臣男爵　被告　大浦兼武　訴訟代理人　高木豐三

右當事者間ノ國有林下戻請求訴訟審理判決スルコト左ノ如シ

主文

土地所有權ノ證明

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告ハ本件係爭地ハ祖先傳來ノ所有地ナルニヨリ之カ下戻ヲ求ムト陳述シ甲第一號乃至十三號證ヲ提出シ

被告ハ係爭地ニ對シ原告祖先カ所有權ヲ有セシ事實及原告繼承ノ事實ヲ認ムヘキ證左ナキニ依リ請求ニ應シ難シト答辯セリ

理由

原告ハ甲第一號證吾妻郡林町御檢地水帳ノ二十五筆ノ荒地ハ原告祖先大乘院ノ名受地合六町七反五畝二十四歩ノ内ニシテ大乘院ノ肩書ニ諏訪宮社領別當トアルハ土地ノ支配管轄ト身分トヲ示シタルニ過キスト云モ同證ニ一、境内中略諏訪宮社領大乘院トアリ甲第四號證除地御改書上帳ニ境内竝ニ田畑合六町七反五畝廿四歩諏訪明神社領神主浦野庸トアリ甲第五號證諏訪大神免田畑持主小前帳ニ諏訪大神社領上地田畑合四町二反六畝十二歩内田畑合二町一反八畝二十歩浦野庸右荒地一町五反二歩同人此納永百八十七文五分右ハ當村諏訪大神免田畑持主小前取調候處書面之通相違無御座候トアリ甲第六號證大繩場御請書ニ諏訪大神除地上知一、反別五町九反六畝十四歩神職浦野庸トアリ甲第七號證諏訪大神社領上地改帳ニ一、荒地山林一町五反二歩浦野庸トアリ甲第八號證田畑米永取調書上帳ニ諏訪大神除地一、反別五町九反六畝十四歩諏訪大神除地トアルヲ以テ之ヲ見レハ右境内地ハ諏訪宮所領ニシテ別當大乘院ハ其管理者ナリト認メサルヲ得ス又原告ハ甲第二號證ヲ以テ係爭地ハ原告家ノ召仕タル家抱ニ小作セシメタル土地ナレハ原告家ノ所有ニ歸スヘキモノナリト主張スルモ此等ハ管理者ニ於テ爲シ得ヘキ行爲ナルヲ以テ所有ノ證ト爲スニ足ラス要スルニ原告ノ立證ハ係爭地ノ所有ヲ認メシムルニ足ラサルヲ以テ主文ノ如ク判決ス

◉郡會議員當選ノ訴

明治四十一年第百七號
明治四十一年十二月廿五日判決（請求不立）

判決要旨

一、商業ヲ營ミ且ツ之ニ對スル租稅ヲ負担スルカ如キハ一戸ヲ構ヘサル者ニ於テモ有リ得ル事實ナレハ之ヲ以テ直チニ一戸ヲ構ヘタル者ト斷定スルヲ得ス

一、寄留ノ屆出ヲナシテ縣稅ヲ負担シタル事實ハ一應一戸ヲ構ヘタルモノト推定シ得ラルヽモ唯一應ノ推定タルニ止マリ之ヲ以テ一戸ヲ構ヘタル要件ヲ具備シタルモノト云フヲ得ス

一、郡内ノ町村ニ於テ一戸ヲ構ヘタル者ハ郡會議員ノ被選擧權ヲ有セス

兵庫縣城崎郡日高村
原告　藤本俊郎　訴訟代理人　元田肇
兵庫縣參事會
兵庫縣知事

一戸ヲ構ヘタル者トハ如何○寄留屆ト一戸ヲ構ヘタル者トノ關係

被告　服部一三　訴訟代理人　長濃貞夫

右當事者間ニ於ケル郡會議員當選ノ訴審理判決スル左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告陳述ノ要旨ハ兵庫縣參事會カ原告ヲ以テ獨立シテ一戸ヲ構ヘサルモノナリトシ從テ郡會議員ノ被選擧權ナキモノナリト爲セルハ何等ノ根據無キモノニシテ原告ノ一戸ヲ構ヘ居ルコトハ其ノ商業ヲ營ミ且ツ縣稅戸數割及村稅戸別割其他諸稅ヲ負擔シ居ルニ依リテ明白ナリ依テ明治四十一年四月二十日兵庫縣參事會ノ原告ニ對スル裁決ヲ取消ストノ判決ヲ求ムト謂フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ日高村ノ內日置村九十四ノ一番地ニ寄留ノ屆出ヲ爲シ前二ケ年間ノ所得稅ノ申告ヲ怠リタリト自首シテ之ヲ納付シ又選擧ノ當日物品販賣營業鑑札ヲ受ケ尋テ營業及附加ノ縣稅村稅竝ニ戸數割戸別割等ヲ納メ以テ町村制第七條ノ要件ヲ充タセルモノト爲スモ寄留屆ハ一片ノ屆出タルニ止マリ何等屆出地ニ住居ノ形跡ナク從テ戸數割戸別割等ノ賦課徵收ハ事實ニ基ツキタルモノニアラスシテ原告ハ町村公民權ヲ有セス從テ群會議員ノ被選擧權ヲ有セサルコト明ナルニ依リ原告ノ請求ヲ棄却セラレタシト謂フニ在リ

理由

按スルニ本訴唯一ノ爭點ハ原告カ日高村ノ內日置村ニ一戸ヲ構フルヤ否ヤニ在リ原告ハ寄留ノ屆出ヲ爲セルコト商業ヲ營メルコト及縣稅戸數割營業割竝ニ村稅戸別割營業割ヲ負擔セルコト等ノ事實ニ依リ原告カ一戸ヲ構フルコト明白ナリト主張スト雖モ商業ヲ營ムコト及之ニ關スル租稅ヲ負擔スルコトハ一戸ヲ構ヘサル者ニ於テモ有リ得ヘキ事實ナルカ故ニ之ヲ以テ原告カ一戸ヲ構ヘタルコトヲ證スルニ足ラス寄留ノ屆出ヲ爲セルコト及縣稅戸數割村稅戸別割ヲ負擔スルコトハ依テ以テ一應原告カ一戸ヲ構フルコトヲ推定スルニ足ルカ如シト雖モ被告ノ提出シタル乙第一號證中兵庫縣內務部長不破蒼麿ノ照會ニ對スル同縣城崎郡長內海忠誨ノ回答書兵庫縣屬長濃貞夫ノ實地調査復命書同人ノ問ニ對スル日高村長代理助役上阪豐治ノ辯明書及日高警察分署長心得袋景成ノ答書等ノ記載ヲ綜合シテ之ヲ觀察スレハ原告カ日置村ニ寄留スト曰フハ單ニ寄留ノ屆出ヲ爲シタルニ止マリ日高村長カ之ニ縣稅戸數割及村稅戸別割ヲ賦課セルモ亦單ニ其屆出ト本人ノ陳述トニ基ツキタルモノニシテ原告ハ依然日高村ノ內鶴岡村ノ父六右衞門方ニ住居シ日置村ニ於テハ全然住居シタルノ實ナキモノト認定セサルヲ得ス從テ原告ハ日高村ニ於テハ一戸ヲ構ヘサルモノニシテ町村制第七條ノ要件ヲ具備セサルモノナルヲ以テ郡制第六條第二項ニ依リ郡會議員ノ被選擧權ヲ有セサルコト明白ナリ此他當事者ニ於テ種種陳辯スル所アルモ別ニ說明ノ要ヲ見ス依テ主文ノ如ク判決ス

◉縣會議員失職ニ關シ縣參事會カ與ヘタル不法決定取消ノ訴

明治四十一年第百十號
明治四十一年十二月二十五日第二部宣告（請求不立）

判決要旨

一、府縣會議員ニシテ瀆職法違反ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ直ニ其職ヲ失フ

廣島市觀音村千百九十五番地
原告　尾形武三郎
廣島縣參事
廣島縣知事
被告　宗像政

右當事者間ニ於ケル縣會議員失職ニ關シ縣參事會カ與ヘタル不法決定取消ノ訴文書ニ就キ審理判決スルコト左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實及理由

原告訴求ノ要旨ハ原告ハ廣島縣會議員ナリシカ廣島市會議長ノ選擧ニ付瀆職法違反トシテ明治四十一年一月二十八日廣島地方裁判所ノ公判ニ付セラレタリ然ルニ被告ハ之ヲ以テ縣會議員ノ職ヲ失シタルモノト決定シタルハ不法ナルヲ以テ其取消ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ瀆職法違反被告事件ニ付廣島地方裁判所ノ輕罪公判ニ付セラレタルヲ以テ市制第九條第二項及同第十二條第一項但書ニ依リ市會議員ノ選擧權ヲ有セルニ至リ從テ府縣制第六條第二項ニ規定シタル縣會議員ノ被選擧權ヲ失フニ至リタルヲ以テ府縣制第三十七條第一項及第三項ニ依リ失職ノ決定ヲ爲シタルモノナレハ原告ノ請求ハ排斥セラレ度シト云フニ在リ

按スルニ府縣制第三十七條第一項ニハ府縣會議員ニシテ被選擧權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ云云トアリ又市制第九條第二項ニハ市公民タル者公權停止又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス（中略）又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シトアリ又市制第十二條第一項但書ニ依レハ公民權ヲ停止セラレタル者ハ選擧權ヲ有セサル旨ノ規定アリ是等ノ規定ニ依レハ府縣會議員ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ直チニ市公民タルノ權ヲ停止セラレ從テ市會議員ノ選擧權及府縣會議員ノ被選擧權ヲ失ヒ又從テ府縣會議員ノ職ヲ失フヘキコト明ナリ而シテ原告ガ廣島市ノ公民ニシテ廣島縣會議員タリシニ廣島市會議長ノ選擧ニ關シ瀆職法違反ノ爲メ明治四十一年一月二十八日廣島地方裁判所ノ公判ニ付セラレタルコト明カナルカ故ニ原告ハ同日ヲ以テ廣島縣會議員ノ職ヲ失ヒタルモノトス原告ハ瀆職法ハ單獨法ニシテ刑法ニハ關係ヲ有セサルニ依リ公權停止ヲ附加スヘキモノニアラスト云フモ瀆職法第一條第一項ノ重禁錮ハ舊刑法第八條ノ輕罪ノ刑ニシテ同法第三十三條ノ規定ニ依リ公權停止ヲ附加スヘキモノタルヤ明カナレハ原ノ告主張ハ理由ナシ依テ主文ノ如ク判決ス

◉村會議員違法選擧取消訴願ニ對スル縣參事會裁決取消ノ訴

明治四十一年第百二十一號
明治四十一年十二月十八日第二部宣告　（請求不立）

判決要旨

一、選擧掛ニ於テ投票ヲ行フ爲メ一時自席ヲ離ルルモ之カ爲メニ選擧掛ノ資格ヲ失フモノニアラサレハ其離席シタル故ヲ以テ選擧ヲ違法ト爲スヲ得ス

一、町村制第二十條ノ規定ニ依リ選擧掛ヲ選任スルニハ選擧人タルコトヲ要スル外何等ノ制限ナケレハ被選擧人ノ氏名ヲ自書スルコト能ハサルノ故ヲ以テ選擧掛タル資格ナシト云フヲ得ス

原告　秋田縣雄勝郡秋ノ宮村　菅原辨藏外二名

原告兼訴訟代理人　秋田縣參事會　秋田縣知事　兼子邦雄

被告　秋田縣屬　森正隆　訴訟代理人　柏谷高英

右當事者間ニ於ケル村會議員違法選擧取消訴願ニ對シ與ヘラレタル縣參事會ノ裁決取消ノ訴審理

判決スル左ノ如シ

主文

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

事實

原告訴求ノ要旨ハ第一明治四十年十月二十四日執行シタル秋田縣雄勝郡秋ノ宮村會議員一級定期改選選擧ニ付選擧掛長村長戸島通敏ハ選擧掛トシテ選擧人中ヨリ菅榮藏及由利養助ノ二名ヲ選任シタルモ右兩名ハ選擧人トナリテ投票ヲ爲シ其投票ヲ行フ場合ハ選擧掛ノ資格ヲ失フモノニシテ其投票中ハ選擧掛一名トナリタルニ拘ラス其補欠選任ヲ爲ササルハ町村制第二十條ノ規定ニ違背セルモノナリ第二選擧掛由利養助ハ被選擧人ノ氏名ヲ自書スル能ハサル如キ無筆者ナルヲ僥倖トシ選擧掛長ハ選擧掛菅榮藏ト共ニ任意ニテ町村制第二十三條ノ各項ヲ議決セシハ是亦同條ノ規定ニ違背セルモノナリ以上ノ如ク本件選擧ハ不法ノモノナルニ被告ハ原告ノ訴願ヲ排斥シ本件選擧ヲ有效ナリト裁決シタルハ不當ナルヲ以テ本件被告ノ裁決ヲ取消シ更ニ選擧ヲ行フヘシトノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ選擧掛カ投票ヲ行フ場合ハ其資格ヲ失フモノナルヲ以テ其投票中ハ選擧掛一名トナリタルニ補欠ヲ爲ササルハ町村制第二十條ノ規定ニ違背スルモノナリト云フモ同條ノ規定ハ同制第二十三條ノ議決ヲ爲スノ場合ニ於テ掛長ヲ合セ奇數ノ人員ヲ要スルカ爲メニシテ選擧掛カ投票ヲ行フ爲メ一時離席スルモ選擧掛ノ資格ヲ失ハス其離席ノ間ニ於テ投票ニ關シ議決ヲ

爲シタルコトナキ以上ハ此離席ヲ以テ違法ナリト云フヲ得ス又原告ハ選擧掛由利養助ハ無筆ニシテ町村制第二十三條ノ各項ヲ議決スル能力ナキヲ僥倖トシ選擧掛長ハ選擧掛菅榮藏ト任意ヲ以テ投票ノ效力ヲ決シタルハ違法ナリト云フモ同制第二十條ニ依リ選擧掛ヲ選任スルニハ何等ノ資格要件ヲ定メタルモノナキヲ以テ被選擧人ノ氏名ヲ自書スル能ハサルトノ理由ニ依リ選擧掛タル資格ナキモノト云フヲ得ス又選擧掛長カ同人ノ無筆ナルヲ僥倖トシ他ノ選擧掛ト共ニ隨意ニ投票ノ效力ヲ決定シタリトノ事實ハ何等證スヘキモノナキヲ以テ原告ノ主張ハ不當ナリ依テ被告ノ與ヘタル裁決ハ相當ニシテ取消スヘキモノニアラサレハ原告ノ請求ハ排斥セラレ度ト云フニ在リ

理由

原告ハ選擧掛タル菅榮藏及由利養助ニ於テ投票ヲ爲ス爲メ一時其席ヲ離レタルヲ以テ選擧掛ノ資格ヲ失ヒタルモノナルニ選擧掛長ガ選擧掛ヲ補充セサルハ町村制第二十條ノ規定ニ違背スルモノナリト主張スルモ選擧掛カ投票ヲ行フ爲メ一時自席ヲ離レタルコトアルモ爲メニ選擧掛ノ資格ヲ失フモノト云フヲ得サレハ其離席シタルノ故ヲ以テ本件選擧ヲ違法ト云フヲ得ス又原告ハ選擧掛由利養助ハ被選擧人ノ氏名ヲ自書スル能ハサル如キ無筆ノ者ナルヲ以テ選擧掛長ハ之ヲ僥倖トシ選擧掛ノ一名菅榮藏ト任意ヲ以テ投票ノ效力ヲ決シタルハ選擧ノ規定ニ違背スルモノナリト云フモ町村制第二十條ノ規定ニ依リ選擧掛ヲ選任スルニハ選擧人タルヲ要スルノ外何等ノ制院ナキヲ以テ被選擧人ノ氏名ヲ自書スルコト能ハサルノ故ヲ以テ選擧掛タル資格ナキモノト云フヲ得ス又養助ノ無筆ナルヲ僥倖トシテ選擧掛長カ他一名ノ選擧掛ト任意ヲ以テ投票ノ受理並ニ效力ヲ議決シタリトノ主張ハ毫モ其立證ナキヲ以テ之ヲ認ムルエ由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ被告ノ裁決ハ相當ニシテ取消スヘキモノニアラス

依テ主文ノ如ク判決ス

◉不當處分取消國有森林下戻請求ノ訴（明治三十七年第八百三十一號　明治四十一年十二月十九日第一部宣告）

判決要旨

一、起訴者カ地盤ニ對スル租稅ヲ納メ公然山手米ヲ徵シテ他村ニ入會ヲ許シタル事實ハ請求地ヲ所有シタルモノト認ムルニ足ル

原告　山形縣西田川郡田川村　大字砂谷　訴訟代理人　長峰安三郎

同村村長　右代表者　栗本久兵衛

農商務大臣男爵　被告　大浦兼武　訴訟代理人　濱地八郎

右當事者間ノ明治三十七年第八三一號不當處分取消國有森林下戻請求ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

主文

土地所有ノ證明

被告ハ山形縣西田川郡田川村大字砂谷字澤道四十七番森林三十一町九反七畝歩ヲ原告ニ下戻スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事實

原告陳述ノ要旨ハ本件請求ノ森林タル現時原告大字ノ一部分ヲ成ス舊長瀧村ノ所有ニ係リ大字少連寺村境ニ接シ東ハ川ヲ以テ限ラレ東北ハ姥ケ澤口ヨリ西南峰通リヲ以テ大字少連寺ニ境シ南ハ梟ケ澤峰通リニ及ヘリ而シテ本件土地ニ付テハ寶曆以前ニ於テ一度舊長瀧村ト舊少連寺外一个村トノ間ニ爭訟起リ長瀧村ノ所有ナル旨裁許セラレ同時ニ長瀧村ニ於テ年年山手米二俵ヲ徵シテ右少連寺外一个村ニ柴草苅取ノミヲ許スコトトナリタルヲ寶曆十二年ニ至リ右二个村ヨリ地元長瀧村ニ於テ炭燒畑等自由ニ該地ヲ使用スルニ拘ハラス己等ヲ排斥シタリトシテ郡奉行ニ訴ヘ出タルモ尋問ノ末其ノ心得違ナル旨ヲ說諭セラレテ之レニ承服シ以來元ノ如ク山手米二俵ヲ長瀧村ニ出シ柴草ノミヲ採取シ地租改正當時ニ及ヒタル事實ナルカ故ニ長瀧村ノ所有タリシコト明瞭ニシテ從テ舊長瀧村ト舊砂谷村ト合併成立セル原告ノ所有ニ屬スヘキモノナルニ被告カ下戻申請ニ對シ不許可ノ指令ヲ爲シタルハ不當ナルヲ以テ請求地ヲ原告ニ下戻スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リテ甲第一號證乃至甲第十號證ヲ提出セリ

被告答辯ノ要旨ハ甲第一號證ハ場所ノ該當不明ナルノミナラス願書ニシテ證據力ナク又毛上ノ關係ヲ立證スルニ過キサルニ甲第三號證ニ依リ其ノ事實否認セラレ甲第二號證ハ甲第一號證ニ依レハ取下ケラレタルモノナルヿ明カナリ加之甲第三號證ニ依レハ原告村カ毛上ノ權利スラ否定セラ

レ三个村入會木柴野ニシテ地盤ノ所有ナキヿ明カナリ甲第四號證乃至八號證ハ場所ノ該當不明ニ屬シ甲第十號證ハ原告村長ノ證明書ナルヲ以テ其內容信スルニ足ラス以上ノ理由ニ依リ原告ノ請求ハ不當ナルヲ以テ原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

理由

被告ハ甲第三號證ニ「云云少連寺村仲村ヨリ一个年山手米二俵ツヽ年々長瀧村ヘ差越右村斗ニ而木柴山業致來候段是村申及言分申出候ニ付相糺候處證據モ無之申傳一通ニ而彼是申遣候段不屈ノ至ニ候云云」トアルヲ以テ原告ハ毛上ノ權利スラ有セサルモノナリト主張スルモ甲第一號證ハ少連寺外一个村カ本件ノ原告砂谷ノ構成部分タル舊長瀧村ヲ相手トシテ姥ケ澤口ヨリ左ノ方ハ蟹澤ノ嶺迄右ノ方ハふくろか澤ノ嶺限マテハ長瀧村地元ナリト雖其ノ內ノ一部即チ右ノ方計ふくろか澤ノ嶺マテハ長瀧村ニ對シ山手米二俵ヲ出シ二个村ニ於テ採取權ヲ有シ長瀧村ハ採取權ヲ有セサルニ二个村ノ專占ヲ認メス毛上ノ採取燒畑ノ經營ヲ爲スハ不當ナリトノ訴ニ對スルモノナルカ故ニ甲第三號證ハ少連寺村外一个村カ此ノ地域ニ於テ長瀧村ヲ排斥スルノ權利アリトノ主張ヲ否認シタルニ止マリ長瀧村カ地籍內タル姥ケ澤口ヨリ梟ケ澤嶺マテノ地域ニ於テ山手米二俵ヲ徵收シ少連寺村外一个村ニモ毛上ノ入會ヲ許シタル事實ヲ否定シタルモノニアラス而シテ甲第四號證ノ米五俵二斗山御年貢ト甲第五號證ノ米二石二斗ハ換算上同一數量ニシテ兩者共ニ同一地ニ關スルモノト認ムルヲ得ヘク甲第五號證ノ山稅但反別不知ニ依レハ米稅ハ地盤ニ課シタル租稅ト認ムルヲ得甲第四號證ノ(米五俵二斗內二俵少連寺村ヘ貸地代米ニ依レハ姥ケ澤口ヨリ梟ケ澤嶺切マテ